

地域おこし協力隊事例集



くらしの中に

総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

令和7年8月
総務省 地域力創造グループ
地域自立応援課

地域おこし協力隊事例集について

- 地域おこし協力隊の活動内容を活動分野別にまとめた「地域おこし協力隊事例集」を令和 7 年 8 月に作成・公表。

<掲載イメージ>

北海道石狩市 竹林 秀

基本情報



【年 齢】
24歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
東京都杉並区
【前 職】
法律関係
【活動時期】
R5.3～

協力隊に応募したきっかけ

学生時代のころから厚田のことを知っており、よくドライブに来ていました。特に豊富から見える夜景に惚れ、10年後ぐらいには住みたいなとざっくり考えていました。タコ飯を作っている方とは以前から知り合いで、東京から帰省するたびにお邪魔していたのですが、実はタコ飯の後継者を地域おこし協力隊として募集しているんだよねというお話を聞き、厚田に住むなら今ではないかと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

来年からは通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。また、最も重要な拠点づくりに関しては、大きなお金がかかること、屋根の修復等専門な知識が必要なこと等多くの困難があります。協力隊後を見据え、いつでも住むことができるように冬の間に計画を立て、来年までには使えるような状態にするために専門的な知識や資格の習得や、拠点づくりに取り組んでいきたいです。また、来年も引き続き地域との交流を深めて顔を覚えてもらいたいです。

商品開発・販売

活動内容

●地域の特産品（「タコ飯」の継承）

石狩市初めてのミッション型地域おこし協力隊として、地域の特産品「タコ飯」の継承を中心に活動しています。とはいえ、地域の方とも接したくて協力隊になったので、まずは地域のイベントや他の協力隊のイベントに参加、お手伝いすることを中心に活動しています。

ミッションであるタコ飯も一通り一人で作れるようになりました。二年目からはタコ飯を作る速度のスピードアップとともに、タコ飯の課題解決、拠点づくりを手がけていきたいです。



タコ飯は一通り作れるようになりましたが、活動していく中で課題が多く出てきました。まずはタコ飯を作るスピード、次にタコ不足、最後に最も重要なものが拠点づくりです。来年からは一日300個を一人で作れるようにスピードを上げること、今年は8月でタコが無くなってしまったので、通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(職場)) r2303001@city.ishikari.hokkaido.jp
(電話番号(職場)) 0133-78-2020

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(フェイスブック) <https://www.facebook.com/vladimir.lewis.39>

<活動分野>

- 1 移住・定住促進
- 2 不動産利活用
- 3 観光・情報発信
- 4 商品開発・販売
- 5 地域コミュニティ活動
- 6 漁業・水産業
- 7 農業・林業
- 8 環境保全・自然保護
- 9 医療・保健
- 10 デジタル
- 11 教育・文化
- 12 スポーツ
- 13 事業承継

01 移住・定住促進

基本情報



【出身地】
埼玉県上尾市
【転出元】
東京都新宿区
【前 職】
大学講師
【活動時期】
R6.9～現在

協力隊に応募したきっかけ

知人の紹介で日高町日高地域を訪れ、移住体験や自然体験、地域の皆さんとの交流を通じて、日高地域の魅力を感じることができました。また、日高地域の現状や課題、資源や可能性についても話を聞き、興味を持ちました。特に今後増加が見込まれる外国人旅行者の受け入れが課題になっていると聞き、私が東京で運営している民泊の経験がここでも活かせると感じていました。地域の皆さんと協力しながら、外国人旅行者が滞在できる、地域の交流拠点としての宿泊施設を開設したいと考えています。

今後の抱負・任期後の目標

当面の目標として、1年以内に外国人旅行者が滞在可能な宿泊施設をオープンさせたいと考えています。また3年以内に複数の宿泊施設を開設し、運営を軌道に乗せたいと思います。開設および運営にあたっては、地域内の観光事業者の皆さんと協力して、ゲストに様々な体験を提供することで、地域のファンになってもらい、口コミを通じてより多くのゲストが地域を訪れる、そんな宿泊施設の実現を目指します。

活動内容

●空き物件情報の収集

地域内で活用されていない空き物件の情報を収集し、宿泊施設や賃貸物件として活用可能か検討します。情報収集にあたっては地域住民の皆さんや地域内の事業者とのコミュニケーションを積極的に行います。



●宿泊施設の開設

地域の事業者と連携して、外国人観光客が滞在可能な宿泊施設の開設および運営を行います。開設にあたっては、資金の調達や物件の取得、修繕、屋内外設備の設置、消防署・保健所への許認可申請、規約の作成、ウェブサイトの開設、予約サイトへの登録など様々な工程・手続きが必要です。



●SNSによる情報発信

宿泊施設の情報のみならず、地域内の観光スポットや飲食店、体験できるアクティビティなど、訪問者に有用な情報を取材し、SNSによる発信を行います。

SNSの発信においては、北海道旅行に関心がある外国人観光客にリーチできるよう、その手法についても情報収集を行います。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人)) aandh0309@gmail.com

(電話番号(職場)) 01457-6-2008

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

現在準備中

基本情報



【年 齢】
30歳
【出身地】
兵庫県明石市
【転出元】
兵庫県神戸市
【前 職】
株式会社フェリシモ
【活動時期】
R5.5～R8.4
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

秋田市にある秋田公立美術大学へ進学し、卒業後はそのまま秋田市内のテレビ局に就職したことで7年間秋田市で暮らした経験がある。コロナ禍で都会での生活との差があまりないことに気づきもう一度秋田市に住んでみるのいいと感じた。ある程度の土地勘や事前の知識もあり、会社員ではない働き方をしてステップアップのきっかけにもしたいと思い応募。

今後の抱負・任期後の目標

協力隊になって半分、折り返し地点に来ました。この1年半でたくさんの方と出会い、イベント運営や情報発信など活動範囲を広げてきました。3年目は最後の年なので引き続き情報発信や地域行事を盛り上げる活動をしつつ、退任後の起業の準備をします。また、秋田県や秋田市特有のもののイラストをオープンデータとして広く市民が利用できるようなイラストの作成、発信を予定しています。卒業後は秋田市内でクリエイターとして活動していく予定です。

活動内容

●移住者相談ツアー

移住を考えている方へオーダーメイドでツアーをプランニングして案内をする。幼稚園や小学校、暮らしやすいエリア、素敵なお店などお客様が移住において気になっていることや希望をヒアリングし、アボを取って組み立てる。移住者としてどれだけ秋田市での暮らしをイメージできるかがポイント。



●SNS発信やデザイン業務

強みであるSNS発信とデザインを生かしてInstagramを主なベースとして活動の発信をしている。市役所主催のイベントなどの告知もチラシや、リアル動画などを作る。今年度になってから動画の本数も増えた。地元の人も県外の人も両方楽しめるかを大事にして制作活動をしている。



●ラジオコメンテーター

ABSラジオ番組「協力隊のシン・チカラジオ」のコメンテーターを務める。秋田県内の協力隊をゲストに、どんな活動をしているのか、今後の目標、他愛もない雑談をする番組。昨年から1年間継続しており、今までに24回の放送に出演し、多くの協力隊との繋がり人に伝えることができています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) 04kanata10@gmail.com
(電話番号(個人)) 080-4242-7018

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://lit.link/kanatananoka>



KANATA_AKITA

基本情報



【年 齢】
60歳
【出身地】
東京都調布市
【転出元】
東京都府中市
【前 職】
コンビニ大手に34年間
流通ITコンサルタント
【活動時期】
R6.4～現職

協力隊に応募したきっかけ

R6年3月で60歳になり、雇用延長のお誘いは有ったのですが、もう満員電車には乗りたくない、この機会にスロースライフに移りました。もともとこのタイミングは狙っていきまして、R5年8月に某島で島暮らし体験のお世話になり、そこで協力隊の活動を知りました。戻って調べると八丈町で募集していたのでともかく応募したところ、採用のご縁を頂けた次第です。結果オーライの着任と移住になっています。

今後の抱負・任期後の目標

東京からたった55分の南国では有るんですが、全国的な知名度が低いので、ともかく一度観光でも島へ来て頂く必要があります。
町の目的である「定住者増」に向けて「知って貰う」と言う観点で特に観光と両輪で、島へのインビテーションを進めて行きます。
任期中に何かしらのレガシーを遺したいと日々考え続けていますが、まずはどこかのタイミングから「人口減を横這いにする」ですね。

活動内容

●移住希望者の勧誘

移住・定住ガイドブックを刷新して、9月都内で行われた移住定住フェアから活動を本格化しました。ガイドブック作成に当たっては町内の複数の移住者に話を聴いて島のアドバンテージを「子育て∞」と定め、初めてピンポイントのターゲット層に訴求してみました。島暮らしの大変さも載せています。



●住まい不足の解消に向けて

毎年100人近い人口減は少子高齢と空き家増を加速させます。すべての賃貸空き物件が町の不動産屋さんの媒介に乗るわけでも無いようで、本土から八丈の住まい探しは苦労します。少しでも役に立てばと自分のブログでアドバイスも始めています。



●島の魅力情報を島外へ発信

島内のSNSはXがポピュラーですがなかなか島外の、八丈島に興味のある方へ届きにくくなっています。そこで町の産業・観光振興をビジュアルに取り上げる活動を始めました。9月に広報担当の隊員が増えたので八盛隊（はちもりたい）チームで協力して行きます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））ha130@town.hachijo.tokyo.jp
（電話番号（職場））04996-2-1120

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（八丈町地域おこし隊（八盛隊）Instagram）



基本情報



【年 齢】
64歳
【出身地】
新潟県新発田市
【転出元】
東京都八王子市
【前 職】
会社経営
【活動時期】
R6.8～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

新潟県新発田市で生まれ育ち18歳で進学のため東京にきました。当時は東京はとても自由で魅力でした。仕事もたくさんありサラリーマンを経て30歳で住宅リフォーム会社を起業しました。年に1～2回は帰郷していたので年を取るにつれて新潟（地域）の魅力にひかれていきました。地域の住まい方にとっても興味を持ちました。東京は土地代が高いので高額のリフォームを組んで狭い家に住み通勤もきつうつらそうな人をたくさん見てきました。地域の人々は逆に幸せそうに見えました。地域住まいを発信し空き家活用などで自分の経験や知識が生かせるのではないかと考えたのがきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

空き家の調査掘り起こしや利活用などで経験や知識を生かし少しでも地域に貢献できればと思っています。

任期後は住まいのリフォームや建物管理関連企業の支援や起業を目指しています。

活動内容

●空き家の調査と掘り起こし

空き家の調査と空き家バンクの活用促進を図っています。

空き家は状態の良い物件、今では建てることのできない古民家もたくさんあり、利活用できるよう活動しています。



●ワーキングホリデーや空き家見学时に市内を案内

妙高市の魅力はお米とお酒。ワーキングホリデーや空き家見学などで妙高市を訪れた方に、有名な酒蔵など地域の魅力もしっかりアピール。妙高市を好きになってもらうのも大事な仕事のひとつです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(職場)) chiikikyosei@city.myoko.niigata.jp

(電話番号(職場)) 0255-74-0064

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

facebook: <https://ja-jp.facebook.com/tiikinokosi>

Instagram:

https://www.instagram.com/myoko_chiikiokoshi/?utm_medium=copy_link

基本情報



【年 齢】
26歳
【出身地】
東京都足立区
【転出元】
東京都足立区
【現職】
株式会社SpAcE
代表取締役
【活動時期】
R5.7月～

協力隊に応募したきっかけ

新潟市地域おこし協力隊員に応募した原点は、私が初めて新潟へ訪れた時に感じたことでした。新潟市は、人と自然が調和しており、食文化にも恵まれ、さらに日本酒の酒蔵さんも多いことから、十分に都内からの関係人口を増やせるコンテンツはあるのに、中々増やせていないという現状がとても勿体無いと感じました。今後移住者や、テレワーカーの方達にとって、魅力的で有力な候補地だということを、より一層多くの人たちに伝えていきたい！と想いもあり応募させていただきました。

今後の抱負・任期後の目標

私は、東京でも活動拠点（丸の内・日本橋兜町）を持っているので、新潟市へのより多くの移住者や関係人口を増やすためのアクションとして新潟市と東京を繋ぐ役目を果たし、人と人の出会いによって更に盛り上がる新潟市を作っていきます。また、任期後は新潟市へ旅をする人や通う人を「風」。地元の方々や、その地に根付こうとする移住者などを「土」と見立て、土地の歴史や背景を共に大切に、土壌を耕すように共に育む仲間によって重なっていく「風土」を未来へ繋いでいく。そんなまちづくり事業を法人で立ち上げるのが目標です。これからが楽しみです。

活動内容

●新潟市ワーケーションツアー

海や山など豊かな自然にあふれ、人のあたたかな新潟県新潟市。世界に誇る日本酒酒蔵や、歴史深い日本文化財、人情溢れる古町の街通りなど二拠点生活や移住をイメージしたり、ライフスタイルに触れられるツアーをしています。地域の人とその暮らしに触れることで、「ここで暮らしたい」がきっと見つかる旅になるはずです！ぜひお気軽にご参加ください！



●移住者Podcast

新潟市地域おこし協力隊の小林がお送りする番組『小林、早く呑みたいってよ。』を定期的に収録し公開中。



この番組は、新潟市地域おこし協力隊の私、小林がパーソナリティとして、新潟市へ移住してきた方をゲストとしてお招きし、会話を通して、リスナーへ新潟市の魅力や、新潟市への移住もいいなあと感じてもらふ番組となっています。

●移住BAR

東京での活動拠点（丸の内・日本橋兜町）を中心に移住に興味がある・気になる方を対象に開催しています。新潟の地酒・日本酒を試飲していただきながら、私だけではなく参加していただいた方同士でも交流ができるようなBAR TIMEを創っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) rio.koba2017@gmail.com
(電話番号) 090-6703-4624

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) https://www.instagram.com/rio_niigata_area/



基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
東京都品川区
【転出元】
大阪府大阪市
【前 職】
関西大学生
【活動時期】
R5.11～R8.11

協力隊に応募したきっかけ

大学で、地域コミュニティの場である銭湯の持続可能性に関する研究をしていて、大野市の亀山湯で、まき割りや湯たきなど「弟子入り」と呼んでいる就業体験を行い、番頭のおんちゃんと一緒に汗を流した経験がありました。大学卒業後は、都心の大学院への進学や設計事務所への就職を考えていましたが、大野市に関わり続けたいとも思っていました。そんな時に、大野市が「関係人口創出コーディネート」として地域おこし協力隊を募集していることを知り、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

インターン企画について、今後は、夏・冬の定期開催に加え、地域の暮らしや課題に学生が主体的に関わる学びの場として、プログラムの質をさらに高めていきます。受入事業者の拡充や大学との連携強化を進め、地域との持続的な関係性を築くとともに、自走可能な運営体制の構築を目指します。都市部の学生が一つの地域に関わりつづけるという、地方と都市をつなぐ実践的なモデルとして成長させていきたいです。

活動内容

●都市部の大学生を対象にしたインターン企画の実施

冬の大野市には、雪かきなど、豪雪地帯ならではの生活習慣があります。地域で働きながら、まちづくりの現場や雪国の冬の暮らしを体験してもらうインターン企画を実施し、関東、関西から6名の大学生を受け入れました。一部の学生は、インターン後も大野市を訪問してくれています。



●銭湯を生かした関係人口の創出

県外、市外から大野市に関わり続ける人を増やすために、既存施設の活用や若者によるまちづくり活動の支援も行っています。市内の銭湯「亀山湯」を「まちをわかす拠点」として活用するために、付近の亀のつく飲食店とのコラボや、新たに休憩所を設置する社会実験も行いました。



●特技を生かして地域のお祭りに出店

大学時代のアルバイトでスパイスカレーの魅力にはまり、オリジナルカレーが作れるようになりました。最近では、スパイス好きな住民の方々と共に「奥越スパイス研究会」を立ち上げ、地域のイベントなどで、オリジナルカレーを提供しています。今後も、地域を盛り上げるため、少しずつ出店する機会を増やしていきたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス） takeshi3kawa01@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram: <https://www.instagram.com/onoyokomachistudio/reels/>
（所属する団体「横町編集部」で地元の情報を発信しています）

基本情報



【年 齢】
28歳
【出身地】
東京都墨田区
【転出元】
神奈川県藤沢市
【前 職】
他拠点居住サービス
【活動時期】
R4.4～R7.3（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

塩尻には、着任前からプロボノで足を運ぶ機会があった。一見すると、どこにでもある普通の田舎という印象を受けたが、実際には、熱量高い個性豊かなプレイヤーがたくさん活動をしていることを知った。この町から「何か大きな“起こり”が生まれそうだな」というワクワク感と、その波に自分も当事者として関わりたいという想いが芽生えるようになった。また、本業（定額4.4万円で全国住み放題サービス）の事業と関係人口創出は、非常に結びつきが強いため、シナジー効果も生み出せるのではないかとこの可能性を感じ応募。

今後の抱負・任期後の目標

- ①関係人口創出の先行事例をどんどん作っていく！
- ②地域の課題と伸び代を見つけていく！
- ③自分ごと化できる問題や課題を発見する！

活動内容

●塩尻CxOLabプロジェクト

今期で3期目を迎える、地域課題解決実現に向けた関係人口オンラインコミュニティ「塩尻CxO Lab」の運営事務局を担当。CxOLab参加者が、どのような体験や思考を経ていくことで、塩尻市との愛着や、そこからさらに地域の課題を自分ごと化させ、プレイヤーに変換できるかを設計。



●「空き家」を活用した、関係人口創出プロジェクト

空き家再生の0→1プロセスって、色々な学びの要素が詰まっているのではないかと？地域に居場所を求めている方が自ら汗をかいて居場所づくりをするって、今までの関係人口創出施策と、一味違う体験や繋がりを生み出せるのではないかと？そんな仮説のもと、有志メンバー（ADDRESS会員、CxOLab参加者）と株式会社ADDRESS社を巻き込みながら、始動。



●IT技術を活用した自律分散型のコミュニティの立ち上げ

『塩尻CxOLab』から生まれる、人の変化や成長、事業やプロジェクトの推進という価値をさらに加速/拡大することを目的として、この活動を持続可能的かつ、自律的に運営する組織形態や仕組みづくりを行なっています。プロジェクトの立ち上げにはCxOLabの有志メンバーがファウンダーとして入り、NFTなど技術導入を検討しながら、構想設計を行なっています。

連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100028181419876>

基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
三重県松阪市
【転出元】
三重県松阪市
【前 職】
旅行カウンター
【活動時期】
R4.6～R7.5

協力隊に応募したきっかけ

もともと三重県が大好きで、ドライブをしながら三重県の南部、東紀州エリアを何度か訪れていた時、九鬼町に出会い、景観に一目惚れしたことがきっかけで九鬼町だけではなく、尾鷲市や協力隊に興味を持ちました。何度か訪れ、たくさんの方々とお会いしていく中で、尾鷲市で活動している方々がみんな生き生きとしていたこと、東京など都会から学生たちもたくさん集まってきていて、そこに地域のお店や地元の方とのつながりもあり、人と人が自然に繋がっていく事にとっても魅力を感じ、私も尾鷲市で協力隊として活動をしていきたいと思い応募いたしました。

今後の抱負・任期後の目標

空き家バンク業務を中心に活動している中で、日常的に尾鷲市民の方や、移住されたい方、どちらにも出会える特別な立場として、ただ単純に移住者を増やすことを目的とせず、“人と人”、“まちと人”を繋げていけるよう、移住だけに限らず何かしらの様々な関わりしるを作っていきたいなと思っています。

任期後は、引き続き毎週金曜日のラジオ体操を行い、現在住んでいる家を拠点に地域内の困り事と地域外の方の手を繋げる仕組みを作りたいと思っています。暮らすことで地域へ還元し、役割をすることで居場所となることを改めて実感できたこの経験を通して、このまちで暮らす理由そのものを体感してもらいながら伝えていきたいなと思っています。

活動内容

●空き家バンク

お家を手放されたい、貸し出されたい所有者様と、借りたい買いたい利用者様をご紹介するサービスとして運営しています。基本的には、登記簿の確認、現地にて写真撮影や図面の作成、HP掲載など一連のことを担っており、利用希望様が合った場合には物件へのご案内や町のご紹介などもしています。ご案内時には、特に所有者様が大切にしている思いや当時の暮らしをなるべくお伝えするように心がけております。

●移住体験住宅「みやか」運営

移住を検討している方が1～3ヶ月間利用できる施設として運用しており導入を始めてから7年が経過しました。合計で9組16名の方が移住または2拠点居住へと繋がっております。入居時には町内の方々へのご挨拶やまち歩きをしながら、様々な方のご紹介をし、毎週金曜日に行われるラジオ体操を始め、九鬼町内のコミュニティセンターでのイベントやお祭りにも積極的に参加を促しています。ただ空き家を探すためだけではなく地域との交流を深めて頂くことを目的としていることで、移住が決まらなかったとしても関係人口として地域との関わりを継続することへと繋がっております。

●移住者交流会実施

今年は「ひものde交流会」をサポートセンターにて開催。賀田町と古江町に移住された方がご参加くださいました。移住後に孤立せず定住へと繋がることを目的として、これからも定期的に移住者交流会を実施していきたいと思っています。

●移住フェア/相談会への出展、自主企画の移住相談会@東京開催

毎年行われる東京や名古屋、大阪での県主催の移住フェアや相談会に出展しています。令和6年度は9月にふるさと回帰フェアへ出展。14組の方がブースへとお越しくださり、内数組が尾鷲市に興味を示してくださいました。

また、自主企画として東京にて移住相談会を3回ほど開催。1組の移住へと繋げることができました。何度かお越しくださっている方との繋がりをこれからも細く長く丁寧に続けていきたいと思っています。

連絡先

■おわせ暮らしサポートセンターInstagram



@OWASEGURASHI

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
広島県広島市
【転出元】
神奈川県秦野市
【前 職】
(株)日産自動車
新車開発・車体設計
【活動時期】
R4.10～R7.9

協力隊に応募したきっかけ

子育てをきっかけに妻の実家のある京都府北部への移住を決意しました。
仕事を探す中で、せっかくだからその場所でしかできないこと、地域に関われること、知り合いが増えそうなことをやりたいと考えていたところ、移住相談をしていた京都移住コンシェルジュさんから紹介いただきました。
自治体の雰囲気が良かったことと、受け入れ業者のKOKINの活動に興味を持ったことも決め手の一つです。

今後の抱負・任期後の目標

舞鶴市を若者のエネルギー溢れるまちにしたいと考えており、活動しています。学生をはじめとした若い人が何か挑戦をしたいと思った時に相談やサポートができるような場所を作っていきたいです。また、研修の開催など、学びを通じた人との繋がり作りも今以上に広げていきたいと思えます。

活動内容

●合同新人研修：舞鶴同期会の企画運営、講師

2023年度から、舞鶴同期会という合同新人研修を企画運営しています。初年度から10社から20名程度参加いただいております。大変参加者からも事業者からも好評のプログラムになっています。若手の繋がりづくりはもちろん、最終発表として自社のことを新人が発表できるようにすることで、将来的に学校などで若い職員が講演できるようにすることも狙いです。



●学生のためのコミュニティスペース「KATALab.」

地元の高校の先生と共に、学生のためのコミュニティスペース「KATALab.」を2024年3月から自主運営で立ち上げました。いつか舞鶴に帰ってきたいという学生を増やすことがテーマです。10月までにのべ1,000人以上の学生が利用しており、地元企業とコラボしたイベントや商品開発なども行っています。経費は企業スポンサーからの寄付で賄っています。



●市内中学校高校の探究学習・自主企画イベントのサポート

舞鶴内の高校や中学校各校に対し、探究学習のサポートや進路講演などを行うなど関わりを持っています。中学生がチャレンジカフェを開くサポートなどを授業で行ったほか、高校生が学校の枠を超えて、高校生が地域で好きなことを発表するイベントや大型音楽FESの開催といった自主企画イベントのサポートも行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人)) shota.harada.0925@gmail.com
(電話番号(個人)) 080-3173-3332

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(X) https://twitter.com/Sho_Maizuru
(Instagram) <https://www.instagram.com/shota.harada.39/>

基本情報



【年 齢】
36歳
【出身地】
韓国清州市
【転出元】
大阪府吹田市
【前 職】
会社役員
【活動時期】
R6.9～

協力隊に応募したきっかけ

義理の両親たちが丹後地域出身で何回も与謝野町に訪れていました。僕は都会よりも田舎の自然が好きで、自然で出来るアクティビティ（サイクリング・スイミング・スノーボード）が大好きです。与謝野町に訪問した時に、豊かな自然に囲まれて海や山、美しい平野がある与謝野町に魅力を感じました。特に与謝野町の方々の優しさに惹かれて与謝野町へ移住したいと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

三か国語（日本語・韓国語・英語）ができますので、それを活用して皆さんが泊まれる宿屋を運営したいです。与謝野町や丹後地域は、豊かな自然に囲まれており、自然を活かした体験もできる場所なので、泊まる方達が丹後地域をしっかりと楽しめる場所を提供したいです。

活動内容

●SNSを活用した情報発信

韓国出身の移住者から見た与謝野町や丹後地域の魅力をYoutubeで発信しています。地域行事や観光地などを撮影し自身が感じた事をコメントしながら魅力を伝えられるように動画を作成しています。一週間に一回の動画投稿をしています。今後は外国人旅行者達に対して与謝野町を案内し、観光・体験の様子を撮影し発信していく予定です。



●移住・定住促進活動

移住希望者を連れて与謝野町と丹後地域の魅力を紹介する地域案内をしています。また、案内と合わせて移住希望者が地域の方と交流できる機会をつくり、移住後の生活をイメージしやすくしています。



●地域行事への参加・与謝野駅周辺活性化活動

地域の運動会や祭りなど色々な行事に参加し、地域の方と交流しながら日本文化を体験しています。また、与謝野駅周辺の活性化を目的に活動する地域団体と協力してイベントを実施し、駅の活性化に取り組んでいます。地域の方を対象とした韓国語講座も駅で開催し、多くの人で賑わう場所にするための活動を進めています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））kakujinsoo@gmail.com

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
兵庫県神戸市
【転出元】
兵庫県神戸市
【前 職】
大学非常勤講師
一般社団法人代表理事
カメラマン
【活動時期】
R6.10～R8.9

協力隊に応募したきっかけ

スポーツは地域おこしの起爆剤となる。
そう大学2年生の時に確信し、スポーツの深さと広さを知るために大学院へと進学し、研究に明け暮れました。そこで得た知見を社会に還元するために起業しました。
スポーツを起爆剤として最大限に生かすためには、その受け皿である「移住・定住がスムーズに行える仕組み」が大切である考え、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

「ここに移住してきてよかった」「ずっとここに住み続けたい」と思ってもらえるよう、地域と密に連携し移住定住に向けたサポートを進めていきたいと思います。

活動をしていく中で民間だからこそのできる取り組みも出てくると思うので、任期後は町内での起業を目指しています。また、任期中に確立を目指す「移住・定住がスムーズに行える仕組み」を有効活用し、スポーツによる地域おこしにも注力したいです。

活動内容

●移住定住に関する相談業務・未利用地、空き家等の情報発信

市川町に移住・定住をしたいと思ってもらえる人を増やすための取り組みを企画実施したり、移住・定住をワンストップで実施するための最適解を見つけ、市川町に合った方法の確立を目指します。
カメラマンの経験を活かし、未利用地・空き家を魅力的に伝えられるような情報発信を行います。

●SNSを活用したまちの魅力発信、PR動画作成

町外にいたら、イベント情報が手に入りにくい。それぞれのイベント主催者のサイトなどに情報を取りに行かないと詳細が分からない。などの声を参考させていただき、さまざまな団体様と連携し情報発信するプラットフォームを構築する予定です。
そこでは、町の花であるひまわりの開花状況や、名産品などの情報も発信する予定です。



●交流体験事業の運営サポート

都市部在住の方が市川町へ、まずは遊びに、そして地域活動に参加していただけるような仕掛け作りをします。また、都市部の大学と連携し、大学生や大学周辺の小中学生が市川町ならではの体験ができるプロジェクトを進めております。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) kurasu.ichikawa@gmail.com
(電話番号(職場)) 070 - 3247 - 6671
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(インスタグラム) <https://www.instagram.com/kurasu.ichikawa/>



KURASU.ICHIKAWA

基本情報



【出身地】
鳥取県鳥取市
【転出元】
東京都練馬区
【前 職】
アパレル会社
ヨガスタジオ
【活動時期】
R4.11～

協力隊に応募したきっかけ

大学進学で上京して以来、帰省するたびに故郷の良さに触れ、いずれは鳥取県にUターンしたいと考えていました。転機が訪れ、移住を決意。ヨガインストラクターとして活動しつつ、子育てに支障なく働ける場所を探していたところ、「鳥取来楽暮」の移住コーディネーターにご紹介頂き、湯梨浜町の地域おこし協力隊に応募するに至りました。両親の実家が空き家になっていることや、移住相談にのっていただいたことで、空き家活用と移住支援に興味が湧きました。

今後の抱負・任期後の目標

2024年10月とっとり暮らしアドバイザーに就任しました。鳥取県に移住を考えている方に向けたツアーや相談会に参加し、サポートに尽力します。協力隊卒業後は、今行っているヨガ教室を軌道にのせることが目標です。2024年は、ヨガのインストラクターとして開催場所を拡大しました。普段と異なる場所に身を置いてヨガをする気持ち良さを実体験として感じているので、旅行で町内に来られた方向けの朝ヨガを、今後企画したいと考えています。

活動内容

●空き家利活用

写真は、2024年6月に開催した空き家利活用イベントのものです。空き家の所有者が認知機能の低下などの理由により、活用や処分に向けた手続きが難航するケースや、どうすればよいか困っている人が多いと聞きます。元気なうちに家族と話す、空き家利活用について相談するきっかけ作りに注力しています。毎月第4水曜日、中央公民館泊分館にて「空き家活用相談会」の開催もしています。



●移住支援

移住のきっかけは「一度訪れたことがある」ことが多いと耳にします。まず、来町してもらうきっかけをつくりたいと思い、2024年9月に「暮らすように体験する」をテーマに、ヨガやピラティスを用意した野外イベントを実施しました。町外からの参加者も多く、およそ200名の来場者で賑わいました。



●イベント企画

町の賑わいづくり、空き家利活用と移住支援の機運を高めるためイベントを随時計画しています。町民の皆様と交流しながら、町外への発信も行い、住みやすい町づくりのために貢献したいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) ymirai@yurihama.jp (電話番号) 0858-35-5313

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(ゆりはまフェローズ)

Facebook <https://m.facebook.com/100070449463097/>
Instagram @yurihama_fellows @tottoriakiko

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
オランダ
ズーテルメール市
【転出元】
長崎県長崎市
【前 職】
佐賀県庁 国際交流員
【活動時期】
R5.9～R8.8

協力隊に応募したきっかけ

長崎市に近い距離で、自然豊かで温かいコミュニティのある町で暮らしたいと思い、多良見町の大草という地域の穏やかな海、温かいコミュニティや楽しそうな暮らしぶりに惹かれました。

自分の住む場所や働く環境を整えつつ、今の多良見の資源を守りながら活かし、地域の活性化に貢献したいと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

- ・協力隊の活動地域に、将来住む家を見つけること、または建てること。
- ・仕事をしながらも、家庭菜園、養蜂、釣りなどで自然とつながった暮らしをすること。
- ・地域コミュニティの一員として貢献し続けること。

活動内容

●農村の維持・活性化に向けた支援

人口減少が著しい多良見地域の農村のあらゆるサポートを行っています。みかん農家のお手伝いをしながら農業を知り、柑橘ソムリエの資格を得て多良見のみかんの魅力をより多くの人に伝えていきます。

また、地域と一緒に活動し、大草地区の耕作放棄地を農業体験などに活用しており、段々畑の石垣保全を目的とした体験型の活動も企画中です。



●地域のNPOと一緒にイベントの運営

従来のマルシェが行われなくなり、イベントが少なくなってきた中で、暮らしの楽しさと魅力アップを図るため、地域の経営者と一緒に新たなイベントの企画を検討しています。



●大村湾の資源の再認識・楽しみ方を増やす企画

福山雅治さんの歌詞にもある「さざ波光る大村湾」。この大村湾は、二重閉鎖性海域であり、富栄養化などの問題を抱えてはいるが、穏やかな性質であるため、ペーロン、カヤック、SUPなどのマリナクティビティが初心者でも親しみやすい海です。これらの楽しさとともに、環境を守る必要性を再認識できるような企画に取り組んでいます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
メールアドレス（職場） iju_teiju@city.isahaya.nagasaki.jp
電話番号（職場） 0957-22-1500

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（インスタ） <https://www.instagram.com/tarami.no.maarten/>

基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
埼玉県上尾市
【転出元】
埼玉県上尾市
【前 職】
学生
【活動時期】
R5.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

学生時代は地域づくりについて学びました。大学1年生次に参加した授業（研修）で初めて龍郷町に訪れました。初めて見る景色を前に、異国に来たような気持ちになったのを鮮明に覚えています。それから5～6年の間、奄美の島々に通うファンになりました。

その後、卒業後の進路に悩んでいた時に、まさしく自分の研究分野であった移住と空き家、関係人口をミッションに協力隊の募集が始まりました。この機を逃す手はないと思い、この素敵な町で自分に出来ることに挑戦しようと決意しました。

今後の抱負・任期後の目標

移住や空き家の業務、そして日々の生活を通して徐々に町や島に馴染めてきたような気がしています。

次のステップでは、奄美に興味関心があるファンの方にとっての“港”となり、島内外の方を巻き込んだ地域づくり活動を展開してみたいです。

活動内容

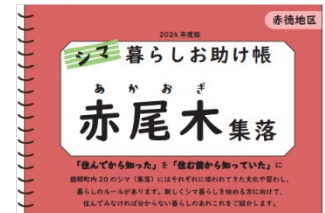
● たつごう移住ガイドセンター「住もうディ！」の運営

移住相談・空き家に関する相談窓口として、たつごう移住ガイドセンター「住もうディ！」を運営しています。年間で約120組の方から移住や住まい探しの相談を頂いています。龍郷町の気候、文化、生活環境、助成制度などについて、自身の移住体験談も交えてお伝えしています。



● シマ暮らしお助け帳の作製

「住んでから知った」を「住む前から知っていた」に。龍郷町には20集落あり、それぞれ異なる文化や習わしがあります。いわゆる「移住のミスマッチ」減らすため、集落運営費や年間行事など、住んでみなければ分からない暮らしのあれこれを紹介するリーフレットを作製中です！



● 空き家対策（空き家バンク運営・活用解体に向けた啓発活動）

空き家バンクには約30件の物件が登録されていますが、住宅の需要に対して供給が間に合っていない状況です。一方で町内には約200件の空き家があります。所有者への交渉だけでなく高齢者の集会や教育機関に出向き、活動報告やワークショップをする等、空き家になる前の対策も力を入れています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場）） tatsugo.iju@gmail.com（職場）
（電話番号（個人or職場）） 090-7760-9491（職場）
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
たつごう移住ガイドセンター「住もうディ！」公式
（左から順に）HP, LINE, Instagram



基本情報



【年 齢】
46歳
【出身地】
東京都新宿区
【転出元】
東京都新宿区
【前 職】
派遣事務
【活動時期】
R2.5～現在
(5年目)

協力隊に応募したきっかけ

東京生れで田舎暮らしへの憧れと、与那国の自然の素晴らしさに一目ぼれし定住にむけ動き始めたタイミングで地域おこし協力隊の募集を知りました。色々な島と海外移住の経験をいかし、同じ様に与那国を好きで移り住みたい人へのサポートや空き家再生・古民家活用に携わる仕事に興味があり応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

- ・移住定住の中間支援組織の立ち上げ
- ・交流拠点でマルシェ等のイベント開催
- ・特産品開発や佐世保バーガー的な地域おこしグルメイベント
- ・遊休施設の利活用

島での暮らしがもっと楽しくなったり少し便利になったり、ワクワクするような事業に携わって、与那国での生活を更に満喫し、暮らしていきたいです。

活動内容

●空き家改修DIYワークショップを開催、交流拠点として活用

体験型DIYワークショップを開催し空き家を改修。交流拠点を整備。移住者・地域の人で行うことで、愛着を持ち気軽に立ち寄れるコワーキングスペースや移住相談窓口・地域のハブとして利活用を目指してます。



●国有財産を移住促進住宅・移住体験施設として活用

使用されていない宿舎を改修し、移住促進住宅・移住体験施設として活用。旅行とは違い実際に暮らすイメージを膨らませられる移住体験ツアーのプログラムを目指してます。



●空地を活用し交流シェア畑を整備・収穫祭を開催

民間の補助金を活用し、シェア畑を整備。移住者や移住を検討している方が畑仕事や収穫祭を通じて地域の人と楽しく交流し、与那国の暮らしや文化への理解を深めミスマッチの少ない移住定住の促進を目指してます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) iju.yonaguni@gmail.com (電話番号) 0980-87-3577
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(移住サイト) <https://www.yonaguni-ijyu.jp/> (インスタ) [yonaguni_iju](https://www.instagram.com/yonaguni_iju)

02 不動産利活用

基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
北海道北見市
【転出元】
愛知県豊橋市
【前 職】
会社員
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

衣食住とアクティビティに興味があり、服飾の仕事から離れようと思っていた時に北海道の地域おこし協力隊というものを見つけました。その中で置戸町がアクティビティ隊員という枠での募集をかけており、父方の地元が置戸町でもあるので、今回応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

現在は任期後に宿泊所を開く予定で今空き家のリノベーションを行っています。便利な世の中の今、色んな人の生活がSNSで覗けるがゆえに人と比べ、些細な事でストレスを感じる人が増えている時代です。その「精神的な健康をサポートする場所」として心地の良い空間づくりや、心地いい椅子や暮らしの道具も含めこだわった場を作りたい。オホーツクに住みたいと思ってもらえるような環境づくりに力を入れていきたい。

活動内容

●温泉施設勤務と熱波師

1年間コテージ併設の温泉施設に勤務し、置戸町の観光客の動向からコテージ清掃、チェックインを勉強し、温泉に来る住民の方と顔を合わせる機会が作れたことも町を知る最初のきっかけづくりになりました。温泉施設で熱波サービスも始め、人を呼ぶきっかけになればと思い活動しています。



●町のアクティビティ事業

アクティビティ隊員として着任したので町の観光事業と多くかかわる機会を持つことができ、ラフティング、サイクリング、新事業のサップ、テントサウナ、滝のライトアップなど、季節ごとにお客さんを含めた行事も参加しています。



●空き家改修、宿づくり

来年度宿オープンのために空き家を改修し始め、モノの処分から建具づくり、大工仕事を行っていて、セルフだからこそ時間はかかりますが、作業するたびに構想が膨らみ、出来上がる様子を想像して楽しみながら家を直しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(協力隊パソコン)) kyouryoku05@oketo-kyouryokutai.jp
(電話番号(協力隊事務所)) 0157-57-1135

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram→「置戸町地域おこし協力隊 ゆめの」で検索してください。

基本情報



【年 齢】
30歳
【出身地】
愛知県豊田市
【転出元】
愛知県常滑市
【前 職】
建築設備メーカー
(技術職)
【活動時期】
R5.8～

協力隊に応募したきっかけ

眺望の良いロケーションで、一棟貸し宿をやりたいと思い、日本各地を回っていたところ、農村の丘陵地帯の景観に魅了されました。協力隊の業務内容が『空き家の流通促進』ということで、宿の物件探しも兼ねて活動できると思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

町には空き家がたくさんありますが、なかなか流通まで至らないという課題があります。

前述の通り、今後の目標は、町内で一棟貸し宿を営むことですが、物件探しが難航していて、現在も探し続けています。地域の方々はとても温かく、応援してくれているので、引き続き目標に向かって進めていきたいです。

活動内容

●空き家の掘り起こし

任期1年目には、町内の家屋すべて(約4500件)を調査し、空き家の特定を行いました。特定した空き家所有者に向けてDMおよびアンケートの送付や、空き家セミナーによる啓蒙活動を通して、町内空き家の流通促進を図った活動をしています。



●空き家相談窓口対応

役場に来庁された空き家所有者さんや、空き家を利活用するために探している人の相談対応を行っています。空き家バンクに登録するための手順や、登録に必要な写真の撮影や間取りを作成するために現地確認することもあります。色んな物件を拝見できたり、生活していた当時の思い出を話を聞けることが、活動の楽しみになっています。

●空き家に関する情報発信

主に空き家バンクに登録されている物件について、その物件の特徴やイチオシポイントをSNSで発信しています。写真と実際に見るのでは、印象も異なるため、大事な活動だと思っています。存分に主観が混ざっていますが、それも含めて楽しんでもらえるコンテンツにしていきたいです！



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) wakamonoteijuu@town.kuriyama.hokkaido.jp
(電話番号(個人or職場)) 0123-72-3179

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】



← 協力隊の活動は
Facebook で発信中！

基本情報



【年 齢】
58歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
北海道札幌市
【前 職】
国土交通省
一級建築士
【活動時期】
R5.4～（2年目）

協力隊に応募したきっかけ

小中を帯広で過ごし、前職で帯広勤務の時に、同級生などが積極的に取り組む街の活動に参加しました。その中で帯広市を中心とし十勝が創生のものであり、幕別町を訪れる機会があり、潜在的な魅力ある公園や、時間が停止しているように空洞化している街中をみました。愕然とした一方で、利用可能な既存ストックが多いこと、地域の方々も熱量も高いことから、何か「きっかけ」が生まれれば地域は活動すると確信し、空き倉庫を活用した地域交流拠点

（Makura）を創り地域熱量が高まり町の再生のタイミングと感じたため。

今後の抱負・任期後の目標

Makuraを拠点に人がつながり、仲間が生まれ育み、理想的に町民の方々が想いを行動しています。空き施設の活動も約2年となりますが、約11件の再生が進み、秋までに3件の再生が予定されています。移住者も増え、地域再生に必要な人と人の繋がりや熱量が様々な展開が育んでいます。

また、大学・高校生など町の再生と教育プログラムの融合も活発化し、地域にあった体温・時間に調和した再生が進んでおり、地方にとって理想的と感じていますので、引き続き安定した基盤構成に取り組んでいきたいと思っています。

活動内容

●空き施設利用サポートセンターの運営

施設所有の方が気軽に相談しやすい環境を整えることが大切と考え、役場町外に築56年の築古施設を改修し、空き施設利用サポートセンターを開設（現在は幕練に移転）しました。開設後で約100件を超えるご相談があり、そこから空き施設利用に繋がっているケースもあるなど、今後も有効に機能させ促進を進めたいと考えています。



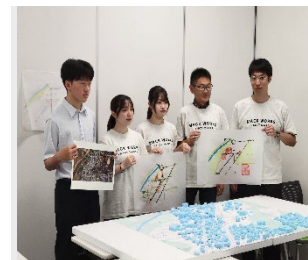
●空き施設利用促進活動

空き施設の現状や利用など、皆さん色々悩んでいる部分にサポートを継続し、同時に再生に必要な指導や作業を共にし、地元不動産企業も含め企業との連携も進め、また今後は新たなる、現状施設の地域機能の向上性を目的に、企画提案を行い、既存ストックを有効に活用した再生に取り組んでいきます。



●教育プログラムと連携した地域活性化の取組

地元高校生及び連携協定の大学、さらには視察に訪れる大学や企業などと様々な展開プログラムを生みこの町の未来理想図を描き、姿形を創造しています。本取り組みは次年度以降も継続し、中期的な視点で町の再生、次世代の子供たちの経験・体験を促進し同時に町の再生に引き続き取り組んでいきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス） a.taniho@town.makubetsu.lg.jp

（電話番号） 0155-54-6606 （商工観光課）

050-8887-3990 （空き施設利用サポートセンター）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

m.mackworks （Instagram）

基本情報



【年 齢】
23歳
【出身地】
愛知県豊田市
【転出元】
愛知県豊田市
【前 職】
大学生
【活動時期】
R6.4.1～R9.3.31

協力隊に応募したきっかけ

大学時代に立ち上げたイベント出店サークルで企画することの面白さに気づいたからです。高校生のときから保育士を目指していたのですが、地域おこし協力隊を知ったきっかけは准教授が元地域おこし協力隊だったのとその経験談が夢あるものでクリエイティブに活動していきたい自分に合っている職業でした。

新郷村を選んだ理由は、ミッションである廃校の利活用が面白そうだったのと自分が生きている間ずっと自然が豊かな「村」に住みたかったからです。

今後の抱負・任期後の目標

引き続き地域住民と親交を深め、地域の人々の「出来たらいいな」をかなえていきたいです。ミッションである旧西越小学校の利活用については村でよく話し合い、用途変更をすることで地域の人々が自由に行き交えるようにし、その利活用方法が永く続けられるように考えていきます。

他にも任期内の個人の大きな目標は、新郷村の絵本を作り読み聞かせを行うことです。任期後は具体的に決まっていらないのですが新郷村でしかできない職業を見つける、もしくは立ち上げたいです。

活動内容

●イベント企画

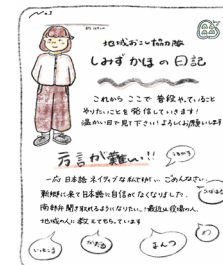
地域住民に向けた小さなイベントを開催しています。様々な年代の村民と関わりたいのと、関わる中で悩みや希望を聞くことが多いので出来そうなことからイベントにしています。（例：郷のきみの収穫体験、絵本の読み聞かせ×アートイベント、モルック体験会、染めの研究会、図書コーナーの改装計画等）



●地域おこし協力隊通信作成

村内全戸に今月の配布物を届ける毎戸配布というものがあるのですが、そちらに「しみずかほの日記」を不定期で折り込んでいます。

「方言がむずかしい！」や「アブにさされた」など読み手が微笑んでくれるような内容を手書きで執筆しています。



●旧西越小学校の利活用

旧西越小学校の掃除や図書の整理を行っています。

また、校舎はさいごし笑楽幸という振興会の会議にも利用しています。現在は用途変更に向けて継続的に活動を実施しています。

また、近隣市町村の廃校利活用事例の視察に伺い背景や現状を教えていただき学んでいます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス） k_shimizu@vill.shingo.aomori.jp
（電話番号（個人or職場）） 0178-78-2111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Facebook） <https://www.facebook.com/profile.php?id=61559770041068>



基本情報



【年 齢】
29歳
【出身地】
三重県桑名市
【転出元】
三重県桑名市
【前 職】
マンション設計
【活動時期】
R5.10～R8.9

協力隊に応募したきっかけ

高校1年生のとき、テレビドラマで地域おこし協力隊という存在を初めて知りました。
その後大学で建築を学ぶ中で、「いつか地域おこし協力隊になって空き家に関する活動がしたい」と考えるようになりました。
大学卒業後は設計事務所等で戸建やマンションの設計をしていましたが、コロナの影響で仕事を辞め、自分の将来を考えていたときに、改めて地域おこし協力隊になりたいと思いました。
また仕事で培った知識がある今だからこそ、協力隊に挑戦する意味があるのではないかと思います応募を決意しました。

今後の抱負・任期後の目標

一ノ関駅前の新たな交流拠点「BAKKE（ばっけ）」をより多くの人に知っていただき、利用していただくことが1番の目標です。
最終的には、BAKKEを目的地ではなく“ついでに寄れる場所”または“何かが始まるきっかけの場所”として地域の人にとって当たり前にある存在になりたいと考えています。
協力隊卒業後は起業するのが目標です。
空き家や移住等に関する事業で起業し一関市と関わり続けられたらと考えているので、市から業務委託していただけるように準備を進めています。

活動内容

●交流拠点BAKKE（ばっけ）

【学生空き家活用プロジェクト】

令和6年度に一ノ関駅前の空き店舗を活用して学生とともに地域の交流拠点をつくるプロジェクトをおこないました。
参加した学生は主に修紅高校などの市内の学生（11名）と、早稲田大学などの都内の学生（4名）。
学生たちは地域を超えて交流を楽しみながら、チーム別にどんな交流拠点にするべきか活用案を考えるワークショップに取り組みました。（2024年10～11月）
その後実際に空き店舗を改修し、地元工務店協力のもと学生たちでもできる部分はDIYをして、自分たちが考えたものが形になる面白さを感じてもらいました。（2025年2～3月）
また、工事費や初期運営費などのために挑戦したクラウドファンディング（2024年9～10月実施）では、たくさんの方に応援していただき、目標金額100万円を達成することができました。

【交流拠点の運営開始】

2025年4月、交流拠点「BAKKE」がOPENしました。
地域の交流拠点としていろんな方にご利用いただいている他、私の活動拠点としての側面もあることで、空き家に関する相談や、お試し移住で一関市に滞在してる方が相談できる場所としても気軽に利用いただけるようになりました。
また、交流拠点としてだけではなく、都内の学生が一関へフィールドワークに来た際の会場としてや、事業者さんたちの会議スペースとしても利用いただくなど、お店ではない分、使いたい人によっていかようにも形を変えられる場所として親しんでいただいています。



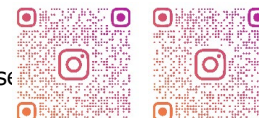
連絡先

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス（市専用）：misakima@city.ichonoseki.iwate.jp
メールアドレス（個人）：misaki.ichiworks1127@gmail.com
電話番号：0191-21-8194

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram（個人）：https://www.instagram.com/m.misaki_ichinos
Instagram（BAKKE）：https://www.instagram.com/bakke_1.ru/



基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
埼玉県所沢市
【転出元】
埼玉県所沢市
【前 職】
・狭山市役所
・パラレルワーカー
(配送業・イラスト)
【活動時期】
R5.4～

協力隊に応募したきっかけ

ライフステージの変化の中で、ゆくゆくは自然に溢れたまちで、子どもたちを伸び伸びと育てたいという中で、彼女の実家の近くの東北地方の仕事を探していました。その上で、行政職員をしていた経験から、地域に根付いた仕事、かつ今やっているイラストをまちづくりに活かした働き方をしたいと仕事を探していたところ、洋野町の地域おこし協力隊の存在を知ります。夏と冬の2回訪問し、地域の人の繋がりや食事、ゆったりとした空気感に惹かれ、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

空き家の改修を行い、町の内外の人の交流拠点を作り、そこをハブとして、広く洋野町に関わってくれる人を増やすことが目標です。

また、洋野町で新たに空き家などの資源を用いて、挑戦してみたい人のサポートなどをイラストを通じて行いたいと考えています。町で自己実現を果たしたい人の支援を人を繋ぐという面と、イラストで形にするという両面から支援できる人として、事業に繋がりたいと考えています。

活動内容

●空き家改修のお手伝いで関係人口創出

空き家となっている民家を改修しつつ、人手がいる作業は「おてつたび」というマッチングプラットフォームで、町外の人たちにDIYを手伝ってもらいつつ、洋野町の観光を体験してもらっています。改修後は交流拠点として、広く利用できる施設にする予定です。



●クラウドファンディングを通じて洋野町をPR

空き家改修に必要な資金調達と洋野町のPRとして、クラウドファンディングを行いました。リターンとしても、洋野町の宿泊割引券や名産品など、洋野町に関するものを設定。8月15日から9月30日までで114名の方にご支援いただき、1,174,500円の調達に成功しました。



●洋野町を知ってもらうイベントの実施

地元である埼玉県の繋がりから、2023年度に狭山市にて洋野町の商品を一定期間置いてもらう「洋野町フェア」を実施しました。埼玉県の事業者と洋野町の事業者を繋ぐ役割を果たしつつ、POPイラストも担当しました。商品は人気につき、予定より大幅に売れ、追加発注も行いました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人or職場)) ytom.base@gmail.com

(電話番号(個人or職場)) TEL:090-8007-1848

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(Instagram) https://www.instagram.com/thomp_hirono/

(CAMPFIRE) <https://camp-fire.jp/projects/view/691649>



基本情報



【年 齢】
38歳
【出身地】
宮城県仙台市
【転出元】
宮城県仙台市
【前 職】
大学事務職
【活動時期】
R5.6～R8.5

協力隊に応募したきっかけ

地元仙台市が好きで、ずっと外にでることを考えていませんでしたが、退職を機に、そして40代になる前の新たなチャレンジとして協力隊になることを選択しました！
那須町には協力隊の応募を見る前に旅行で訪れていて、豊かな自然がありながら、観光地としての賑わいもある部分にとっても魅力を感じていました。
自然の中で生活したいという憧れと空き家の活用に興味があったことから、那須町の協力隊がピッタリとはまり、迷うことなく応募をしました。

今後の抱負・任期後の目標

今後は退任後に向けて、活動をさらに広げていきつつ、地域の声にもっと寄り添っていきたいです。
現在、改修中の空き家をコミュニティスペースにし、電車待ちの高校生が勉強や活動の場として使用したり、地域の方のチャレンジの場にしたり、地域内外の人々の繋がり場の場所になっていくことを目指しています。
退任後は、このコミュニティスペースを拠点に、人と人をつなげていく活動をしながら、地域の情報発信などを継続していきたいと考えています。

活動内容

●黒田原駅前空き家活用プロジェクト

令和6年1月から黒田原駅前にあった空き家兼空き店舗を、地域の方々が集えるコミュニティスペースにしたいと考え、「黒田原駅前空き家活用プロジェクト」を企画しました。

改修作業は県内の大学生、地元の高校生・中学生に声をかけ、空き家にあった残置物の片付けから壁のペンキ塗り、椅子作りなど、作り上げる段階から関わってもらいました。駅前の比較的人通りも多い場所で行っているだけあって、若者が何かをしていると地域の方も気になって覗きにきてくれたり、声をかけてくれるので、その度に宣伝をしています。
完成後は学生や子供たちの居場所・活動の場、地域の方のチャレンジの場、人と人の繋がり場の場にしていきたいと考えています！



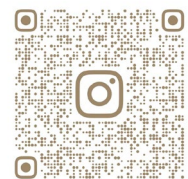
●「黒田原だっばラジオ」で地域の情報発信

地域おこし協力隊OBが立ち上げたローカルインターネットラジオ「黒田原だっばラジオ」にて隔週金曜日にパーソナリティとして活動しています。
担当日以外にも地域のイベントや地元学校の活動などを取り上げた情報発信を積極的に行っています！



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) kana.ito.1217@gmail.com
(電話番号) 0287-72-6955 (ふるさと定住課)
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(黒田原駅前空き家活用プロジェクト)
https://www.instagram.com/akiya_kurodahara/



@AKIYA_KURODAHARA

基本情報



【年 齢】
29歳
【出身地】
群馬県渋川市
【転出元】
東京都杉並区
【前 職】
会社員
【活動時期】
R3.12～R6.12

協力隊に応募したきっかけ

出身小学校が閉校したことを機に何か活用できないかと考え、市役所窓口で相談したところ貸し出しはハードルが高く、空き家活用でスモールスタートすることを提案されたのがきっかけです。空き家活用を考えていたところ空き家活用部門での協力隊募集を見つけ即応募。

今後の抱負・任期後の目標

任期後も空き家問題に取り組みながら創業希望者が挑戦しやすい町だと思えるような空き店舗等の発掘を行い、事業者、移住者の増加の一端を担えるような存在になりたい。

活動内容

●空き家利活用に関するSNSでの情報発信

市の空き家利活用推進活動に関するInstagramのアカウントを作成し、空き家利活用推進及び自身の地域おこし活動に係る情報を発信。市内空き家利活用の機運醸成を図った。また自身のfacebookアカウントにおいても同様の情報発信を併せて実施している。



●古民家リノベーション作業

築85年の古民家を購入。市内外の一般の方や地元高校生とコラボを実施しリノベーション作業や各部屋のコンセプトを決めるための意見出し等を実施。リノベーションを身近なものとして認識してもらい、それが空き家活用に興味を持ってもらうことを狙いとしている。



●地域活性化イベントの開催

令和4年度に渋川市赤城町のJR敷島駅周辺での創業希望者向けに「シキシマクラフトマーケット」また、令和5年度市内に創業開業を目指している事業者向けに市内公共空間を活用した実証実験の主催者としてマルシェを2回開催した。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) hoshino62@outlook.jp
(電話番号(個人)) 090-8301-7875

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(instagram)
<https://www.instagram.com/hayato.shibukawa/?hl=ja>



基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
東京都東久留米市
【転出元】
兵庫県宝塚市
【前 職】
建築設計業
【活動時期】
R6.5～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

茅野市出身の父を持ち、諏訪地域に訪れる機会が多くあり、諏訪地域の美しい風景やまち並みに幼少の頃から関心を持っていました。中でも諏訪市には諏訪大社本宮や片倉館などをはじめとした建築的魅力にもあふれるまちであると感じています。

「空き家の掘り起こしと利活用」というミッションではこれまで培った建築の専門的な能力が十分に活かせる点や、地域おこし協力隊として諏訪に住む方々に積極的に関わる機会を得られる点にメリットを感じ、応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

○今後の抱負

諏訪地域には細い小路が入り組む独特のまちの風景や、風土に育まれた建てるみなどの独自の建築様式が今も残されています。

空き家の利活用を通して、まちの魅力を引き継いだエリアリノベーションが広がっていく機運をつくっていかれたらと考えています。

○任期後の目標

建築の歴史意匠、そして諏訪地域のアニミズム的な側面に深い関心があります。任期後には諏訪地域に根ざした設計事務所を開業することが目標です。

活動内容

●空き家の掘り起こし ーみなに伝える方法

諏訪市は約5軒に1軒が空き家であり、さらに年間30戸ずつ空き家が増加している傾向にあります。中でも特に空き家が密集する上諏訪駅周辺エリア(約700件)をメインターゲットとして掘り起こしを行います。

空き家オーナーと利活用希望者をつなげる「空き家マッチングサービス」などの制度や「空き家バンク」によって、空き家を利活用につなげる活動を行っています。



●空き家見学会・ワークショップ ーみなで考える方法

空き家見学会・まちあるき、空き家の利活用を考えるワークショップを定期的に開催し、空き家への関わりやマッチングのきっかけをつくります。

空き家見学会・まちあるきは月1回程度で不定期開催、ワークショップは中高生や市民を対象に空き家利活用についての意見を吸い上げ、実際の空き家に反映していくことで、まちの変化を自分事を感じてもらい取り組みを行います。



●空き家の利活用 ーみなでつくる方法

R7～R8年度にかけて、掘り起こした物件を対象に空き家のDIYイベントを開催します。地域おこし協力隊が常駐しながら参加者を募り、少しずつ改修していくことにより、地域に開けた空き家改修を行う計画です。

また、改修時～改修後にかけてチャレンジショップや、市や民間のイベントスペースとしても活用していくことで、市内の利活用希望者も併せて募っていくことを想定しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) tokei@city.suwa.lg.jp (代表)

kei-fujimori@city.suwa.lg.jp (個人)

(電話番号) 0266-52-4141 (内線267)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Facebook : <https://www.facebook.com/suwachiikiokoshi/>

Instagram : <https://www.instagram.com/suwachiikiokoshi/>



Facebook



Instagram

基本情報



【年 齢】
30歳
【出身地】
奈良県生駒市
【転出元】
奈良県生駒市
【前 職】
住宅の設計施工会社
【活動時期】
R2.5～（5年目）

協力隊に応募したきっかけ

- ・増えていく空き家の活用に興味があった
- ・ソーシャルキャピタルに興味があった
- ・自分自身の暮らしも上記2つを実践できる、かつ仕事にできる地域に移住をする予定で調べていた
- ・塩尻市は新しいことに挑戦する30代前後が多いと知った
- ・赴任予定地が重要伝統建築物群保存区域内にあった

今後の抱負・任期後の目標

「暮らしの選択肢を広げる」を活動軸に20～50代を対象に主に住宅を中心とした遊休不動産・移住・ソーシャルキャピタル・DXを絡めた、暮らし方や暮らす場所の選択肢の広さや自由さを提案していきたい。
再生した古民家の運用、新たな物件の発掘、移住者の相談、移住後のフォロー、街の活性化を中心に仕事をつくり、任期終了後もこの場所で活動を継続する目処が立っている。

活動内容

●多機能型 短期滞在施設の創出（空き家再生）令和3年～

伝統産業(漆器)が根付く人口約1000人の地区で来訪者の受け皿になり地域と交わるための場所づくり。
運営方法：一棟貸し宿／喫茶室の営業
年間宿泊者数 363人（令和6年度）
イベント来訪者数 年間約300人～500人（R3～R6）



●中長期向け滞在施設を2棟創出（空き家再生）

令和5年に空き家を2棟購入し、2週間以上の滞在者が金銭的負担なく滞在体験ができるように整備。
a棟：8-10月 主に桧川小中学校への山村留学希望者滞在
R6年度も多く予約・利用があった。
b棟：複数名との滞在契約あり。



●観光、移住促進、空き家改修プロジェクトサポート

- ・空き家バンク／移住相談窓口との連携、移住相談対応
- ・移住相談窓口のPR、活動方針アドバイザー業務
- ・中心市街地空き家再生事業（合同会社en.to）
建物の工事におけるプロジェクトマネジメント
- ・観光協会との協働（観光商品創出、地域ガイドなど）

塩尻
耕人
（写真提供：塩尻市）伝統と現代のあわせを見つめ、木曾漆！
うるし工芸石本五平 漆器家 石本賢子さんの暮らし方 2023.08.28

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）saki.kondo9301@gmail.com （電話番号）080-1431-5941
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
IG：https://www.instagram.com/hibi_besso/?hl=ja
note：https://note.com/sakikondo

基本情報



【年 齢】
40歳
【出身地】
岐阜県中津川市
【転出元】
岐阜県中津川市
【前 職】
宿泊業・不動産業
【活動時期】
R.4.4～R.7.3

協力隊に応募したきっかけ

岐阜県で空き家の再生や古民家ゲストハウスをしていましたが、COVID-19により劇的に社会が変化中、違う地へ移住しようかなーと考えていました。長野県や滋賀県・沖縄県などの移住候補地の中で家族が一番安心して暮らすことができることを優先し、長野県みのわ町を選びました。タイミングよく地域おこし協力隊を募集していたので応募し、これまでの知識と経験を活かして町の空き家500軒の流通サポートをすることになりました。

今後の抱負・任期後の目標

・長野県と岐阜県に加えて、沖縄県も加えた複数拠点での活動を考えています。
まちの共有地Cafe Camonに加えて各地の空き家や地域を再生することを生業にしながら、引き続き地域が必要とすることを提供し続けられるように勉学に励み、健康に気を遣いながら楽しく生きていきます。

活動内容

●空き家の流通サポート

空き家バンクと連携して空き家のオーナーからの相談を受けて物件の流通サポートをしたり、移住希望者から空き家購入やリフォームについての相談に対応しています。また、箕輪町空き家対策本部チラシを作成して町内店舗や集会所に張り出して空き家の掘り起こしを行なっています。



●まちの共有地Cafe Camon【カフェカモン】の開店と運営

地域内外の方が気軽に立ち寄れる場所作りを箕輪町三日町地区に作っています。カモンの中には町民の方に自由に使ってもらえる場所「共有地」を数ヶ所用意し、店舗利用だけでなく公民館のような機能を持たせようと考えています。



●出会いと発見の場作り・古民家改修ワークショップの開催

カモンの工事にはたくさんの方々に参加してくれています。これまで5回のワークショップを開催し、地域の中学生や高校生をはじめ、都会の家族や移住者さん、日本を旅している外国人など約120名が参加しました。建物の土台作りからカフェメニュー作りまで色んなWSを行い、様々な方からアイデアをいただいています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) akiyaboronco@gmail.com
(電話番号(個人)) 090-4403-0309

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Facebook/Instagram: 空き家再生隊ボロンコビリー



基本情報



【年 齢】
26歳
【出身地】
大阪府高槻市
【転出元】
和歌山県湯浅町
【前 職】
大工
【活動時期】
R6.10～R9.9

協力隊に応募したきっかけ

自身のストレスから不眠となり前職を退職後個人で活動。次のステップに進みたいと建築関係の働き口を探していたところ空き家部門での地域おこし協力隊の募集をしていることを知り応募した。

大学で建築学を専攻しており空き家活用やリノベーションに関する研究も行っていた。自身が経験してきたことを活かすことができ、地域創生への興味関心もあったため最適であると判断した。

今後の抱負・任期後の目標

「挑戦できるまち湯浅」を目指して活動する。まだ使える空き家の情報を整理し、空き家の活用希望者と大家さんをマッチングすることで町内に「おもしろい場所」を増やしていく。まち全体として魅力を向上させこの地で挑戦してみようと思ってもらえるようなまちにしていきたい。

湯浅町は商業の町として栄え昔は映画館があったりボーリング場があったりと人々が集まる町だった。しかし、衰退の経過を見ているからか町民はどこか諦めムードだ。まだまだこの地域もできると地域住民に思ってもらいたい。

活動内容

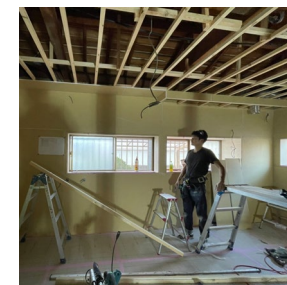
●空き家相談窓口地業務

空き家の大家さんと空き家の活用希望者さんをマッチングする。定期的にイベントを開催し空き家に関する情報を集め整理する。実測調査、家財整理、補助金の案内などもおこない使える空き家を増やしていくことも目的としている。



●空き家再生

空き家を再生し地域に「おもしろい場所」を増やす。リノベーションは参加型で行い、地域住民や外部の方々につくる過程で参加してもらいながらその場所を発展させていく。ワークショップも定期的に行いながら空き家を再生する。



●地域活動の可視化

地域の魅力を外に発信しなければ移住希望者の増加は見込めない。湯浅の「人」のおもしろさを伝えられるようなメディアを制作する。動画制作、ホームページ運営、ラジオなどまだ方法は模索中だが様々な方法で魅力を発信する。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) fussan.12.01@gmail.com
(電話番号(個人)) 080-5704-9712

【活動の様子を発信しているSNS】
<https://www.instagram.com/fussanosakana63/>

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
兵庫県明石市
【転出元】
兵庫県明石市
【前 職】
団体職員
【活動時期】
R5. 4～現在

協力隊に応募したきっかけ

大山町には以前より頻繁に訪れており、暮らしを手作りし、自ら楽しみを生み出す地域の人々の姿勢に憧れていたので「大山で暮らしたい!」という想いが強かったです。また、ただ単に住まいが町内というだけではなく、出来る限り地域に根付きたいと考えていました。そこで、自ら地域課題をさがして仕事を作ること、自ら持つ能力を以て地域に貢献することでのきる、地域おこし協力隊の制度を活用させていただきました。

今後の抱負・任期後の目標

空き家を利活用して、次のような機能をもつ活動拠点づくりを目指します。

- ・リサイクルショップ：レスキューしたものを手入れし、ストックし、販売する
- ・シェアキッチン：にぎわいを創出する／チャレンジの場をつくり、将来的に空き家を活用する可能性のあるプレイヤーを見つける
- ・不動産会社：地域の不動産の見守りと流通を担う

活動内容

●空き家からの古道具のレスキューと資源循環

空き家のその後の利活用へのハードルの一つである残地物の片付けを部分的に伴走しながら、当時の大山での暮らしをあらわすような古道具をレスキュー（引き揚げ）しています。このレスキューしたものは県内外のイベントへの出展を通して次世代に繋げ、資源循環にも取り組んでいます。



●空き家等を活用したイベントの実施

地域の若者世代とともに、大山町内の空き家や遊休スペースを活用した蚤の市を実施しています。楽しみながら古道具や空き家に触れてもらい、自分ごととして家の将来について考えてもらうきっかけの創出を試みています。



●森の空き家活用の達人“ヤマネ”を用いた教育普及

森林で他者の古巣を活用して暮らす野生動物である「ヤマネ」の研究者・学芸員の経験を活かし、将来深刻化するであろう空き家問題を若い世代にもわかりやすい形で伝えるためのツールである広報誌や絵本作りを行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) yamanenonegura.daisen@gmail.com
(電話番号) 0859-54-5202 (大山町役場まちづくり課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) @yamanenonegura



@YAMANENONEGURA

基本情報



【年 齢】
42歳
【出身地】
香川県坂出市
【転出元】
島根県松江市
【前 職】
事務・販売
【活動時期】
R6.6～

協力隊に応募したきっかけ

結婚をきっかけに松江で暮らしていましたが、松江で子供を育て続けるイメージができませんでした。雲南市への移住を考えて空き家を探していたところ、地域おこし協力隊の募集があると教えてもらいました。募集内容が空き家の流通・活用を図るお仕事だったので、空き家探しの経験も活かせるし、協力隊として活動することによって自分の子供の故郷になるであろう雲南市が、ずっと住み続けたい魅力的な街であり続けるための一助になればいいなと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

放置される空き家を減らし、空き家バンクへの登録を促進するため、各自主組織ごとに、地域の方が気軽に空き家のことを相談できる窓口が作れるといいなと思っています。地域ごとに状況は違うので、各地域に寄り添いながら、活動を進めたいです。任期中に宅地建物取引士を取得予定です。その資格を活かし、雲南市で空き家に関わる活動をするのが目標です。

活動内容

●地域と連携した空き家活用に向けた活動

雲南市内にある30の地域自主組織をまわり、意見交換を行う。

自主組織と連携、地域の方へ空き家等に関する知識の普及や意識啓発を行い、ひとりひとりが自分にも関係があるという意識を持てるように、地域全体の空き家に対する機運の醸成をする。

各地域自主組織にも空き家バンクのポスターや空き家に関する補助制度等をまとめたファイルを配布。空き家バンク制度の周知活動を行い、放置されてしまう空き家が増えないように、自主組織からも空き家バンクの登録に繋がってもらえるように体制を整えていっている。

●空き家バンクの運営

空き家所有者からの相談対応。
不動産協会の連携して現地調査・登録を行う。
新規登録物件のSNSでの紹介等も行っている。

あまり活用が進んでいない空き家マッチング制度の登録物件に関して、情報の収集・整理を行い、バンク登録を促す。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) unnangurashi@city.unnan.shimane.jp
(電話番号(職場)) 0854-40-1014

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(雲南市定住サイト「ほっこり雲南」空き家バンク)
<https://www.hokkori-unnan.jp/akiyabank/>

基本情報



【年 齢】
50歳
【出身地】
兵庫県西脇市
【転出元】
神奈川県藤沢市
【前 職】
Webマーケティング
【活動時期】
R5.2～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

コロナ禍を経て、インバウンドも増え観光業に活況が戻る中、観光を通じて地方創生に関わりたいと考えました。また年齢を経て、地方に移動したいという思いもあり、瀬戸内海に惹かれて香川を選びました。

今後の抱負・任期後の目標

都市圏から瀬戸内に人を呼んで、企業研修などを行いたいと考えています。

活動内容

●空き店舗を活用したカフェ

商店街にあるまだきれいなカフェが閉店し、借り手を探すオーナーからの依頼で、期間限定のカフェをすることに。町内の雑貨屋さんと一緒に年末年始に出店する予定です。
チャレンジショップとして、琴平で商売をしてみたい人へのトライアルの場所になることも目指します。



●町内の事業者のインタビューや情報発信

FM香川の番組の取材先を選定したり、インタビュー記事をブログに書いたり、冊子を制作するなどして、町内の事業者の動向を町内外にお伝えしています。
琴平町の行事やイベントに関わる発信も、SNSを通じて行っています。



●空き店舗および空き家の情報集め

不動産会社が把握している空き物件が少なく、町民の方に紹介いただく情報を中心に集めています。町内の子どもに関わるイベントや、町の行事にのお手伝いをして、町民の信頼を得ながら少しずつ進めているところです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス)) retreat@chokatsu-recipe.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

<https://www.instagram.com/tokuyo.m/>

基本情報



【年 齢】
36歳
【出身地】
埼玉県草加市
【転出元】
埼玉県越谷市
【前 職】
デザイン事務所(継続)
まちづくり会社(継続)
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

埼玉県でデザイン事務所を営みながら商店街活動の企画運営サポートや、ワークショップイベントの主催のほか、官民連携のまちづくりに携わり仲間と会社を作り空き家の活用をしていました。
廃校や銭湯、ビル一棟、倉庫など大型物件のリノベーションに興味があり移住を検討。8年間活動した自身の事務所があった商店街一帯が再開発で取り壊しになったことと、結婚をきっかけに移住を決断しました。

今後の抱負・任期後の目標

現在商店街の物件をお借りして自分たちでリノベーションし、任期中にシェアキッチンを含む複合施設を開業予定です。だれもがチャレンジ・活躍できる場を地域の方々と一緒につくっていきたいと思います。
任期後は①リノベーションした施設の運営、②家守会社(まちづくり会社)の設立運営、③自治体向けまちづくりコンサルタント業務、④デザイン事務所の運営を行っていく予定です。

活動内容

●プレイヤー×職員×地域のトークイベントを毎月開催

“地域の人と人がゆるやかにつながる場”と“職員と市民が自然にミックスする場”を作ることを目的に、3名の方にご登壇いただき10分程度の短い時間で自身の取組や事業について話すトークイベント「まちと暮らしのいまはる会議」を月1回開催しております。
現在までに17回開催し、登壇者は62名にのぼります。



●中心市街地にある商店街の空き物件を活用

商店街の空き店舗物件を借り、交流や創業支援の場となる複合施設「くろごま団地」の整備を進めています。地域の方や協力隊の仲間の力も借りながらセルフリノベーションを行っています。
シェアキッチンを核コンテンツとし、一棚書店や刺繍店、デザイン事務所などが順次開業予定です。



●遊休公共施設の活用

中心市街地にある廃校を使用して音楽フェスを開催しました。
また同場所にて廃校利用の実験・実践として職員と共にデイキャンプを行いました。



連絡先

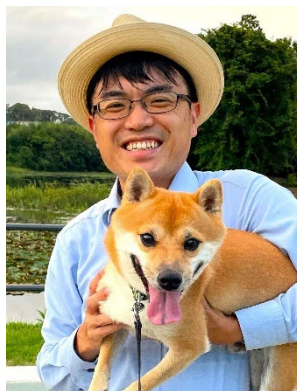
【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) i22768@imabari-city.jp
(電話番号(職場)) 0898-36-1508

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
instagram: [iju_rikken](https://www.instagram.com/iju_rikken)



@IJU_RIKKEN

基本情報



【年 齢】
41歳
【出身地】
神奈川県平塚市
【転出元】
神奈川県横浜市
【前 職】
市役所職員
【活動時期】
R4.8～R7.1

協力隊に応募したきっかけ

妻の実家が西都市にあり、かねてより移住を希望していました。役所関係の仕事を探中で、協力隊の求人を発見しました。当初は別の協力隊業務に応募したのですが、先輩隊員とのオンライン移住相談を受けたところ、現職のほうが自分の職歴（市役所職員として、滞納処分としての不動産公売等を担当）・学歴（法科大学院において、民法や借地借家法等の不動産関係法務を履修）・今後希望する生活ともマッチする（司法書士事務所の開業後の人脈形成等）と感じ、応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

任期中の目標としていた司法書士試験にこのたび合格できましたので、任期終了後は県内の司法書士法人等に就職し実務経験を積みつつ、開業の準備を整えていきたいと考えています。また、移住定住支援や空き家利活用事業には任期後も何らかの形で関わっていきたいと思っています（小規模な大家業との兼業等）。他にも自給農や農家民泊など、埋もれた地元の財産を発見し、発信し続けることで、人と資金を地元呼び込む活動を続けていきたいです。

活動内容

●空き家等情報バンク

市内に点在する空き家をめぐり、状態や立地条件を調査しています。

また、空き家所有者向けに、市内5地域で「空き家解消説明会」を開催し、市役所職員と共に空き家の利活用方法について、過去の成功事例の紹介を交えて説明し、利活用を促進しています。



●司法書士試験合格

住民に最も身近な法律家である司法書士事務所の開業を通して、空き家等の取引を促進し、地域活性化を達成したいと考えています。

着任以来、司法書士試験合格のための学習を続けてきた成果として、今年度の試験に合格できました。今後は、県内の司法書士法人に司法書士として勤務する傍らで、西都市内での開業を見据え、人脈構築を進めていきます。



●地元高校生の学習支援

地元唯一の高校における、総合的な探究の時間「妻みらい塾」に、メンター（伴走者）として参加しました。所属するまちづくり会社（地域再生推進法人）とも連携・協力し、地元を盛り上げるための音楽イベント等の開催をサポート。担当班は後日、県大会で優秀賞を受賞。地元の若い人材の育成に寄与しました。



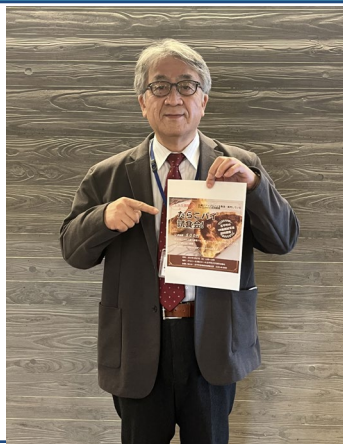
連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
X（移住はにわ@西の都）



03 観光・情報発信

基本情報



【年 齢】
67歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
北海道札幌市
【前 職】
大学教授
【活動時期】
R5.4～

協力隊に応募したきっかけ

大学を定年退職をするタイミングで、これまで研究してきた「地域社会学」「民俗学」「観光学」の知見を、地域振興の現場で役立てたかったから。学際的視野を持ちつつ、地域住民や地域外の人材が「地域人」(community innovators)として、地域振興に主体的に参加し、内発的な力によって地域を発展に導く「古平学」を構築することを最終的な目標に据え、日々、様々な地域課題の解決に取り組んでいきたいと考えている。

今後の抱負・任期後の目標

- ・地域の魅力を発見・再認識するための「フットパス事業」、記憶遺産を掘り起こし資源化するための「ヘリテージ・ツーリズム事業」を行う。
- ・「古平町民俗資料室」を拠点とした、地域の特産品の開発とブランディング、有形・無形の民俗資料の収集・調査・展示・研究を進め、文化財の保存・継承と利活用を実践する。
- ・地域活動の滞在拠点として、民泊「じもつFURUIRA」の効果的マネジメントを進める。

活動内容

●文学フットパス事業&ヘリテージ・ツーリズム事業

- ・古平町が誇る詩人「吉田一穂」関連資料の収集・整理(民俗資料室・文献調査・小樽文学館・碑石調査等)とデジタル化を行った。
- ・古平町の旧稲倉石鉱山跡地の踏査・関連資料の収集と電子化、鉱山関係者へのヒアリングを行った。



●神社例大祭の支援活動

- ・古平町の有望な観光対象である琴平神社例大祭の保存と継承のために、クラウドファンディング事業を行った。
- ・町内にある恵比須神社の支援活動も行っている。
- ・古平町の有望な観光対象である琴平神社例大祭の保存と継承のために、クラウドファンディング事業を行った(「地域おこし協力隊クラウドファンディングアワード2024」において「事業・文化継承部門賞」を受賞)。



●民泊「じもつFURUBIRA」の開業&たらこパイ開発

- ・地域課題としての空き家の利活用や、今後の地域活動の拠点とするため民泊事業を開始した。
<https://jimotto-furubira.com/>
- ・地域の特産品である「たらこ」を使ったパイ製品(たらこパイ)の製造を委託し、町内2店舗で販売した。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人or職場)) morimasato1063@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(https://www.instagram.com/masato1859/?locale=ja_JP)

基本情報



【年 齢】
62歳
【出身地】
北海道標津郡
【転出元】
神奈川県 座間市
【前 職】
警察官
【活動時期】
R6.5～（7か月目）

協力隊に応募したきっかけ

神奈川県警察官の退職を機会に、生まれた北海道で生活したいと北海道での仕事を探していたところ、父親の実家である中標津町で地域おこし協力隊の募集を見つけました。
趣味が旅行で、観光関係にも興味があり応募したことから、現在に至っています。

今後の抱負・任期後の目標

小学校が釧路だったので、中標津町には何度も遊びに来ていました。幼少時の思い出も多く大好きな町です。
人と話すことが好きなので、人との輪を広げて観光活動やイベントなどを通じて、中標津町の自然や住みよさを町内外の人達に発信していきたいと思っています。

活動内容

●ライダーズミーティング開催

中標津町の開陽台はライダーの聖地であり毎年ライダーズミーティングを開催していますが、今年度は開陽台が工事のため旧滑走路（ゆめの森公園）で開催となりライダーだけではなく町内の人々も楽しんでもらおうと大規模で開催し多くの人に喜んでいただきメディアにも取り上げられました。
SNS「Instagram」「Facebook」やポスターを活用し、広範囲に呼びかけをしました。



●ホテルポールスター札幌での中標津町観光物産展

「牛乳で乾杯条例10周年記念事業」として、中標津町牛乳消費拡大推進委員会主催の物販に中標津観光協会として参加させていただき、観光協会オリジナル商品や牛乳、チーズ、ソーセージなど中標津町の特産品をPR販売しながら観光案内をしました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）shiraishi@kaiyoudai.jp
（電話番号）0153-77-9733（なかしべつ観光協会）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）https://www.instagram.com/kaiyoudai_official



KAIYODAI_OFFICIAL

基本情報



【年 齢】
70歳
【出身地】
東京都北区
【転出元】
神奈川県川崎市
【前 職】
株式会社電通
【活動時期】
R2.1～R6.12

協力隊に応募したきっかけ

涌谷町との関わりは、平成29年から令和元年に至る「金」をテーマとした日本遺産の申請アドバイザー契約に始まり、その間涌谷町が有する誇りある地誌の魅力に惹かれたから。そして、42年に亘る前職にて知得した思考力、体得した実践力、築いた人的ネットワーク、そして培った所作・振る舞いを基に、自ら認定に努めた日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の価値と意義を伝承し、関係人口の増大を図ることによりエリアの活性に寄与したい、と応募するに至った。

今後の抱負・任期後の目標

- ①1300年に亘るわが国産金の歴史文化の記憶を掘り起こし、次代を担う人材に向けて地域の誇りを育むこと。
- ②地域に眠る産金遺跡および砂金採取の可否等を調査し、テーマ高関心度の訪客に向けて観光資源化を図ること。
- ③上記事業を推進し、地域内・外、在日・訪日外国人の関係人口と地域経済の増大を実現すること。

活動内容

●共通の産金文化を有する市町の拡張

日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の現構成6市町（涌谷町・石巻市・南三陸町・気仙沼市・平泉町・陸前高田市）に加え、大船渡市・住田町・一関市の参入を促進し、訪客の多様な旅の目的と周遊のニーズに応える。



●日本遺産「みちのくGOLD浪漫」価値の伝導活動

わが国産金文化の意義を伝えるため域内外・主催団体問わず、講演活動を展開する。岩手県一関市市民センター：テーマ“天平産金とその時代”、福島県会津若松市：テーマ“次代へ継承すべきこと”等を実施した。



●日本遺産「みちのくGOLD浪漫」ロングトレイル造成

“みちのく潮風トレイル”等既存ルートと整備した金山遺跡を掛け合わせし、オリジナルルートを作成する。気仙沼市唐桑半島ルート、陸前高田市玉山金山遺跡探訪ルートの実績に加え、横展開を推進する。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス(個人) kyudo.560@gmail.com
電話番号 (個人) 090-2565-3996

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Facebook Instagram

基本情報



【年 齢】
43歳
【出身地】
宮城県大崎市
【転出元】
埼玉県川口市
【前 職】
建設コンサルティング企業
【活動時期】
R2.9～R7.3
(任期終了)

協力隊に応募したきっかけ

個人旅行中、偶然訪れた田沢湖高原の山荘での管理人夫婦の温かなもてなし、秋田での暮らしや熊についての話、周辺で採れた天然食材を使った滋味豊かな食事、駒ヶ岳山麓のブナ林や田沢湖の豊かな青など、美しい自然と本質的な生活、素敵な人たちに深く胸を打たれ、旅行者では満足できなくなり移住を決意。職探し中に知人経由で協力隊制度を知り、都内での移住フェアやHPで情報収集の上で応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

任期中を通じて秋田県内を中心に北東北各地を訪れ、それぞれの地域の個性や唯一無二の魅力を知る機会を多くもらいました。その時間を通して蓄積された「北東北」に関する知見や、お会いした方々は大切な宝物です。任期後は、東北地方を引き続き探求しながら、地域について内外の人に知ってもらえるコーディネータのような仕事や、観光の文脈では掬いきれない人・もの・風土の持つ個性的な魅力を深掘りして、広く発信していける仕事をしていきたいと考えています。

活動内容

●DMO：マーケティング事業

DMO主体で実施している仙北市訪問者・WEBアンケートの分析及びレポート作成。
単年度ごとの集計分析と過去分との比較レポートを毎年作成し、地域の関係者に共有。課題点の抽出や観光戦略策定などに活用。



●観光庁・モデル観光地事業

「雪国の小京都・角館の武家文化」と「雄大な大地の起伏・八幡平の馬文化」海外販路開拓に向けた実証調査事業

八幡平DMOとの連携事業。令和5年度に造成した「角館・武士道ツアー」と八幡平に残る馬文化に関するインバウンド向け調査事業。海外旅行会社2社を招聘しFAMトリップ実施。調査と共に販路開拓を目指している。



●秋田の夏酒・試飲ウォーク&夏酒を愉しむタベ

令和5年度に造成した「武家屋敷通りで秋田の地酒を学ぶ体験」からの派生イベント。昼の部は町内の試飲ポイントを巡るスタンプラリー（無料）、夜は料亭を会場に酒造の蔵人のゲストトーク、5種類の地酒のペアリング体験（有料）。JR、秋田清酒と連携。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) co-de@city.semboku.akita.jp (交流デザイン課)
(電話番号) 0187-43-3353 (交流デザイン課)
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】
仙北市地域おこし協力隊フェイスブック
<https://www.facebook.com/sembokurashi/>

基本情報



【年 齢】
39歳
【出身地】
福島県会津美里町
【転出元】
愛知県豊川市
【前 職】
営業事務、販売
【活動時期】
R2.11～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

自分が好きな故郷の過疎化に対して何か貢献したかったのと、子育てをするなら故郷のように自然が身近にある環境が良いと考えていました。

夫の転職により地元へ戻ることが可能となり、ちょうどそのとき募集していた活動内容なら自分の能力が活かせるのではと思い応募しました。

【ミッション】地域資源の磨き上げと魅力発信
(グリーンクラフトツーリズム)

今後の抱負・任期後の目標

卒隊後は起業してまちづくりに関わっていく予定です。若い世代もまちづくりに興味を持ち、戻ってきたいと思える町になるように、まずは住んでいる人が“楽しい”、“面白い”と思えることを仕掛けていきたいです。

また、副業でキャンドル作家活動も続け、絵ろうそくとはまた違った、会津ならではのキャンドルを作り出し、会津の新しい魅力を発信できればと思っています。補助金を活用し、工房も構えたいです。

活動内容

●農業×食の体験

町で盛んな農業に興味を持ってもらえるよう、2年目に農業体験と食を掛け合わせたイベントを実施しました。町の特産品である『高田梅の収穫と伝統料理「梅漬け」づくり』や、『無農薬栽培ブルーベリーの手摘みとジャムづくり』は、翌年も開催希望をいただくほど好評でした。



●地域の行事×マルシェ

人通りが少ない商店街やワイナリーへ人を呼び込むため、近隣で開催予定の町のお祭りや町主催イベント開催日に合わせてマルシェを実施しました。なるべく町の人を巻き込み、苦情が出ないように配慮したこともあり、住民の方から活気が戻ったと喜んでいただけ、イベントは町民主体で継続されています。



●地域資源×キャンドル

4年目から、地域資源とキャンドルを組み合わせ新たな魅力発信に繋げようと活動中です。果樹栽培が盛んな地域なので、果樹の花や剪定して不要になった枝を使ったキャンドルを制作したり、町の伝統産業である会津本郷焼の窯元とコラボしたキャンドルを制作しています。

卒隊後はキャンドル作家としても活動する予定です。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人or職場)) gc.tour.aizumisato@gmail.com

(電話番号(個人or職場)) 0242-55-1171 (役場 政策財政課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

[地域の情報発信] Instagram @ooki_aizumisato

[キャンドル(蠟燭)活動] Instagram @_hibitoutou_



OOKI_AIZUMISATO



@CANDLE_HIBITOUTOU

基本情報



【年 齢】
29歳
【出身地】
福島県富岡町
【転出元】
東京都
【前 職】
隈研吾建築都市設計事務所
【活動時期】
R6.8月～

協力隊に応募したきっかけ

南相馬市は千年の歴史を持つ「相馬野馬追」という祭りがあり、馬と人が共に暮らす貴重な地域です。私は大学院で南相馬市における馬と人の関係性をテーマにまちづくりの設計提案を行いました。その研究を通じて南相馬市の歴史や地形の変遷を巡り、この地域の魅力を再発見することができました。大学卒業後、建築設計事務所での相双地区の建築設計に携わる機会があり、震災から10年以上経った今でも復興計画が続いている現状を知りました。この経験をきっかけに、南相馬市の「起業型地域おこし協力隊」の一員として建築業界で得た知識や視点を活かし、相双地区や浜通りの地方創生に貢献できる事業に取り組みたいと考えるようになりました。

今後の抱負・任期後の目標

南相馬市では祭りの3日間だけ観光客が押し寄せ、宿泊施設が十分でないことから観光客が「泊まりたくても泊まらない」潜在的な課題を抱えています。そこで欲しいときに1室増えるような仕組みをキャンピングカーによってつくります。また、キャンピングカーは公共交通機関ではアクセスが難しい地方の魅力的な観光地を訪れるのにも適しています。このようにキャンピングカーによって宿泊・移動・観光が繋がり、南相馬市での新たな旅行体験として広くPRすることで、新たな観光客の獲得や観光産業の発展に寄与することを目指します。

活動内容

●旅行業・レンタカー業

令和6年度の国内旅行業務取扱管理者試験に合格したので、令和7年度の旅行業開業を予定しています。南相馬市の観光スポットや独自の体験をインバウンドやアウトドア愛好者に向けて発信し、観光客の増加を図ります。また、所有するキャンピングカーをレンタルし、福島県浜通り地域の新たな旅行の選択肢を提供し、訪れる方が地域の魅力を自由に楽しめる環境を整えたいと考えています。



●RVパーク設置コンサル

南相馬市を含む福島県浜通りでは震災以降キャンプ場や宿泊施設が不足しており、海と山が近い地形を活かしたロードトリップ需要に対応できていません。この課題を解決するため、各町にRVパークを整備し、自由に地域を巡る「広域地方旅行」を推進し、浜通りの観光ブランディングを図ります。また、宿泊できるからこそ生まれる新しい観光コンテンツの造成にも力を入れていきます。



●インバウンド向け観光情報発信

南相馬市はまだまだ知られざる魅力がたくさんある街です。その知られていないからこそその価値を最大限利用するべく、インバウンドに向けて発信していきます。祭りがあることで現代にも残る国内有数の馬事文化や古墳、石仏などの歴史的な観光スポットから、新たな酒造りのホットスポットまで、様々な南相馬市の魅力を発信していきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) kusaka@rinctrip.jp
(電話番号) 0244-26-4665

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) @REGION_TRAVEL_JAPAN

@REGION TRAVEL JAPAN



基本情報



【年 齢】
37歳
【出身地】
長野県飯田市
【転出元】
東京都豊島区
【前 職】
TVディレクター
主夫
【活動時期】
R.2.4～ R7.3
(5年目)

協力隊に応募したきっかけ

- 1、大学で建築・まちづくりを専攻
- 2、同時に自転車ツーリングサークルにも所属
- 3、テレビ制作で地域の魅力を紹介する番組を制作
(東北エリア)

以上3つやこれまでの経験がすべて生かせる仕事だったこと、また家族ができて働き方などを考え直している時期だったので模索できる時間になると考えました。

今後の抱負・任期後の目標

延長1年目、協力隊は5年目となりました。昨年3月に法人を立ち上げ、定住に向けての取組を一步進めました。自転車事業は市の方針に合わせ、市民向けの自主イベント開発や自転車教室など、市内で気軽に乗れる取組を加速させていきたいです。任期後に向けて自転車事業だけではなく、協力隊業務の傍ら、地域コーディネーターや中間支援組織運営など「ローカルでの仕事」のチャンネルを増やし、稲敷を中心に「県南・チバラキ・霞ヶ浦エリア」で活躍できる取組を進めています。

活動内容

●稲敷市自転車PR事業「イナシキライド」の推進

稲敷市の自転車事業を共通のイメージにするために「イナシキライド」というタイトルでブランディングを行いました。
ツアー、レンタサイクル、サイクルサポートステーション、MAPなどのグッズ展開に関わり、PR動画制作も監修しました。



●サイクリスト向け住宅提案事業

茨城県事業「過疎地地域インターン促進事業」を活用した取組。
稲敷市内企業（井川建築設計事務所）に地域と縁のない大学生2名をマッチングし1ヶ月間住み込みながらサイクリスト向けの「住宅提案ができる設計事務所」となるための営業資料の作成に取り組みました。



●まちづくり会社を設立

令和5年3月に、稲敷市民3名（私含めて）で「いなしきむすび合同会社」を設立しました。空き家をリノベーションした拠点施設を運営・管理、貸スペースとシェアキッチン事業を進めています。また、倉庫をサイクルサポートステーションとして活用を目指すなど、定住に向けて仕事づくりをしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

「メールアドレス（個人）」i10aym@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

<https://i10aym.wixsite.com/musan>

<https://www.city.inashiki.lg.jp/page/dir009107.html>

基本情報



【年 齢】
37歳
【出身地】
台湾高雄市
【転出元】
東京都大田区
【前 職】
ハイヤー運転手
【活動時期】
R6.10～

協力隊に応募したきっかけ

私は昔から日本が好きで毎年のように訪日し様々な観光名所を訪れ、日本の自然や文化に魅了され、いつか日本で観光業に携わりたいと考えるようになりました。

2022年に来日し、都内で運転手と観光ガイドとしてハイヤー会社に勤めましたが、都会よりも日本の魅力的な四季や自然を感じられる場所で暮らしたいと思っていたところ、台・日交流のFacebookのグループで渋川市の地域おこし協力隊について知り、自分の実現したい暮らしができるのではないかと考えたことがきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

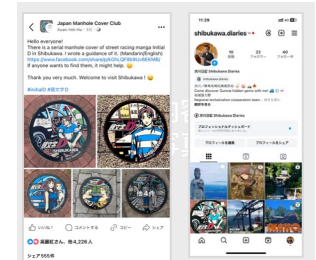
渋川市に移住したばかりなので、伊香保の歴史、渋川の観光資源、知識など色々勉強中です。今後、台湾・世界と日本の懸け橋となり、渋川市の魅力を発見し、世界中に発信し、広めていきたいと思います。

前職の経験を活かして、渋川市のインバウンド観光振興のために貢献したいです。

活動内容

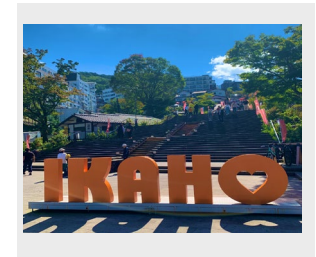
●インバウンド向け観光情報発信

中国語・英語を中心にFacebook、X、Instagramで渋川市の観光スポット、観光情報などを発信しています。



●インバウンド向け伊香保温泉石段街ガイド

インバウンド向けに伊香保温泉のメインスポットである「石段街」をガイドできるよう、伊香保温泉の観光ガイドの会の方に研修を依頼し、伊香保の観光スポットや歴史、文化について学んでいます。



●インバウンド向け体験観光商品の造成や催行

創作こけしの絵付け体験、フルーツ狩り等、体験を楽しむことができる観光資源が渋川市にはあります。その他にも、外国人目線で楽しめる体験を発掘し、ツアーとして企画していきたいと思っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス職場) shibukawachiiki@gmail.com

(電話番号個人) 070-9190-0317

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(Facebook) <https://www.facebook.com/shibukawa.diaries>

(Instagram) <https://www.instagram.com/shibukawa.diaries/>

(X) https://x.com/shibukawa_diary

基本情報



【年 齢】
39歳
【出身地】
中国吉林省
【転出元】
東京都北区
【前 職】
医療通訳
【活動時期】
R4.5～

協力隊に応募したきっかけ

神社・寺院巡りが好きで、友人の案内で香取神宮を訪ねたことがきっかけで佐原地区とご縁ができ、何度も訪ねるうちに、好きな着物が似合う街並みが大好きになりました。さらに香取市はじめ北総エリアの自然や歴史にも興味を持ってきたところで、地域おこし協力隊隊員募集を知り、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

香取市の歴史や文化を国内外へ発信していきたいと思っています。インバウンドの復活、具体的に企画して都内や海外から人を呼び込み、香取市ファンを増やしたいと思っています。さらには企業誘致なども積極的に取り組んでいきます。香取市や北総エリアの魅力を発信、内外のネットワークを活用して観光客を誘致して関係人口を増やし古民家再生から移住者に繋げ、我が故郷香取市となるような地域の活性化に繋がっていきたくてと思っています。

活動内容

●着物で町並み散策

小野川沿いの街並みはまさに着物の似合う小江戸風景。内外からのゲストに着付けをして着物の魅力を感じていただきながら街歩き。テンション上がって見えてくる風景はいつもよりさらに美しく感じます。皆んなで写真とってSNSに配信。カフェやランチも美味しくいただきました。



●地元食材を使って、観光客向け料理教室の開催

香取市はとにかく農産物が豊富です。その新鮮な地元の食材を使って、農家の方の顔が見える安心で安全な料理教室。地域で昔から作っている伝統料理から新しい発想の創作料理まで、観光客にも人気で皆んなでワイワイ楽しく作って、お腹いっぱいいただきました。



●古民家再生

香取市の小見川地区にある築近100年の古民家の再生プロジェクトスタート！前面には田園風景が広がり、後ろには城址の竹林を抱える歴史ある集落の古民家です。敷地内に作業場や蔵もあり宿泊から文化イベントまで様々な企画や活用も可能で完成が楽しみです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】香取市商工観光課
(メールアドレス) kanko@city.katori.lg.jp
(電話番号) 0478-50-1212

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://www.facebook.com/katori.kyoryoku>



基本情報



【年 齢】
51歳
【出身地】
神奈川県横浜市
【転出元】
神奈川県相模原市
【前 職】
調理員
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

自然豊かな環境で、新鮮で美味しい野菜が身近にあるところで、食の提供をしたいと思っていました。
様々な人と繋がれる、地域おこし協力隊の制度を知り応募いたしました。

今後の抱負・任期後の目標

今年度で任期終了なので、いすみ鉄道や地域に恩返しできる活動をしていきたいです。
退任後は、野菜作りや、地域に伝わる郷土料理などを学び、食に携わることで起業を目指します。

活動内容

●鉄道利用促進イベント開催

お客様のご要望をいただき、いすみ鉄道 里山ハイキングin大多喜 第2弾「体験型・プチハイキング」を企画しました。
いすみ鉄道を利用して、里山を感じながらゆっくりと訪ね歩くハイキングで、竹灯籠製作体験、チーズ工房【千】Sen（モッツアレラチーズ実演販売）、齋藤家/蔵の宿（見学）、きこりおじさんのはちみつ（蜂蜜の食べ比べ）などを体験するハイキングコースで利用促進を図っています。



●鉄道利用促進イベント開催

ご好評いただいている、いすみ鉄道 里山ハイキングin大多喜 第3弾「城見ヶ丘コース・体験型ハイキング」を企画しました。
いすみ鉄道を利用して、大多喜町内の隠れたスポットをゆっくりと訪ね歩くハイキングで、SCOOP FARM（野菜収穫体験）、農園食堂andカフェ膳所（ランチ）、然 ZEN（本藍染めのお話と見学）、大多喜ハーブガーデン（マルシェ）などを体験するハイキングコースで利用促進を図っています。



●「いすみ鉄道で行く！貝の宝石づくり体験」イベント開催

学童保育に通う児童を対象に「いすみ鉄道で行く！貝の宝石づくり体験」を企画しました。
町内の小学生に、地元を走るいすみ鉄道をもっと知ってもらいたい、もっと好きになってもらいたい、もっと乗ってもらいたいという思いから、夏休みの校外学習として、いすみ鉄道に乗りいただきました。
いすみ鉄道と地域を繋ぐ、利用促進を目指しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス(職場)）大多喜町役場企画課地域交通係
kotsu@town.otaki.lg.jp
（電話番号(職場)）0470-82-2112

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram/チョイモビ大多喜 @choimobiootaki

基本情報



【年 齢】
45歳
【出身地】
新潟県新潟市
【転出元】
新潟県長岡市
【前 職】
会社員
【活動時期】
R6.7～R9.6

協力隊に応募したきっかけ

以前より、南魚沼市にある八海山麓スキー場でマウンテンバイクを通じて関わっていたため、20年以上通っている馴染み深い地域です。自然のフィールドを活用したスポーツや地元の特産品を使った食など魅力がたくさんあり、もっと深く知っていききたいと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

今後の抱負としては、自転車によるまちづくりを中心に行い、地域のイベント等を立ち上げて、若い人たちや中高年の人たちが交流をもてる場を作りたいと考えています。任期後の目標は若い世代がまちから流出し、高齢化が進んでいるので、スキー場を利用したフィールドスポーツを推進したり、地域に貢献できるような活動に取り組んでいきたいです。

活動内容

●マウンテンバイクによるまちづくり

夏場のスキー場の活用としてマウンテンバイクを使ったアクティビティを進めていきます。子供から大人まで楽しめるスポーツということでスキー、スノーボードのようなカルチャースポーツにしていきたいです。



●イベントを通じて地域の食や文化を発信して行きたい

南魚沼市には地元の方しか知らない料理や食材、イベントやお祭りがありどれも魅力的なもののばかりです。それらを発信して観光や移住に繋げていけるように地域の方と協力して発信して行きたいです。



●里山整備で山を綺麗にしてもっと人が入れる里山にしたい

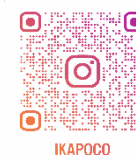
地域の方の高齢化もあり里山の整備が追いつかずに草や木がどんどん生えていってしまっています。整備することでトレッキングやマウンテンバイク等のアクティビティの活用フィールドになります。身近に感じる里山フィールドを作りたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人or職場)) sunrocked01@gmail.com
(電話番号(個人or職場)) 090-2235-1592

instagram



IKAPOCO

FACEBOOK



基本情報



【年 齢】
35歳
【出身地】
台湾高雄市
【転出元】
東京都杉並区
【前 職】
会社員
(商社で通訳と品質管理)
【活動時期】
R5.7～

協力隊に応募したきっかけ

高校卒業後に日本留学し、東京で10年以上生活しました。趣味の端唄三味線の先生が新潟市秋葉区出身で、そのご縁で2023年5月に五泉市で田植え体験をし、地域おこし協力隊の募集情報を知りました。きれいな水と自然豊かな環境に惹かれ、地方生活を体験してみたいと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

移住者の目線から見た五泉市のことをSNSなどを通じてたくさんの人に届けたいです。取材を重ね、五泉市と地域の方々のことをもっと知りたいし、台湾のことも知ってもらいたいです。また、台湾華語、中国語などの語学力を生かして、中華圏の人に発信できればと思います。

活動内容

●SNS（Facebook、Instagram）を通じて情報発信

協力隊の発信ツールとしてメインで使ってきたFacebookに加え、協力隊員同士で協力隊インスタグラム公式アカウント「五泉ぐらしなう。@gosen_gurashi」を立ち上げて運用中。日本語の投稿の下に、台湾で使われる繁体字中国語の内容も入れています。



●note「【五泉市移住定住支援サイト】五泉にきなせや！」に取材した記事を上げる

移住定住支援サイトとしてのnoteアカウントでも、市内で取材した記事を上げています。お祭りやイベント、文化財巡り、街歩き、温泉…など、五泉市のことを知ってもらうための記事を作成、公開しています。

●五泉市の台湾との交流視察に同行

2024年10月、五泉市からの台湾観光経済視察団に同行し、台湾の高雄市と高雄市甲仙区と交流を行いました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）kikaku@city.gosen.lg.jp （電話番号）0250-43-3911

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（五泉市地域おこし協力隊フェイスブック）

<https://ja-jp.facebook.com/gosen.kyouryokutai/>

（五泉市地域おこし協力隊インスタグラム）

https://www.instagram.com/gosen_gurashi/

（note【五泉市移住定住支援サイト】五泉にきなせや！）

<https://gosen-city.note.jp/>



基本情報



【年 齢】
28歳
【出身地】
石川県金沢市
【転出元】
石川県金沢市
【前 職】
飲食店勤務・フリーカメラマン
【活動時期】
R5.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

これまでの経験を活かし、地域活性化に貢献できればと思い応募しました。
また、子育てのしやすい環境を考えたところ、子育て支援が充実していること、自然が豊かで公園が多いこと、金沢市までのアクセスが良いこと等、全ての環境が整っていた内灘町に移住したいと決めました。

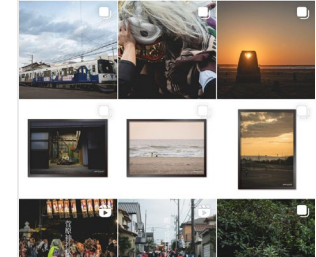
今後の抱負・任期後の目標

写真や映像を通して地域住民との交流を深めながら、国内外に内灘町の魅力を発信していきたいと考えています。
任期後については、カフェの経営を考えており、観光客と町民が気軽に訪れることができる憩いの場を作りたいと考えています。

活動内容

●情報発信、PR

SNSを活用した内灘町の魅力発信を行っています。
観光地として有名どころはもちろん、あまり知られていない観光スポットなどを紹介しています。
また、町や地域のイベント等の撮影も行っており、多くの方々と関わる機会が多いため、学ぶことが沢山ありとても刺激になります！



●観光ボランティアガイド

内灘町観光案内所にて、観光案内やレンタサイクルの貸し出しを行っています。
訪れる方々に満足いただけるよう「おもてなしの心」を大切にしながら日々業務に取り組んでいます。
内灘町に遊びに来られた際は、みなさんは是非立ち寄ってくださいね！



●能登半島地震における活動

内灘町も一部エリアで甚大な被害があり、発災当初は記録として写真を撮影し、その後炊き出しや、災害ボランティアもしました。復興イベントや、募金箱の設置なども行い、継続的に震災への対応を行なっていく予定です。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) kawai.utok@gmail.com
(個人電話番号) 080-4254-9496

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) <https://www.instagram.com/kawai.utok/>

基本情報



【年 齢】
26歳
【出身地】
山梨県南アルプス市
【転出元】
東京都板橋区
【前 職】
求人広告の営業職
【活動時期】
R4.11～R7.10

協力隊に応募したきっかけ

大学時代に観光まちづくりを学び、その経験を活かして現場でまちづくりに携わりたい、特に地元の山梨県のまちづくりに貢献をしたいと思い応募しました。前職につきながらぼんやりと上記のようなことを考えていて、挑戦するなら今しかないと思い応募しました。協力隊という仕事の選択肢は大学の教授から教えてもらい、山梨県出身ですが土地勘のない西桂町をあえて選びました。

今後の抱負・任期後の目標

現在1年目を終え、地域の方と交流することをメインに活動をおこなってきましたが、2年目以降はより地域の方との交流を深め、地域の魅力をこれまで以上に発信できたいと考えています。以下を目標に活動をおこなう予定です。

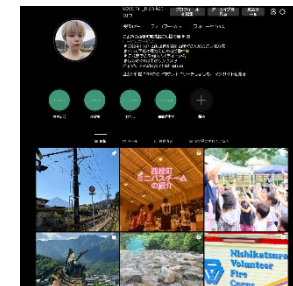
- ・地域の活動を町内の若者にSNSを通して知ってもらい、シビックプライド（郷土愛）を高めること。
- ・三ツ峠山をはじめとした町の「手つかず」の自然の魅力をSNSで発信し、観光客誘致を推進すること。

活動内容

●SNSをつかった西桂町の魅力発信

主にInstagramを使用して、西桂町を発信しています。発信のテーマは以下の通りです。

- ①西桂町民が町内のことを知るきっかけとなり、シビックプライド（郷土愛）を高める発信。
- ②県内知名度が低い西桂町のことをまずは山梨県民の方、さらには日本全国、世界中の皆さんに知って訪れてもらうきっかけになる発信。



●西桂町の「飾らない」魅力発掘

西桂町には、開運の山・三ツ峠山や富士山のふもとの清冽な水、古くから町内で育てられた織物産業（通称・郡内織物）があります。

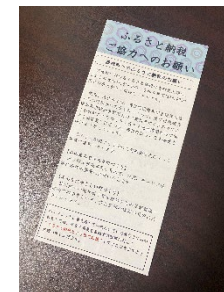
上記の魅力は近隣地域でも存在するものであるため、これらを活かしながら西桂町特有の魅力を掛け合わせていくことが必要だと考えています。その掛け合わせとして地域の方の魅力をそのまま発信するために地域交流を大切に活動しています。



●ふるさと納税利用促進活動

西桂町への寄附額は年々上昇の傾向にあります。今後の町の発展のためには、さらなる高みを目指す必要があります。

西桂町への寄附額を上昇させるために、出品して下さっている事業所様の紹介や寄附金が現在どのように活用されているかなどのチラシを作成しています。継続してチラシ作成を行い、定期的に西桂町の「今」を全国の方にお知らせしていく予定です。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

✉メールアドレス✉ koyomi.nishikatsura@gmail.com

☎電話番号（職場）☎ 0555-25-2121（西桂町役場）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

活動のSNSはこちらから <https://lit.link/koyom1nishikatsura>

FOLLOW ME



基本情報



【年 齢】
27歳
【出身地】
埼玉県本庄市
【転出元】
埼玉県本庄市
【前 職】
観光業
【活動時期】
R5.6～R8.5

協力隊に応募したきっかけ

元々学生の時に静岡県三島市に住んでいたこともあり伊豆の国市にはよく訪れておりました。また観光系の学部ということもあり、伊豆長岡温泉で毎月第2日曜日に開催されているマルシェ「お散歩市」に学生団体としてボランティアを行ったり、活動を通して「伊豆長岡温泉の再生に向けた地域資源調査」について大学コンソーシアムにて発表などを実施しました。

伊豆の国市で関わった方々の街をより良くしたいという思いに感銘を受けて今回の応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

地域おこし協力隊としての任期も残すところ一年半となり、伊豆の国市に愛着もわき、地域住民との繋がりも増えていく中で、自分もこの地に腰を据えて事業を行いたいと考えてなっています。
現在メインで行う業務の宿泊事業のノウハウを活かし自身でも宿泊施設を運営したいと考えています。

活動内容

●宿泊事業（さかなやステイ）

・令和5年6月30日オープン。
"まちに泊る"がコンセプトの一棟貸しによる分散型ホテル「さかなやステイ」での業務全般。
またさかなやステイの駐車場兼多目的スペースである「ミライ広場」を利用したイベントの企画運営等。



●伊豆の国市の着地型旅行商品の開発・販売

・地域限定旅行業の登録から、伊豆の国市とそれに隣接する市町村の観光資源の発掘と調査。
・さかなやステイを宿泊地としたツアーの企画販売。伊豆の国市の交流人口、関係人口を増やす。
・アーティストや企業など多様な業種に対応したツアーの企画。



●地域密着のイベント企画・運営

温泉場のメイン通りで毎月第二日曜日に開催の「お散歩市」の運営。
伊豆の国市全域の事業者と協力し伊豆の国市を巡る、「まるごと伊豆の国でデジタルスタンプラリー」の企画・運営など。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) giaizuspa@gmail.com
(電話番号(職場)) 080-3274-3570
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(伊豆長岡温泉ミライ会議) <https://izuspamirai.com/>
(さかなやステイInstagram) QRコード



基本情報



【年 齢】
26歳
【出身地】
新潟県長岡市
【転出元】
神奈川県厚木市
【前 職】
設計事務所勤務
【活動時期】
R4.12～現在

協力隊に応募したきっかけ

湖西市に移住し、今後の展望にもあるゲストハウスの開業に伴い、湖西市の観光について知ること、地域の人に自身の活動を知ってもらいたいと考えていました。その時に、湖西市の地域おこし協力隊（分野：観光PR）の募集を見つけ、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

退任後は、引き続き、観光PRを行っていきたいと考えております。地域おこし協力隊で築いた地域の人との関係性を生かすこと、未だ生かしきれていない観光資源を観光に生かすことを今後の目標とし、観光客誘客に結びつけれたらと考えております。当初はゲストハウス開業を目標に活動を行っていましたが、退任後も継続して、開業に向けて、活動を行えたらと思います。

活動内容

●SNSでの観光PR

私は観光協会に所属しながら、観光協会のHPの更新、観光協会及び個人のInstagramでの情報発信を行っています。



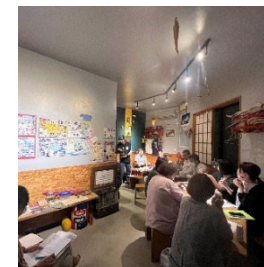
●月1での観光情報ペーパーの配布

「地域おこし協力隊ってどんな活動を行っているの？」という問いに着目して、私自身の月1の活動や湖西市内のお店の紹介などが記載された『月刊SATO』という情報ペーパーと観光協会の活動や湖西市の月1のイベント情報が記載された『KOSAI JOURNAL』の情報ペーパー、2つの作成と配布を行っています。現在、湖西市内の約70店舗に配布しております。



●まちづくりMAPの作成

湖西市新居町にある「新居町情報発信PRチーム」に所属し、毎年作成している地図の更新とイベントに合わせたMAPの作成をメンバーと共に行っております。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））tsato.kosaikyoryokutai@gmail.com
（電話番号（個人））080-6526-7497

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）https://www.instagram.com/kosai_takuma/

基本情報



【年 齢】

40歳

【出身地】

茨城県水戸市

【転出元】

茨城県水戸市

【前 職】

カフェ経営、イベント運営企画

【活動時期】

R4.6～R7.8

※出産・育児のため3カ月中断

協力隊に応募したきっかけ

30代後半になった頃から、今後の人生を改めて考えていました。

『自然豊かな環境で新しい土地に貢献しながら自分自身も豊かに生きたい。』という想いに気づき、住むなら海の近くという私と、山が好きな夫。夫婦二人が理想としていた『自然』『伝統』『文化・暮らし』『食』全て揃っている尾鷲市三木里町。

ミッションである『暮らしを守る、新たな持続可能な観光の仕組みづくり』が私のやりたい事にピッタリだと思ったので協力隊に応募しました。三木里町の可能性は無限大だと感じています。

今後の抱負・任期後の目標

今後も自然や伝統文化を活かしながら、小さくてもキラリと光るまちづくりを発展させるため、リユースをはじめとする「5つのR」を推進する活動などに取り組んでいきたいと思っています。少しでも多くの方が、サステナブルこそ三木里の魅力であると自覚することにより、自然保護、文化・伝統の継承、受け入れ体制の向上、そして何より、住民自身の地域への満足度向上に繋がるのではと考えます。何でもokの受け身の観光地ではなく、住民の負担無く問題が少ない“選ばれる旅先”を目指したいと思っています。

任期後は、季節ごとに異なる魅力的な自然を体験することができる三木里の特性を活かし、日常生活から離れて自分と向き合い、ゆったりとした時間を過ごして心と体をリラックスさせる旅のスタイル、リトリートを取り入れた観光の仕組みづくりをしていきたいと思っています。

活動内容

●巡りサイクルイベント運営企画

三木里巡りサイクル＝社会問題解決型イベント

そっとゆずれる宝物。『誰かのいらない物は誰かの必要なもの』をコンセプトに、ゴミがゴミじゃなくなる、エコで地域を持続可能にしていくイベントの運営企画をしています。三木里は車が通れない場所に住まいがある方も多いため、重いゴミ(粗大ゴミやガラスゴミ)はゴミの日に出せずそのままになっている事が多いと伺い、私と集落支援員さんとタックを組み、高齢者の家を訪問し、不用品の回収、分別後、まだまだ使える物をバザーとして出品して売り上げを小学校の修繕費として寄付しています。

三木里巡りサイクルを令和6年12月1日(日)に開催しました。

●アルドくんのビーチクリーンプロジェクト

ボランティア団体『巡りサイクル_海』を立ち上げ、みきさといーぐみさんとダブル主催で海ゴミをジブンゴトとして考える仕組みづくりをテーマに多様な人とまじりあい、いろいろな形でビーチクリーンの輪、豊かな海を守るための意識が広がることを目指しています。

●巡りサイクル +α ビオトープ 三木里小学校裏庭再生プロジェクト

三木里は自然豊かな素晴らしい環境。地域の皆で管理しながら、自然環境の保全や復元、創造を目的に三木里小学校の裏庭にビオトープを作り、自然体験を通して訪れた人が遊んで学んで癒される場所を作る計画をしています。

●農ある暮らしイベント運営企画

三木里には海も山も川もそして畑もある素晴らしい環境。土に触れ野菜を通して三木里の自然環境を感じてもらえたらという思いから空き家バンクさんと移住者目線になって農ある交流会を企画運営しています。

畑を皆で管理しながら、農業や化学肥料を使わずに季節にあった野菜の栽培方法のコツを教えてもらったり、収穫したり。交流を兼ねた農業体験講習会です。

連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

三木里暮らし

@mikisato_gurashi

アルドくんのビーチクリーン

@aldos_beach_clean



MIKISATO_GURASHI



ALDOS_BEACH_CLEAN

基本情報



【年 齢】
40歳
【出身地】
山口県
【転出元】
大阪府大阪市
【前 職】
—
【活動時期】
R6.6～R9.5

協力隊に応募したきっかけ

自分の発想やアイデアが地域おこしの力になるかもしれないプロジェクトに興味湧き、自然と海、キャンプ地として魅力あふれる岬町で活動してみたいと思いました。

今後の抱負・任期後の目標

動画編集が好きなので、SNSやYouTubeを利用して、岬町の魅力を特に若者に向けて発信したり、岬町でのイベント企画やMCとしての盛り上げにも力になれば幸いです。任期後も岬町に携わることができれば幸いです。

活動内容

●活動内容 1

町公式Instagram等において、町内外の方に向けて町の魅力を発信しています。



●活動内容 2

町内外の各種イベントへ参加し、町のPRを積極的に行っています。



●活動内容 3

町が作成する移住・定住促進PR番組に出演し、「岬暮らし」の良さを自身の体験を基にアピールしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス・個人) hijirifujimoto1350@gmail.com
(電話番号) 072-492-2775
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】
https://www.instagram.com/osaka_misaki_official/ (町公式Instagram)
<http://www.town.misaki.osaka.jp/soshiki/matidukuri/kikaku/chiikiokosiugoki/5037.html> (地域おこし協力隊の動き)

基本情報



【年 齢】
42歳
【出身地】
山口県山陽小野田市
【転出元】
東京都大田区
【前 職】
シンガーソングライター
【活動時期】
R6.4～

協力隊に応募したきっかけ

高校卒業後に上京して音楽活動をしていたが、東日本大震災を経験し、考え方が大きく変わる。地元と何かでつながってほしいという思いから「スマイルプランナー」に登録。ふるさとの魅力を発信していくことにやりがいや楽しみを覚えるようになり、山陽小野田市の応援ソング「スマイルシティ」を制作、発表。こうした縁からふるさとへの恩返しとして地域おこし協力隊へ応募した。

※スマイルプランナー：自分らしく柔軟な発想で笑顔づくりの企画者・実践者

今後の抱負・任期後の目標

まだまだある「市の魅力」を発掘し、市のキャッチフレーズである「スマイルシティ」のとおり、笑顔あふれるまちおこしをしていきたい。

また、ラジオ番組と連携し、県外の方々にも遊びに来てもらえるようなイベント作りもしていきたい。

その一つとして、任期満了までに市の不二輸送機ホールでワンマンライブを開催したいと思う。

活動内容

観光振興

これまでの観光協会HP等でのイベント開催告知のみに留まるのではなく、より濃い内容となるよう細かな取材やこれまでとは異なる視点からの情報発信を心掛けている。

SNSでの動画「オレンジのガードレール」は再生回数27万回を数えた。



FMラジオ等を活用した市の情報発信

雇用先のFMスマイルウェーブで市の情報発信をしている。ミキサー業務をしながらパーソナリティーも務めている。

山陽小野田市の魅力発信につながるテレビ取材等も積極的に受けている。



市の活性化及びPRに向けた提案と実践

市ではイメージカラー「オレンジ」と親和性が良く人気がある「ハロウィンイベント」を毎年開催しているが、イベントに苦慮しており新たな視点でのイベントが必要となっている。今年度は地域おこし協力隊員としてだけでなくシンガーソングライターとして自身が作成したテーマ曲を披露した。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人)) nishihiroshota@gmail.com

(電話番号(個人)) 080-4165-5821

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

https://www.instagram.com/sanyoonoda_kankoukyoukai/

<https://www.facebook.com/sanyoonodatourismassociation>

基本情報



【年 齢】
28歳
【出身地】
東京都練馬区
【転出元】
東京都練馬区
【前 職】
不動産営業
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

東京出身ではありますが、大学進学時に北海道網走市の大学（海洋水産学専攻）へ進学したことで田舎暮らしの良さに気づきました。ただ、卒業後は社会人経験を積むために一度東京へ戻り就職しました。不動産ベンチャー企業で武者修行しながら、常に田舎暮らしについてのアンテナを高めていたところ、阿南市の地域おこし協力隊の情報を発見。もともと海が好きであったため、「阿南市をSUPで盛り上げる」というプロジェクトに興味を惹かれ、入隊を決断しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期中に築いた人間関係を活かし、任期終了後は下記3つの仕事を中心に、引き続き阿南で生活を継続したいと思っています。

- ①受け入れ団体での仕事を継続して引き受ける
 - ②地元企業にて週3日の正社員勤務
 - ③起業による築古再生賃貸事業
- 限られた時間で3つの仕事をバランスよくこなしていき、都会では実現できない自分だけの田舎での生活のしかたを見つけていきたいです。

活動内容

●豊かな自然環境を生かしたSUPスクールの実施

阿南市の豊かな海洋環境を観光にも活用できるようにSUP体験のできるカフェ（GOGOSUP&CAFE）を淡島海岸という場所で運営しています。近年SUPの認知度も上がってきていることもあり、県内だけでなく県外の様々な場所から年間400人前後のお客様にお越しいただいております。



●SUPレース大会を通じて県外に魅力発信

SUPには競技としての側面もあり、その競技人口も増えており、各地で大会が開催されております。阿南でも西日本選手権など日本SUP協会公認大会を4回開催し、全国のSUPファンの認知向上を高めております。世界チャンピオンをゲスト招待するなど国際的な交流も積極的に図っております。



●水辺の安全を守るライフセービング活動

水辺の楽しみ方を伝えるだけでなく、その危険性も同時に伝えることがSUPスクールの役割であるため、日本ライフセービングクラブの資格を取得しました。夏場の海水浴期間はホームビーチである淡島海岸でライフセービング活動を行い、海の事故の未然防止に取り組んでおります。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
メールアドレス（個人）8903rhcp@gmail.com
電話番号（個人）080-3388-0360

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
GOGO SUP&CAFE Instagram

04 商品開発・販売

基本情報



【年 齢】
55歳
【出身地】
東京都台東区
【転出元】
東京都新宿区
【前 職】
会社員
【活動時期】
R 6.4～R9.3

協力隊に応募したきっかけ

地域社会への貢献と人とのつながりを大切にし、震災や原発事故にまつわる誤解を解消し、今までの自分の経験を活かし笑顔を取り戻すために猪苗代町に貢献したいと考え応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期後は猪苗代町に永住し、ふるさと納税拡充を通して繋がった地域の人たちと猪苗代町を訪れる人たちが笑顔になれる飲食系の事業を行いたいと考えています。

活動内容

●ふるさと納税サイト充実支援

ふるさと納税サイトで猪苗代町をもっと知ってもらい寄附者へわかりやすく伝えるため寄附の使い道のイメージ画像を追加し返礼品の特集ページや各返礼品の詳細ページの作成を行っている。



●ふるさと納税返礼品開拓

猪苗代町商工会をはじめ地域の方たちの協力をいただき新規事業者の開拓により特産品を提供いただくよう働きかけ、10月現在で新規事業者18事業者返礼品120アイテムに拡充いたしました。今後も返礼品拡充を継続して参ります。



●ふるさと納税事業拡充支援

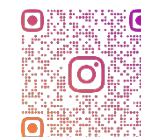
東京猪苗代町民会総会や東京都豊島区イケ・サンパークでのファーマーズマーケットへ参加し都心の皆さんに直接ふるさと納税の紹介を行っています。また、JR横浜駅構内JREMALL Caféのイベントに商品提供を行い猪苗代町のふるさと納税の紹介を継続的に行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））suzuki-daisuke@town.inawashiro.fukushima.jp
（電話番号（職場））0242-62-2112

【猪苗代町地域おこし協力隊Instagram】



基本情報



【年 齢】
47歳
【出身地】
新潟県魚沼市
【転出元】
埼玉県戸田市
【前 職】
製造業
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

以前、宮城県石巻市で芸術による震災復興イベントに参加し、その土地に根付いた文化や食材を見つめ直し、地域内外の方に提案・発信するという事に関わりました。それに加えて、パン屋をやりたいという自分の夢の実現を目指して、模索していました。
どこで・どのようににはじめるか。
どのようにしたら地域に根を張れるか。
ひとつの可能性として、地域おこし協力隊を考え、大好きな地である新潟を選びました。

今後の抱負・任期後の目標

パン屋をやります。
ただ、普通のパン屋では勝てないし、興味ありません。
新潟であること、柏崎であること、この土地であることの必然性や可能性と向かい合い、唯一無二のパン屋になれたらと思います。
とはいえ、これも簡単なことではありませんね。
しっかり努力・勉強して、地域に根付いた、負けないパン屋を目指そうと思います。
立派な木造校舎があります。是非、遊びに来てください！

活動内容

●パンの製造・販売

パン屋で修業した経験を生かし、地域の風土・食材を生かして種類豊富なパンを作っています。
作ったパンは喫茶営業に合わせて販売を行っているほか、地域外の施設やイベントでの出張販売を行っています。パンの販売を通じて地域を知ってもらい足を運んでもらうきっかけを作っています。



●木造旧校舎を活用した喫茶営業

地域に残っている木造旧校舎を人が集まる場とするため、毎月第2・4の土日曜は食堂、それ以外の金土日曜は喫茶営業を行っています。
喫茶店営業時には、パンに加え、地元の食材を使ったソーセージのホットドッグと、スペシャルティコーヒーで、地域内外の方をお迎えしています。



●小麦の試験栽培

地域で新しい農産物を栽培する取り組みを行っており、令和5年の秋から小麦の試験栽培を始めました。令和6年6月に初の収穫を迎え、収量が少なめではあったものの品質検査の結果は十分製品化できるものでした。今後は地域の皆さんが中心となり、作付面積を増やして販売を目指していく予定です。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

柏崎市市民活動支援課
(メールアドレス) shien@city.kashiwazaki.lg.jp
(電話番号) 0257-43-9127

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(Instagram) https://www.instagram.com/michikusa_betsumata/

基本情報



【年 齢】
54歳
【出身地】
東京都練馬区
【転出元】
東京都練馬区
【前 職】
SE（金融・気象など）
【活動時】
R4.4～R7.3
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

30代の頃から自然の中に身を置いて暮らしたいと思っていました。自然豊かな山の暮らしを地域の方から学び、自分がこれまで経験してきた植物療法にかかわる蒸留や活用方法などの知識や経験を生かして、早川町の豊かな植物資源を地域おこしに繋げていくことができると思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

最近全国的に盛り上がっている「クラフトジン」のレシピを考案したり、ハーブガーデンを蜜源とした日本みつばちの養蜂にもチャレンジしたいです。町で暮らしている人達が、交流したり少し癒されたりするようなコミュニティスペースやイベントを企画して、移住してきた私自身が楽しく豊かに暮らしている様子を発信することで、少しずつ早川町のファンが増えたらいいなと思っています。

活動内容

●香り蒸留事業

早川町の豊富な針葉樹や芳香植物を原料として蒸留し、精油、ミスト、など特産品としての商品開発をし、町の特産品、ふるさと納税返礼品への登録をしました。今後は温泉地でもあるので、サウナのロウリュウで使用できるアロマ水や香りの石けん、ご当地コスメなども開発していきたいです。



●雨畑ブラックシリカの硯以外の商品開発

良質な硯石としての雨畑真石の伝統文化を守りつつ、高い遠赤外線放射率を持つ特性を活かした硯以外の商品開発、お土産品としてのアクセサリー製造をしています。甲州和紙とのコラボ商品（和紙香水）なども開発しました。



●無農薬の早川町産緑茶・紅茶の普及

早川町には茶畑があり、小規模の製茶工場もあります。無農薬栽培で多くが自家用となっていますが、大変貴重であり、また水が豊かで美味しい早川町なので、町内産の緑茶や紅茶を、美味しいお水で淹れて提供できたり、植物染めやリース作りなどクラフト体験などができるスペースを作っていきたいです。



連絡先

【連絡先】
バーデンガーデン
(作業場所) 409-2727 山梨県南巨摩郡早川町薬袋274
(メールアドレス) baden_garden@nifty.com
(電話番号) 080-7485-1803

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
愛知県岡崎市
【転出元】
愛知県岡崎市
【前 職】
ワイン製造
【活動時期】
R5.4～

協力隊に応募したきっかけ

愛知県出身で、愛知県内にワイナリー設立を目標としていた。ワインブドウには冷涼な環境が必要であり、設楽町の駒ヶ原地区は標高900mもあり、ワインブドウを作る環境に適していたため、設楽町の協力隊に。

また、設楽町は名古屋から1時間半圏内という立地とその道中にある自然豊かな景観が魅力的であり、素敵な自然と触れ合える、そんな好立地な場所が気に入って、設楽町の地域おこし協力隊に応募した。

今後の抱負・任期後の目標

ワインブドウができるまで5年かかるので、現在は醸造技術向上のため、講習を受講したり、畑周辺整備や土壌環境を整えている。

現在貸していただいている畑は約8反ほどあり、10年後には自社畑を3ヘクタールまで拡大し、ワイン生産量は1万5千本を目標とし、活動している。

「ぶどうが収穫できるまでまだ時間はかかりますが、美味しいワインを作るので応援していただけたら幸いです！」

活動内容

●畑周辺整備

昨年度からブドウの苗を植え、今年度は約600本の苗を植えた。獣害被害があるため、試行錯誤しながら獣害対策を行っている。



●醸造研修

自身のスキルアップのため、山梨県や長野県に行き、醸造研修に参加している。
また、設楽町で栽培しているブドウはまだできていないが、各地で醸造用のブドウを購入し、実際にワインを製造している。



●ワイナリー設立に向けた活動

設楽町内にワイナリーを設立することが目標であるため、醸造所の開設に向けて活動している。
また、ワインイベントに出店し、ワイン好きの方たちなど今までPRできていなかった方たちに設楽町をPRをしている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) kikaku@town.shitara.lg.jp
(電話番号(職場)) 0536-62-0514

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

基本情報



【年 齢】
42歳
【出身地】
兵庫県丹波市
【転出元】
神奈川県川崎市
【前 職】
番組制作
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

長らく首都圏に住んで働いていましたが、コロナ禍に入り人と会っての取材が出来なくなり、都会での生活と仕事の限界を感じたことがきっかけです。そこから地方移住を考えるようになり、その過程で松江の地域おこし協力隊制度を知りました。

協力隊がフリーミッションとしての募集であることや、仕事ありきではない形で地域や住民の方々と関わることができるのではないかと思います、応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

2024年4月（協力隊3年目）にこうじや「甘酸辛苦（かんさんしんく）」を開業しました。

今後は工場を持つべく場所を探し、安定的なこうじの供給に向けて設備を整えていきます。またこうじを提供することで様々な分野の方とコラボして新しい商品を生み出していきたいと思います。私自身、地域としては十数年ぶりの移住者であるため、地域活動や神事などをより理解し、これから住みたいと思ってくれる方と地域とのつなぎ役になれるといいなと考えています。

活動内容

●こうじづくり

松江で100年以上続くこうじやさんに出会い、そのおいしさと発酵のおもしろさに目覚めました。その感動を多くの人と共有したい、こうじ作りの技術を早く身につけたいと思い、「こうじ100本ノック」と銘打って、預かったお米を無料でこうじにしてお渡しする活動を行いました。



●「あまがゆ」商品化

松江のお米を使って「あまがゆ」という名前で甘酒をつくっています。地域の方が親しみのある呼び名を商品名に採用しました。またお茶農家さんとコラボして、フレーバー甘酒を作ったり、OBの方とも連携して野菜や果物を作った甘酒も販売しています。



●出雲民藝紙で和綴本制作

人間国宝・安部榮四郎が作り出した和紙の普及に繋げることとして、今までになかった打ち出し方「千年先に和紙を残す」ための本を作ることを計画。

資金調達と新たなファン獲得を目指し、クラウドファンディングに挑戦、目標金額を達成できました。また、全て手作業で昔ながらの本制作に取り組みました。



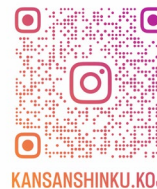
連絡先

【メディア等の取材連絡先】

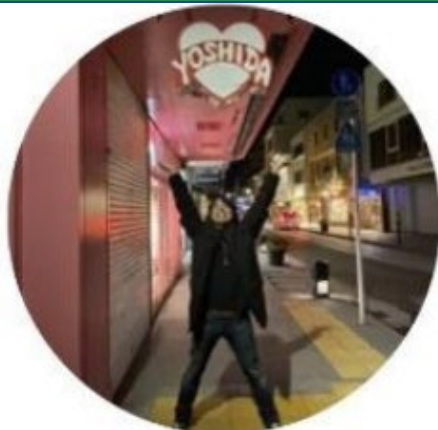
メールアドレス（職場）teijukigyous@city.matsue.lg.jp
電話番号（職場）0852-55-5215

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(Instagram) <https://www.instagram.com/kansanshinku.koji/>



基本情報



【年 齢】
30歳
【出身地】
福岡県北九州市
【転出元】
千葉県千葉市
【前 職】
製造メーカー勤務
【活動時期】
R4.6～R6.11

協力隊に応募したきっかけ

前任者が学生時代からの先輩であり、その方が退任されるタイミングで私に地域おこし協力隊になってみないかと誘われたのが一番のきっかけでした。

元々、先輩が面白い活動をしているなと感じており実際の募集要項を確認したところ、震災復興に関わる内容でした。私が今まで住んでいた地域も地震や台風などの自然災害を受けていたこともあり、他人事のように感じられなかったこと、これからの人生で何か大きな挑戦をしてみたいと思いがあったので応募をしました。

今後の抱負・任期後の目標

現在の竹を活用した事業が、私が掲げた地域創生、環境保全、社会福祉が連動した事業として確立され、私が居なくても長期にわたって持続していけるようにすることです。

その他にも解決したい問題として、今現在、竹や資材の調達など、住民のサポートやボランティアに頼っている部分もあり将来的には事業拡大によって、賃金を払い、正式な仕事として雇用を更に生み出し、地域創生に貢献していきたいと思います。

活動内容

●地域創生、環境保全、社会福祉の3本柱

私は現在、担当地区である真備町の特産物の竹で作られた「竹炭」を使い、地域創生、環境保全、社会福祉が連動した事業の確立を目指して活動しています。

竹炭の消臭・調湿性に着目した建築資材や、食用パウダーへの加工などの試作開発を行い、事業者への営業や、地域イベントへの積極的な参加により、製品の認知度向上と真備町の魅力発信を狙っております。

活動に使用している竹は全て、放置竹林を伐採した物を使用しております。それにより、竹害の抑制や景観保護、新しく綺麗な筍が生える環境の整備に繋がり、全てを無駄にすることがなく一つの循環を生み出すことが出来ます。

また、現在、活動の中でB型作業所と協力して事業化を目指しており、工程の一部をB型作業所に委託することで、雇用が生まれ、障がい者の就労支援につながると考えております。

これまでの成果としては、能登に救援物資として竹炭を送り実際に現地で役立ててもらっている他、他業者からの納品の依頼やイベント参加の誘いなどが少しずつ増えてきているところです。



連絡先

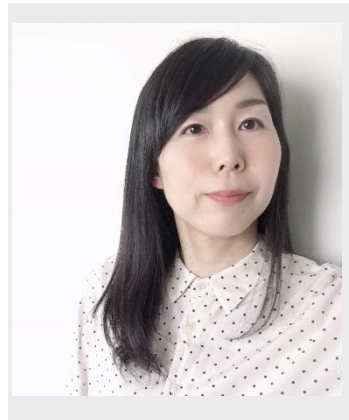
【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) crcsm2022@gmail.com
(電話番号(個人)) 090-3197-0335

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(インスタ) [https://](https://www.instagram.com/yoshi_masa3) Q Rコードも可



@YOSHI_MASA3

基本情報



【年 齢】
50歳
【出身地】
埼玉県東松山市
【転出元】
埼玉県東松山市
【前 職】
教育機関法人営業
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

鹿児島県内を拠点として機織り作家活動をしていくことをで計画し、移住地を探していたところ、ふるさと回帰センターのご担当者様から伊佐市でもものづくり工芸部門で協力隊を募集していると紹介を受ける。それまで協力隊というもの知らなかったが調べたところ取り組みたかったことと一致したため応募に至った。

今後の抱負・任期後の目標

織創作活動を通して独自の織生地を制作して和装/洋装に仕立て、伊佐から世界に発信する。日本の織技術を伊佐だけでなく国内外の方向けにもワークショップを行い手仕事の奥深さや民藝芸術を広める。来年度からは自宅工房にて染織教室を開室。技術だけでなく芸術面も感性を磨けるような体験を提供していく。まずは日本民藝展入選を目標に、その後は世界三大織物である大島紬を後世へ繋いでいくための活動をしていくことも視野にいれている。

活動内容

●ものづくり工芸（染織）

8枚綜絊ジャックルーム高機を使用して主に獣毛で手織りを創作する。希少な素材を厳選して使用し、地で収穫した草木使用して染を施し作品を織りあげる。特産品開発。地域、コミュニティ、小中高、病院などで手織りや草木染のワークショップを開催。手仕事ワークショップを通じた地域おこし。



●織りに関したインバウンドツアー企画、実施

昨年の実績として海外の手織りアーティスト向けのインバウンドツアーを企画、実施。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（個人） aki.tanaka.isakyoryokutai@gmail.com
（電話番号（個人） ） 070-9074-8686

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（Instagram） <https://www.instagram.com/aki.tanaka.weaver/>

05 地域コミュニティ活動

基本情報



【年 齢】
51歳
【出身地】
福岡県飯塚市
【転出元】
神奈川県鎌倉市
【前 職】
小学校教諭
【活動時期】
R2.11～（4年目）

協力隊に応募したきっかけ

「次は何しようかな」「新しい挑戦がしたいな」と思っているなか、いろいろなきっかけを探していました。コロナ禍でなかなか外に出る機会をもつことができず、どうやって今ある環境から脱出しようかなと思っていました。そんなときに「八雲町で働きませんか？」と声をかけてもらいました。北海道は初めての場所だったし、新しい地域でやったことないことにチャレンジしたい、新しいことを学びたいという気持ちが強かったこともあって地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

今活動しているひとつひとつの取り組みをもっと確立できるように進化させたいと思っています。コロナ禍の中で活動開始だったこともあり、4年目にしてやっと地域の人たちと一緒にいろいろな活動を作っていくことができるようになりました。任期終了と共にこれらが終わるのではなく、新しく立ち上げたものをしっかりと継続できるような仕組みを作っていきたいと思っています。任期後も今の活動を継続しながら地域の人たちと一緒に楽しいことを企画して全力で楽しめたらいいなと思っています。

活動内容

●地域支え合い支援員として

私のいる熊石地域は、人口約1700人のうち約60%が高齢者です。住み慣れた町で元気に楽しく暮らしていくためのお手伝いをしていくことが私の最大のミッションです。集いの場やサロンの実施、有償ボランティア事業などの関わりを通して「こんなことやってみよう！」を地域の人たちと一緒に作っています。



●子育て支援員として

小学生の放課後活動SUNSUNで月に2回いろんな企画をして子どもたちと活動しています。地域にあるキャンプ場や海で活動したり、収穫体験やお料理をしたりなど…。今年は自分達でお店を作って「こどもマルシェ」も開催しました。また、保育園のお手伝いにも行って子どもたちと楽しんでします。



●町づくりにつながるいろいろな活動

地域の人たちの手づくりのものなどを展示販売する「クマルシェ」や相沼地区での母さんたちと一緒に「あいのめ〇シェ」を開催。他にも根崎神社例大祭や相沼奴の復活、継続に向けてのお手伝い、大学生やワーケーションの受入などジャンルを問わず、地域に関わるいろいろな活動をマルチに行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) mamekuma39@gmail.com
(電話番号) 01398-2-3111 (熊石総合支所)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
熊石ブログ春夏秋冬
<https://www.town.yakumo.lg.jp/blog/kumaishi/>



@MAMEKUMA39

基本情報



【年 齢】
38 歳

【出身地】
兵庫県 姫路市

【転出元】
東京都 武蔵野市

【前 職】
人材系ベンチャー企業

【活動時期】
R4.12～

協力隊に応募したきっかけ

人材業界で働く傍ら、地域にこそ人材の支援が必要だと考え、これまでの知見を活かし、ヒトの力で、地方に活力を生み、日本を元気にしたいと思いから、茨城県北地域おこし協力隊【起業・複業型】に応募。

自治体や地域機関と共に、日々地域の人的課題に向き合い、地域に寄り添った人材支援を行っている。

今後の抱負・任期後の目標

地域に人がいなくても事業運営ができる仕組みをつくること。

人が減ることがほぼ確定している地域で、定住人口だけで事業づくりを進めるのではなく、外部人材の活用などを通して、地域企業の経営の手段を改革を進めながら、地域経済の発展に寄与することが目標。

そのためのサービスを続々と企画、推進している。

活動内容

●「地域課題」と「副業・兼業」人材をつなぐプラットフォーム『Otanomi（オタノミ）』の提供

地域の中小企業・自治体の『課題』と、それを解決できるスキルや経験を有する『副業・兼業人材』とのマッチングサイトを提供。茨城県北地域で副業・スキルをシェアを実現した。



●地域機関と共に推進する地域の人的課題解決支援

関東経済産業局の「地域の人事部」に参画し、自治体や地域機関と連携した人材支援活動を実施。対象地域（茨城県日立市、常陸太田市、大子町）において、「人材戦略・組織変革支援」、「人材採用支援」、「人材育成・定着支援」を行い、地域中小企業の「人的資本経営」の定着を目指している。



●新卒・中途採用、インターン採用等、企業の抱えている採用領域の課題に対するワンストップ支援

企業の課題に寄り添い、採用課題の解決サービスを提供。特定の手段に囚われず、数十あるサービスのラインナップから、目的に沿ったサービスを提案。業種は第一次産業から第三次産業まで幅広く、伴走支援を行っている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】 w.mimaki@shinkaze.jp

（メールアドレス（個人or職場）） w.mimaki@shinkaze.jp
（電話番号（個人or職場）） 080-6217-3891

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://shinkaze.jp/service/> (Otanomi) <https://o-tanomi.jp/>

基本情報



【年齢】
32歳
【出身地】
群馬県安中市
【転出元】
東京都八王子市
【前職】
ホテルマン
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

私の人生目標は「地域を盛り上げ、地域を牽引できる人材になる」ことです。この目標を達成するため、大学時代は自ら地域魅力発信ツールを開発する学生団体を立ち上げたり、就職後は地域企業と協力し地域の魅力を生かした商品開発をしていました。

その中で「地域を支えている中小企業を元気にし、自らも地域の課題を解決する当事者になる必要」を実感し、中小企業診断士の資格を取得し、自らもプレイヤーとなるため協力隊に応募いたしました。

今後の抱負・任期後の目標

伊勢崎中心市街地を継続的に活性化していくための事業を法人として主催しつつ、各事業体同士の取次や情報発信、運営のサポート等も包括的に執り行う組織を立ち上げ運営を行っていきたく考えています。

また、上記活動に加え基幹収益事業は、中小企業診断士のマネジメント業を想定しており、まちなかの活動で構築した社会関係資本を活かして、地域企業のサポーターとしても活動していくことが目標です。

活動内容

●本町和菓子ストリート

和菓子を通じてまちなかの魅力を再発見してもらうため、市の補助金を活用し、イベントを立ち上げました。神社境内で銘仙を着て踊る「着物deパーティナイト」という新しい試みもしています！今後もまちなかに賑わいを創っていきたくと思います！



●イセサキまちなか謎解きウォーク

まちなかを周遊してもらうためのイベントとして開催しています。市のキャラクター「くわまる」とLINEで会話しながら謎を解くスタイルと、楽しみながら街のことを知ることができます。学生たちと協力しながら企画・運営しています！



●まちなかユーススペース

令和6年8月からまちなかでユースが集まれる第三の居場所として、「まちなかユーススペース」を開設しました。勉強や趣味、昼寝などを自由楽しめる場所を提供していきたいと思っています。



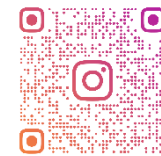
連絡先

【メディア等の取材連絡先】
メールアドレス（個人）：
narimorimori@gmail.com
電話番号（個人）：080-4406-0880

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】



Facebook



ISESAKI_INNOVATER_K
Instagram

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
東京都世田谷区
【転出元】
東京都世田谷区
【前 職】
学 生
【活動時期】
R5.4～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

幼少のころから自然が好きだったことから植物学と野生動物の行動学を大学で学び、環境問題の多いこの時代に生物の保全を中心に農業をしたい思いから、協力隊に応募しました。

また、私の着任地域は祖父の活動に所縁のあったため、自身が物心つく前より家族と訪れていた場所であり地元住民との関わりも深かった地域だったこともきっかけになりました。

今後の抱負・任期後の目標

狩猟免許を取得し、集落の害獣駆除を行いたいです。また、駆除の際に出た獣肉を集落内の温泉・宿泊施設の料理で提供もしてみたいと思っています。集落内の農業の存続も考えて、既存の農産物生産の維持、耕作放棄地の復活による増産も視野に入れて活動していきます。

任期後は、着任地に定住し、農業、狩猟、除雪を仕事にして生活したいと思っています。

活動内容

●集落の生活支援と維持

今までの住人だけでは手が付けられなかった集落内の農道の草刈りや、未利用農地での作付けを実施。また、集落内の農作業もお手伝い。

生活飲料水が出なくなったときは、集落の皆さんと一緒に復旧作業に従事。



●小学生の親子を対象にした生物観察会を実施

協力隊自身が、昆虫などの生物に詳しいことから、任務地の地域で、地元の小学生の親子を対象にした生物観察会を3回実施。

当日は、昆虫に詳しい協力隊員が案内し、虫好きの小学生が集まりました。観察会後は、隊員が支援している「深山の里」で、協力隊が打ったそばをみんなで楽しみました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(職場)) chiikikyosei@city.myoko.niigata.jp

(電話番号(職場)) 0255-74-0063

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

facebook: <https://ja-jp.facebook.com/tiikinokosi>

Instagram:

https://www.instagram.com/myoko_chiikiokoshi/?utm_medium=copy_link

基本情報



【年 齢】
41歳
【出身地】
石川県輪島市
【転出元】
三重県桑名市
【前 職】
アパレルブランド
スーパーバイザー
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

輪島高校を卒業後輪島を離れ、いつかは故郷に貢献したい想いがずっとありましたが、自分を活かし輪島へ貢献する仕事が見つからずにいました。そんな際に輪島の10代が置かれる状況を知り、自分の子ども時代と比べて大きく変化していることに驚きと憂いを持ち、更にわじまティーンラボ構想に強く共感したことから協力隊に応募しました。前職では事業管理や人事に携わる機会が多く、10代の学校・生活環境にも興味があり、培った経験を活かせると思ったことも応募する要因となりました。

今後の抱負・任期後の目標

- ・復興フェーズにおいて子ども、若者が関わっていけるような環境づくりをしたい。復興後を担う今の10代が少しでも復興に関わることでまた輪島で過ごしたいと思ってもらえるように。
- ・地域の皆様から必要と認めてもらえるように、地域に根差した団体となるような活動をしていきたい。
- ・高校を卒業した生徒が、その後も輪島に関わり続けれる仕掛けを作っていきたい。

活動内容

●わじまティーンラボの運営

輪島市河井町にある10代の居場所“わじまティーンラボ” 地震前から子どもの居場所不足でしたが、地震後は更に自由に過ごせる場所がなくなりました。自分らしく自由に過ごせる環境をすることで、ちょっとした悩みを聞いたり、やりたいことにチャレンジしたりなど、10代の応援をしています。



●奥能登ティーンフェスの開催

毎年7月に輪島市マリンタウンで開催する10代のためのイベント。実行委員会に高校生も参加し一緒に企画運営を行います。地域内外から出店を募ったり、みんなが盛り上がるアーティストによるステージイベントを開催。やりたいことを一緒に実現することを体験する企画として開催しています。



●地震後の子ども部屋開設

令和6年能登半島地震後の急性期に子どもの居場所が激減し、安心して発散する場所がなくなってしまったことを受け、認定NPO法人カタリバと連携して輪島高校に「みんなの子ども部屋」を開設。外部支援と学校や教育委員会との橋渡しや、地域住民の運営参加を繋ぐ活動も行いました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人)) a.koura@jikkurato.com

(電話番号(個人)) 090-6164-8909

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(Instagram)

https://www.instagram.com/wajima.teen.lab?igsh=YnUzcjB1MXk4c3Vx&utm_source=qr

基本情報

【年 齢】
52歳
【出身地】
兵庫県明石市
【転出元】
大阪府大阪市
【前 職】
会計事務所勤務
【活動時期】
R3.7～R6.6（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

山に囲まれた自然豊かな場所に居を移して生活したい、社会貢献活動に関われるような働き方にシフトしたいという想いから地方移住に関心をもつようになり、長野県を中心に移住先を探していました。

日本仕事百貨の募集記事を見て、先進的な関係人口創出の取り組みや、シビック・イノベーション拠点「スナバ」のような多様な人と出会えるコミュニティがある塩尻という町に興味をもち、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

ポータルサイトの運営を通じて、地域内で活動するプレイヤーの情報を収集・発信するとともに、地域外の方々が塩尻と関わるきっかけとなる窓口の役割を果たすことで、地域と継続的に繋がる関係人口を増やしていきたいです。着任して2年たち、人との繋がりもでき、地域への愛着も湧いてきています。昨年からは夫婦で空き家利活用プロジェクトに本格的に参入し、今後も引き続き本プロジェクトを通じて地域活性に繋がる活動を行っていききたいと思います。

活動内容

●関係人口創出事業

副業などで関わる首都圏のプロ人材と協働して地域課題を解決する関係人口創出事業の企画・運営に携わっています。具体的には、地域課題の発掘とプログラムの企画・設計、関係人口コミュニティの運営、副業／プロボノ人材の募集・採用とコーディネート、各種イベントや座談会の開催などを行っています。



●関係人口ポータルサイト「のりしお」の運営

noteの地方公共団体支援プログラム活用し、関係人口向けポータルサイトを立ち上げ、運営を行っています。市内外の誰でも参加できるイベントやプロジェクトの情報を、塩尻を「まなぶ」、塩尻に「かかわる」、塩尻で「はたらく」の3カテゴリーに分けて発信しています。



●空き家利活用プロジェクト

塩尻市街地の空き家を改修し、滞在型交流拠点に再生する事業を行っています。地域内外の人が垣根を越えて交流する場をつくることで、継続的に地域に関わり街の活性化に寄与する関係人口の創出を目指します。2024年初旬にはシェアハウスがOPENする予定です。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) naokoueda714@gmail.com
(電話番号) 080-6127-9377

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://shiojiri-city.note.jp/>
<https://twitter.com/norishiojiri>

基本情報



【年 齢】
41歳
【出身地】
愛知県稲沢市
【転出元】
愛知県一宮市
【前 職】
民間企業の人事担当
【活動時期】
R3.10～ R7.3

協力隊に応募したきっかけ

コロナ禍で社会の変化や働き方、人生観について考えていた時に、自然環境・文化・産業が持続的に循環する地域づくりを真剣に熟く考える岡崎の山間、まち中の人たちと出会い、里山の可能性に惹かれた。

額田の美しい自然や文化に育まれた岡崎・額田地域で、日常や地域のつながりの中に、豊かさや生きがいを感じられる暮らしを地域内外に発信したい、自分自身が地域づくりの一助となりライフワークにしたいという思いから、協力隊に応募した。

今後の抱負・任期後の目標

魅力ある地域づくりにおいて、岡崎の誇りを再認識し住民自身が地域のファンであること、住民×住民、市×住民の多様なつながりを深めることの促進に取り組みたい。そのために、住民、地元企業、活動団体等の皆さんの思いを伺い、「当たり前」の中にある岡崎らしさに関心を向けてもらえるよう、人事経験を活かしたヒアリングや関係構築を図りながら、住民創出型の地域づくりに挑戦していきたい。

活動内容

●額田地域の魅力発掘！

里山の交流場“茶端会議”を開催。
茶づくりが昔から受け継がれる額田地域で井戸端ならぬ茶畑で、住民とまち中の女性達とがおしゃべりしながら、里山の暮らし、遊び方など、地域の当たり前の中にある魅力を発掘している。
活動状況は地域の瓦版で発信し輪を広げている。



●額田地域の魅力を磨く！

額田の達人と歴史を楽しむコンテンツづくりとして地域で語り継がれる歴史や伝承を住民のみなさんからヒアリングし、地域独特の暮らしや文化を残していく活動をしている。戦国時代の城址、猪垣、旧道・古道など、額田の足跡を辿りながら里山の生きる知恵を体験できる企画をしている。



●額田地域の魅力を発信！

里山の暮らし体験/楽しみ方体験をするイベントや地元小学生や地元大学生との額田の魅力発信企画、地域のおさんぽパンフレット作成、Instagramなど、地域外の方に額田を知っていただく活動と、住民のみなさんがふるさとの価値を再発見していただくきっかけとなるように情報発信を行っている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) nukatrip@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagramで地域情報を発信中！
皆さんフォローをお願いします！！



NUKATA.OKOSHI



@IROLIER_YAMALAB

基本情報



【年 齢】
22歳
【出身地】
神奈川県横浜市
【転出元】
神奈川県横浜市
【前 職】
大学生
【活動時期】
R4.6～R7.5

協力隊に応募したきっかけ

18歳の時にコロナで大学が完全オンラインになり、ならば授業を受けながら自分の興味のある地域づくりを現場で学びたいと世の中が外出自粛ムードな中、奇跡的なご縁をいただき尾鷲市に来ました。

最初は、街の観光交流施設での住み込みインターンをさせていただき、もっともっと尾鷲で自分のできることをしてみたいと向井地区の地域おこし協力隊に応募しました！

今後の抱負・任期後の目標

協力隊卒業後は、2年前に向井地区の方と共に立ち上げた一般社団法人つちからみのれの方で、現在行っている多世代の居場所「むむむ。」などの活動をさらに加速させていきたいと思っています！

尾鷲市に全国から視察が来るような、ここにしかない魅力的な場所にしていきたいと思っています！

活動内容

●多世代の居場所「むむむ。」

子どもたちが多様な人に出会い、様々な選択肢に触れられる場所として、向井地区に多世代の居場所「むむむ。」を立ち上げ運営している。ここには子どもも大人も、地域外の方もたくさんの人が集う。



●耕作放棄地の活用や生物多様性を高める取り組み

生物多様性を守る上で重要な田んぼ。かつて多くあった向井地区でも減っているため、復活させ生き物が帰ってくるようにしようという取組を公益財団法人日本自然保護協会にサポート頂き、お世話まい農園、地域の子供達と共に行っている。



●視察・授業の受け入れ

「むむむ。」の取組などを現地で紹介する視察の受け入れや、高校生・大学生などが実際に向井地区に来て学ぶ滞在型授業の受け入れを始めている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス：個人) fuka0305fuka@gmail.com

(電話番号：個人) 080-2131-4828

【活動の様子を発信しているSNS：個人】



日向風花 facebook



日向風花Instagram



むむむ. Instagram

基本情報



【年 齢】
54歳
【出身地】
神奈川県座間市
【転出元】
大阪府高槻市
【前 職】
会社役員
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

高校生の息子が滋賀県内の学校に通学。コロナ禍、私の仕事のリモートになったこともあり、滋賀県守山市に家を借りお試し移住をしてみたことが、本格的に滋賀への移住を考えるきっかけでした。なんせ空は広いし、空気は澄んでいるし、食べ物は美味しいし。あわせて50歳を過ぎた頃から、仕事をする意義について考え始め、経済的なメリットよりも、今までの経験を活かし、誰かのためになる仕事をしたいと強く思い、前職の化粧品会社CMOを退任。協力隊に応募し、町のために働きたいと思いました。

今後の抱負・任期後の目標

街には広い土地や美味しくて安い食材など、資源は豊富にあるにも関わらず、町に住む人々に還元されていないと思いました。たとえば名産品である「秦荘のやまいも」は贈答品として町外に出荷され、町には食べたことがない人も多かったり、美味しい野菜は町外の飲食店に出荷され、地域のスーパーには県外の野菜しか並んでいなかったり。町の人がこの町をもっと好きになれるように、町の資源を還元し、また、町のいいところを知ってもらうための活動を行っていきたくて考えています。

活動内容

●地域資源をつかった商品開発

1年目のR5年11月に、愛荘町のしょうがを使ったジンジャーシロップ「愛しょうが」を発売しました。かつてしょうがの一大産地だったのに、現在では数件しかないしょうが農家から仕入れ、使い道がなかったしょうがをアップサイクルしました。「愛しょうが」の名称は幅広く商標登録し、町内のしょうがを使った加工食品を販売する場合には、誰もが無償で利用できる仕組みを作りました。これによりしょうがの生産が増えることを目的としています。



●地域の空き家を活用したコミュニティキッチンオープン

空き家をリノベーションして、まちのキッチン「MACHI KICHI」をオープン予定。町の美味しい食材を気軽に食べられるお惣菜屋を始めます。また飲食店をしたい人にレンタルしたり、料理教室を開催したり、コミュニティキッチンとして町の人が集まれる場所に育てたいと考えています。協力隊同期に生ごみ堆肥を促進する活動をしているメンバーがいるので、コンポストを設置し、生ごみを減らす実験も町の人とともに進めていく予定です。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(愛荘町みらい創生課)) seisaku@town.aisho.lg.jp
(電話番号(愛荘町みらい創生課)) 0749-29-9046

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

移住スカウトサービスSMOUT <https://smout.jp/scoutees/51908>
Instagram まちのキッチン MACHI KICHI (@machi_kichi)

基本情報



【年 齢】
38歳
【出身地】
京都府京都市
【転出元】
京都府京丹後市
【前 職】
公務員（消防士）
【活動時期】
R1.11.11～ R6.11.10

協力隊に応募したきっかけ

妻の実家が京丹後市にあり、京丹後市を知ったことがキッカケです。自然、食、人の素晴らしさに魅了されました。子どもが生まれた頃、「子育てをするなら丹後の自然の中で育てたい。」と思うようになり、移住を考えました。前職は消防士でしたが、休みを利用して頻繁に丹後を訪れていました。丹後の自然がとにかく大好きで、丹後で暮らせるなら、消防を辞めても惜しくはないと考えていたので、丹後のまちに貢献できる『協力隊』の仕事を知り、是非やりたい！と応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

ミッション開始から、観光や自然環境保護の活動を行ってきました。特に注力していたビーチクリーン活動を生業にするべく、任期終了を間近に控え「株式会社あしあと」を立ち上げました。（R6年11月任期終了）

今後も引き続き京丹後の海を拠点に、「ビーチクリーン事業」「アップサイクル事業」「ツアー・体験事業」「e-Bikeリース事業」「寄付付き電力推進事業」を中心とした活動を通し、はだしで遊べる海を未来につないでいきます。

活動内容

●ビーチクリーン活動

自然が豊かな丹後も、年間を通じて大量の海ゴミが漂着します。今後、海ゴミは30年で2～3倍に増えることが予測されています。未来を生きることもたちに豊かな自然を残すため、定期的にビーチクリーンを実施しています。SNSで参加を呼びかけ、毎月50名以上が集まるイベントになっています。



●Precious Plastic

オランダで生まれたプラスチックリサイクルプロジェクトを行っています。目の前で体験しながらプラスチックのリサイクルやゴミについて学べる研修を作成し、現在、地元教育機関への講演や体験の提供しており、また他府県からの企業や団体からの視察、研修を受け入れています。



●Eバイクを活用した観光

丹後の大自然やまちなみ、人の雰囲気ダイレクトに感じることでできる手段としてEバイクのレンタルサイクルを実施しています。Eバイクは配送・回収できるサービスを行っており、Eバイクを所有していない宿や駅であっても、丹後を訪れる方がレンタルサイクルを利用できるように体制をつくりました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

株式会社あしあと

〒京都府京丹後市網野町浅茂川272

（メールアドレス）ashiato.jp@gmail.com （電話番号）070-4491-6352

（営業時間）9:00～17:00 （定休日）月曜日、年末年始

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（Instagram）<https://www.instagram.com/yoisho8>

基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
京都府亀岡市
【転出元】
京都府
【前 職】
まちづくり会社経営
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

自治体では珍しい、VMV（ビジョン・ミッション・バリュー）を設定し、全国で2番目に小さい町だからこそそのまちづくりを探求している町長や職員さんの想いに共感したため。また、自身の専門性やこれまでのキャリアを活かし、これからの公共の在り方にデザインの視点から貢献したいと感じた。

今後の抱負・任期後の目標

全国で2番目に小さい町である三宅町は、〈小ささ〉の価値を探求し、人口減少や縮退が進む自治体経営の未来を描こうとしている。まちのビジョンとして掲げられている自分らしい幸福が実現するまちづくりを目標に、自分たちで自分たちのまちを豊かにしていく文化や、そのための自治システムのデザインに取り組みたい。

活動内容

● 公共施設MiiMoを起点とした地域自治のための調査・企画運営・各種マネジメント

貸し館主体の従来型の公共施設を、挑戦を育むインキュベーションセンターにリデザインし、三宅町民や関係人口による自治の風土を生み出すための仕組みづくりに取り組む。



● 地域おこし協力隊のマネジメントと共創の場づくり

三宅町のミッションに基づいた戦略的な隊員募集と、個人活動×ユニット活動の仕組みづくりによる隊員のマネジメント・共創事業の推進を担当。



● 三宅町独自の住民自治を実現する政策デザイン

三宅町が目指す住民自治のシステムづくりに向けた調査・イベント・企画立案等の政策デザインに従事。
〈Small is 〇?〉をコンセプトに、三宅町版のリビングラボ設立に向けたデザインリサーチに取り組む。

〈小ささ〉とは、可能性だ。

Small is .

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人or職場)) info@hasen-inc.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) @miyake_myake

基本情報



【年 齢】
43歳
【出身地】
スイスとフランス
【転出元】
京都府京都市
【前 職】
司書長
【活動時期】
R5.4～R8.3予定

協力隊に応募したきっかけ

3年前、新婚旅行で隠岐に来ました。海岸や植物を見て、感動しました。隠岐の人々はとても親切でした。そして、子供が生まれたときに、隠岐の自然の近くで成長させることが良いと思いました。

今後の抱負・任期後の目標

主に山岳ガイド協会の試験の勉強に取り組んでいます。また、フランス語と英語で隠岐の文化や隠岐アルプスの美しさを案内する活動を通じて伝えたいと思います。

他にも、隠岐の島には過去の写真や他の書類（絵など）がたくさんあり、それらを保存し、伝えることが重要だと考えています。だから隠岐アーカイブNPO法人を作ってみたいと考えています。

活動内容

●浄土ヶ浦の食堂と卵敷のフリーマーケット

夏には、浄土ヶ浦の食堂で約2ヶ月間、手伝いをしました。注文を受けたり食器を洗ったりしながら、隠岐の料理を味わうことができました。
冬には、卵敷でフリーマーケットを無事に開催しました。屋台やミシンの部屋、占い、映画館などがあり、とても楽しかったです。



●布施地区の見回り

布施の人々は、倒木や大雪が積もった時に連絡します。その後、あっちこっちに行って積極的に清掃します。全力でみんなと頑張ります。
たまに隠岐シャクナゲ遊歩道パトロールをしています。それをする時には飯美の人は山菜の名前と使い方を教えてください。毒の植物は気をつけましょう。



●美術は地域をひらく

お化けは記憶が薄れる場所に住んでいます。そして、芸術を通じて彼らを追い払うことができます。それゆえに、布施の旧中学校にお化けがいると聞きましたので展示会を開催しました。布施の人々と地域おこし協力隊と一緒に学校を掃除し、見つけたものを整理しました。賑やかな思い出を作れました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

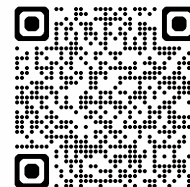
メールアドレス（職場）

c-drotkowski5112@town.okinoshima.shimane.jp

電話番号（職場）08512-7-4311

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(Instagram) https://www.instagram.com/oki_chiikiokos



基本情報



【年 齢】
35歳
【出身地】
ベトナム ハイズオン省
【転出元】
大阪府堺市
【前 職】
化学部 エンジニア
【活動時期】
R5.10月～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

2015年から3年間、私は技能実習生として安芸高田市で働きました。そのときに市民の方が優しく接してくださり、私を育ててくれた安芸高田市にいつか「大恩返し」をしたい、働きたいとずっと思っていました。安芸高田市がベトナム人コミュニティ構築を目的に協力隊員の募集をしていると聞いた時は、躊躇なく応募しました。これまでの経験を生かして東南アジア外国人実習生を支援して、日本人市民と外国人実習生のつなぎ役となり、みんなにとって楽しく住みやすい安芸高田市にしたいと思います。今では、ここは私の第2の故郷です。

今後の抱負・任期後の目標

安定した仕事は、スキルの向上、様々な知識の習得につながり、自分自身が会社・団体の役に立つことで貢献していることを実感できると考えています。私自身は安定した仕事を継続していくことが目標で、それができれば、将来は家族を日本へ迎えたいと思っています。協力隊員としての目標は、外国人実習生たちが日本での仕事を通じて最良の経験を得られるように、もっと多くの支援をしていきたいです。

活動内容

●ベトナム人(及び東南アジア外国人)住民の支援

ベトナム人住民とのコミュニティをつくるため、Facebook へ「安芸高田市に住んでいるベトナム人会」を作成し管理しています。これを通してベトナム人実習生の声を聞き、悩み相談や対面相談などを受けています。

そして、市役所の窓口・病院に来られる実習生の通訳・翻訳の対応もしています。

●イベント実施(多文化共生・国際交流の推進)

市民の異文化の理解を深めることができるようにベトナム文化の紹介、国際交流イベントの企画を立ち上げて、実施しています。2024年2月10日に安芸高田市で初めて、外国人向けのイベント「ベトナムデット」を開催し、国籍や宗教を問わず、たくさんの人に集ってもらい、ベトナムお節料理を食べながら楽しく交流しました。

また、市内在住の外国人が日本人と接する機会をよりたくさん増やすため、各種イベントの協力もしています。

●日本語学習支援

日本で働き続けていくには、日常生活に必要な日本語学習だけでなく、さらなるレベルアップが必要です。オンラインによるJLPT試験(日本語能力試験)に向けた日本語学習の支援に加えて、個別に実習技能試験・特定技能1号試験に向けた学習の支援もしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

【職場】 安芸高田市役所 市民部社会環境課

(メールアドレス) shakaikankyo@city.akitakata.jp

(電話番号) 0826-42-1126

基本情報



【年 齢】
37歳
【出身地】
奈良県桜井市
【転出元】
大阪府大阪市
【前 職】
市役所職員（事務職）
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

・新規就農を目的として移住先を検討している際に、現在の受入団体で、移住サポートをしていただいているNPO法人の方から勧めいただきました。
・NPOがまちづくり全般に関して多様な取り組みをしており、前職が市役所職員でまちづくりにも関心が強かったため希望しました。農業とまちづくり両面に携わることができるため、希望が叶う選択でした。

今後の抱負・任期後の目標

現在、徳島県特産のすだち農家のもとで修行しており、退任後の新規就農を計画しています。
また農村RMOを活用した事業に取り組んでおり、補助期間終了後も、持続可能なまちづくりに取り組むために、まちづくり会社の立ち上げを目指しています。
過疎地域の事務集約や、教育事業、地域公共交通の運営等、第2役場的な役割を果たしたいと考えています。

活動内容

●農業研修（ハウスすだち）

徳島県特産のすだち、その中でもほぼ阿南市のみで行われているハウス栽培の先輩農家のもとで、協力隊退任後の新規就農を目指して修行させていただいています。
また県農大が設置する「かんきつアカデミー」にも通い、柑橘栽培について学んでいます。



●農村RMO事業

受入団体が行う農村RMO事業で、複数の取り組みを行っています。多世代交流拠点の施設づくりや、地域公共交通のための新しい交通モードの検討などを行っています。



●探求学習の場づくり

事業構想の段階ですが、大人も子どもも学ぶ、農村の地域住民や自然、地域課題を活かした探求学習プログラムの実施を計画しています。
地域全体で子どもを育てる、大人も挑戦を続ける環境づくりを目指しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）bmarugoto4@gmail.com
（電話番号）080-5718-6665

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（facebook）<https://www.facebook.com/Kamodani>



Instagram

基本情報



【年 齢】
26歳
【出身地】
長崎県長崎市
【転出元】
兵庫県尼崎市
【前 職】
事務
【活動時期】
R6.5～R9.4

協力隊に応募したきっかけ

自身のルーツである五島列島を移住先として考えていましたが、様々な理由で移住できる状況でないと悩んでいたときに、唐津市の募集を見つけました。自身の経験や地元への思いが唐津の島に関わる人たちに対して、近い目線で何かお役にたてるのではないかと思いました。島に想いがある人と、島の人たちを繋いで、あったかくて元氣がもらえるような楽しいコミュニティを作りたいと思い志望しました。

今後の抱負・任期後の目標

活動を見てくれた人に「楽しそうだから自分も混ざりたいな」と思ってもらえるコミュニティを作ることが目標です。そのためには、何よりもまずは自分が楽しみ、楽しさをみんなで共有することが大事だと思っています。「島」であるからこその制約（定期船の定員・時刻・欠航事情や、島内の移動手段確保など）もありますが、それもまた一興だと思って、協力してくださる皆さんと一緒に知恵を絞り合いながら少しずつコミュニティを形作っていきたいです。

活動内容

●島を知ってもらうきっかけづくり

「島あるき」というイベント2度開催しました。第1回は2024年9月に向島で、第2回は10月に高島で、第3回は2025年5月に小川島で開催しました。このイベントは、島に興味はあるけど1人で行っても楽しみ方が分からないという方々の声に応えて実施したものです。



●島を知ってもらうきっかけづくり2

私と同じく唐津市内(相知・蕨野の棚田)で地域おこし協力隊をしていた山口真奈さん全面協力のもと、蕨野の棚田のイベントに高島・神集島・加唐島より出店を行いました。イベント終了後は3つの島合同でオンライン交流会を行い、島内外と島同士を繋ぐイベントとなりました。



●コミュニティの卵づくり

定期的に島に足を運んでもらうことを目指して、月1回ペースを目標に島内のカフェとのコラボイベント（ワークショップ等）実施を考えています。何度か繰り返し訪れてもらうことで島を通じたお友達を作っていただき、そこでできた関係性をコミュニティの卵として育てていきたいと思っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（個人or職場））7shima.maruyama@gmail.com
（電話番号（個人or職場））0955-72-9220

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（個人インスタグラム）@8_carat.maruyama
（共同インスタグラム）@8_carat.karatsu

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
東京都清瀬市
【転出元】
茨城県水戸市
【前 職】
農業学校職員
【活動時期】
R2.7～

協力隊に応募したきっかけ

生まれてからずっと都会暮らしで、最初の仕事はプログラマーでした。

しかし、どうしても環境に馴染めずに退職後、農業の世界で自然と関わりながら暮らす生活を知り、こんな生き方をしてもいいのか、というヒントをもらいました。

屋久島町の協力隊に応募したのは、そんな都会の生き方しか知らなかった反動で、もっと自然あふれる場所で暮らしてみたい、自分の生き方を試してみたい、と感じたのがきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

口永良部島初となる水産加工場「港のとと屋」で、島の漁業を盛り上げるべく、水産製品の製造販売に取り組み続けます。

また、島の環境保全・活用を目的に立ち上げたボランティア団体『E-Lab』では、島の子供たちはもちろん、この島の自然環境をもっと多くの人に好きになってもらえるよう、環境教育にも力を入れていきたいと考えています。

活動内容

●水産加工

2年かけてDIYで建てた水産加工場「港のとと屋」で、島の魚介を使った加工品の製造に取り組んでいます。

現在、「港のとと屋のおさかなハンバーグ」の商品化を目標に、屋久島の飲食店との連携やオンラインでの販売を目指して日々試行錯誤しています。



●環境保全・活用

人口100名の島の環境を保全し活用することを目的として、島民とともに立ち上げたボランティア団体「E-Lab（イーラボ）」の代表を務めています。

口永良部島が好き！と思ってもらえるよう、環境保全活動や環境教育イベントを開催しています。



●情報発信

口永良部島観光サイトの運営や、ラジオ出演などを通じて、島の情報発信に取り組んでいます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス 個人）i.k.6oranges@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（港のとと屋 HP）<https://minatonototoya.jp/>
（E-Lab HP）<https://www.kuchi-e-lab.org/>
（note）<https://note.com/shizengasuki>



note

06 漁業・水産業

基本情報



【年 齢】
52歳
【前居住地】
静岡県 菊川市
(出身：北海道)
【転出元】
三重県 大紀町
【前 職】
官公庁（水産庁）
民間企業、農業
【活動時期】
R4.8～R7.7

協力隊に応募したきっかけ

三重県在住の友人から「大内山川漁協で地域おこしの募集をしているので来ませんか？」との誘いを受け、内容を伺ったところ、お役に立てる部分も多そうであり、地域の活性化に一役買えると考え応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域おこし協力隊での3年の期間は、漁協の取り組みを他の関係する分野と繋ぎ、大紀町の観光振興全体を活性化できるように連携を図っていききたいと思います。

また、地域おこし協力隊卒業後は、可能であれば、このまま大紀町に在住して、主に内水面漁業や水産業に関する仕事を中心として生活し、地域全体の活性化への取り組みを続けられれば理想的だなと考えています。

活動内容

●川の環境整備、遊漁者増加から地域振興へ

地域おこし協力隊に就任し、大内山川漁協が進めている遊漁者を増やす対策、その中でもICT化により漁業者が電子遊漁券（フィッシュパス）をネット経由で購入できる環境の整備を進めています。この取り組みは、特にアユやアマゴが釣れる環境の維持増大が最も重要な要素の一つです。釣れる環境を維持し釣り人を増やすためには、アユやアマゴを食べてしまうカワウの飛来を減らす対策や、快適な対策を作るための清掃活動や河川工事による環境への影響低減、素敵な環境や魚の豊かさを広報する活動などが重要ですが、これらの内容を達成するには国や県等に対する様々な働きかけや情報収集、関係する民間団体や企業等との調整・協力、生態系の維持やその調査研究、有意義に活動できるようにするための予算確保も必要となってきます。かなり広範囲ではありますが、これらのような内容を大内山川漁協はじめ関係する皆さんとともに進めています。多くの要素を出来る限り迅速かつ適切に進め、より良い形で大内山川に多くの釣り客が訪れ、地域振興に貢献できるよう頑張っていきます。



連絡先

(メールアドレス) 大内山川漁業協同組合 <ayuriver@ma.mctv.ne.jp>

(電話番号(職場)) 0598-74-0666

07 農業・林業

基本情報



【年 齢】
21歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
北海道札幌市
【前 職】
学生
【活動時期】
R6.4～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

- ・北海道農業専門学校在学中に当別町で農業研修を行った際に、研修先の農家さんからわかりやすく指導して頂いたことから、当別町での就農を考えるようになりました。
- ・当別高校に3年間通っていたことから、当別町への思い出もあり、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

- ・任期終了後は当別町内の花卉農家で働きたいので、活動期間中に各作物の生産技術をしっかりと身に付けていきたいです。

活動内容

●花づくりの習得

- ・ユリやスターチス、トルコギキョウ等の切り花の収穫・選別と花束作りを行いながら、様々な花づくりを学んでいます。
- ・作業量が多くなっている中でも、研修先の農家さんからアドバイスをもらいながら、花づくりについて学んでいます。



●野菜づくりの習得

- ・南瓜やピーマン・ナス・ミニトマトなど、様々な野菜づくりを学んでいます。
- ・品種によって管理の仕方が異なるため、大変な面も多いですが、やりがいを感じながら取り組むことが出来ています。



●当別町農業や当別町産農産物のPR

- ・当別町農業のPRを行うべく、当別町農業総合支援センター公式インスタグラムを通じた情報発信を行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

当別町経済部農務課農務係

（メールアドレス）norin1@town.tobetsu.hokkaido.jp

（電話番号）0133-23-3091

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

<https://www.instagram.com/tobetsushiencenter?igsh=MWJwc2dkOGh0ZTVhcg==>（当別町農業総合支援センター公式インスタグラム）

基本情報



【年 齢】
39歳
【出身地】
青森県青森市
【転出元】
北海道札幌市
【前 職】
会社員
【活動時期】
R4.7～R7.6（予定）

協力隊に応募したきっかけ

自然が豊かなところでいちご栽培がしたいという想いがあり、5年前に関東から北海道に移住しました。当初は都会でもあり自然も豊かな札幌に移住しましたが、コロナ禍となってから趣味がキャンプになったことをきっかけに、改めて自然豊かなところに移住したいという想いが強くなりました。その際に、猿払村の夏いちごの存在を知り、当時の地域おこし協力隊の方々とオンラインでお話して、猿払村のことや活動について聞いて本格的に移住を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

猿払村でなぜ夏にいちごを育てるのか、夏いちごとはどういう作物なのかを理解してもらい、イチゴ摘み体験会やスイーツ教室を通して地域住民の方に興味関心を持ってもらう活動に努めて参りました。今後も引き続き夏いちごを通して村内や宗谷管内が盛り上がるようにPR活動に努めていきたいです。任期満了後の目標は、施設園芸ハウスの管理者として夏いちごの栽培に携わり、観光面や猿払村PRの一因を担うことが出来るようになる事です。

活動内容

●村内での施設園芸(ハウス)栽培事業

村内にある小学校グラウンド跡地に建設されたビニールハウスで、3月から11月頃まで3品種の夏いちごの栽培を行っています。従来同様に人の手による作業(定植・収穫等)を行いつつ、栽培環境のデータ(ハウス内温湿度・いちごの生育調査や糖度)をとることで、猿払の気候や規模に合わせた栽培マニュアルを構築し、作業負担の軽減を図っています。



●猿払産いちごのイベント販売やPR活動

ハウス栽培での作業の他に、村内外の個人店様やスーパーへの販売や仲卸、また猿払産夏いちごを使用したコラボ商品の開発や製造依頼を行って、道の駅で対面のイベント販売を行っています。

更には村民の猿払産夏いちごに対する知識や愛着度を持ってもらうため、村民を対象としたスイーツ教室の開催やいちご狩り体験会の企画を行い、レシピコンテストの開催などを通じて、より多くの方々に猿払産夏いちごの特徴や魅力を発信できるように活動しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) syokokanko@vill.sarufutsu.lg.jp

(電話番号) 01635-2-3134

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram :

<https://www.instagram.com/onakaiippai15?igsh=MXRoY2cwYzN6Z2hpdA==>

基本情報



【年 齢】
35歳
【出身地】
宮城県七ヶ浜町
【転出元】
宮城県利府町
【前 職】
利府町地域おこし協力隊
【活動時期】
R4.1～

協力隊に応募したきっかけ

前任地で梨栽培の一連の流れを取得し、今後も永続的に農業を続けていくにはどうすべきか、長らく考えていました。将来的に一次産業で生計を立てていくためには、初めからまとまった梨畑での就農準備を進めた方が効率が良いという考えに至り、その条件に当てはまる場所を求め、東北6県 + 新潟県(男鹿市 / 花巻市 / 鶴岡市 / 酒田市 / 福島市 / 相馬市 / 美里町 / 蔵王町 / 角田市 / 新潟市南区)の梨産地を対象に情報収集を進めました。その中で、角田市の梨畑がもっとも理想に近い条件が揃っていた事が一番の志望の理由になります。

今後の抱負・任期後の目標

梨以外の果樹栽培にも積極的にチャレンジ出来ればと考えており、現在興味のある果樹としては、桃・ぶどうの2品目、加えて角田市名産の梅です。また、収穫物を生かした6次産業事業にも携わる事が叶えばと思っております。梨に限らない果樹全般に対する知識や新たな栽培技術を取得し、どの果樹においても専門的な栽培ができるようになりたいと考え、任期終了後は、梨を中心とした果樹農家として定住するとともに、地域の方々と積極的にコミュニケーションを図りながら継続的な営農活動を進められればと思います。また次世代の新規就農者のために体得した技術は全て共有し、産地を守る活動事業にも力を入れていきたいと思っております。空き家を購入し、角田に永住を決意。今後とも永続的に梨業務に携わります。

活動内容

●休耕梨園 再生計画 STAND UP!!

休耕農地、されど伸びしろがある農地があるだけ運が良い。手がける梨園は、2年から7年程度営農活動(主に梨園西側)を行っていなかった場所で、梨の木の状態はかなり悪い。しかし設備などはまだまだ活かせる状態であったため、休耕梨園(90a)を拠点にすることに決めた。損傷が激しい梨の木(およそ150本)全て伐根。そこに新たな梨苗木を植え、休耕農地をまた稼げる梨園にすることがミッションになります。3年間で、約250本の梨苗木を購入。園地の若返りを図ります。R6年1月より、新たな梨園地(23a)をお借りし、経営面積も拡大。



●北海道に学ぶ、農業経営のすめ

広大な果樹園界隈に宿泊可能なキャンプサイトを作る計画があります。角田市姉妹都市交流事業として北海道栗山町に訪問させていただいた際に、選考事例として栗園(3ha)×キャンプ場経営を行っている農園を視察。「北海道での学びを角田の地で実践したい」をテーマに自身が手がける梨園に遊べる楽しめるキャンプサイトを作り、果樹園関係人口を増やし、新たな農産物販路及び農繁期の労働力の確保等を獲得することを目的とした活動を計画しております。



●地域住民と地域農業の現状共有

角田市で行われている「かく大學の農ある暮らし学部」を通し、地域の方々に休耕梨園に招待し、作業の現状や今後の課題や将来展望を共有しました。将来的に梨狩り体験可能な農園にしたいと考えており、様々な人が関わる、地域の方に愛される観光果樹園を目指せればと思います。

また「梨園の再生challenge」「かくだ梨まつり」を角田に思いがある方々と共に企画。角田梨のPR及び、休耕状態の梨園でも再生できる前例作りに奮闘。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人)) k-kikkawa@pear-farmers.life



←HP



←Instagram

吉川果樹園

kikkawa fruit farm

基本情報



【年 齢】
57歳
【出身地】
兵庫県神戸市
【転出元】
東京都新宿区
【前 職】
麒麟ビール株式会社
【活動時期】
R6.4～

協力隊に応募したきっかけ

35年間勤務した麒麟ビール株式会社を定年退職するにあたり、長年にわたり日本産ホップの契約栽培でお世話になっている秋田県（横手市・大館市）でのホップ文化継承に少しでも貢献したいと思い応募しました。

2011年4月から2年半、麒麟ビール秋田支社長として秋田県の行政・商工会・流通・外食・JA・JF・メディア・地域コミュニティなど各方面の皆さまとも交流していたこともあり、横手市や大雄ホップ農業協同組合の皆さまも身近に感じられた事も大きな要因です。

今後の抱負・任期後の目標

「今の組合運営を持続可能な形にする」、「横手のホップ文化を未来に繋いでいく為の基礎を作る」という2つの大きな使命を、横手市の皆さんと一緒に全うしたいと考えています。その為にも、日本産ホップ文化の危機を世の中に伝えながら、日本産ホップ文化の魅力を発信して、ホップ生産量の安定及び、担い手の確保を推進していきます。任期後も日本産ホップ文化の伝承に関わるとともに、自身の「梨農家」になるという夢の実現に向けて可能性を探っていききたい。

活動内容

●ホップ栽培マニュアルの作成

53年の歴史がある横手でのホップ栽培において、大まかな年間の作業項目は共通ですが、生産者によって夫々に工夫や拘りがある中で、新規参入者や外部の方々にも、分かりやすい栽培マニュアルを作成。技術の伝承・発展に活用するべく、気象データや生育状況との関連性も探求し始めています。



●ホップ文化の危機及び魅力についての啓蒙活動

日本産ホップ文化の危機及び魅力について、幅広く情報発信をしていく事で、行政や地元の皆さん・ビールに関心のある方々に現状を理解して頂きホップ文化への支援や新規参入の可能性を模索しています。農水省・秋田県・ロータリークラブ・異業種交流会・地元の小学校や中学校など。



●ホップ及び生産地のブランド化推進

横手で主に生産されている「IBUKI」というホップのブランドを確立する事で、主要な生産地である「横手」のブランド向上に繋げる。麒麟ビール「晴れ風」の好調を機に、同社への働きかけを強めて、ともに日本産ホップ文化の維持・発展に向けて取り組んでいます。



日本産希少ホップ「IBUKI」が生み出す『晴れ風』の味わい。秋田県横手市の生産地を訪ねて

73
2024/10/18 00:00

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(大雄ホップ農業協同組合)) taiyuhop@cello.ocn.ne.jp
(電話番号(大雄ホップ農業協同組合)) 0182-52-2631

【よこてホッププロジェクト】

<https://www.facebook.com/yokotebeer>

基本情報



【年 齢】
22歳
【出身地】
福島県郡山市
【転出元】
東京都町田市
【前 職】
学生
【活動時期】
R6.4～

協力隊に応募したきっかけ

地元で何か役に立ちたいと漠然と考えている中、講義で「地域おこし協力隊」という制度があることを知りました。農学部であり、自然環境や農業に関心があった私は、地元の豊かな自然環境を子供をはじめとして様々な方に体験してもらいたいと思い、グリーンツーリズムのさらなる推進を提案し、入隊しました。

今後の抱負・任期後の目標

1年目では農業体験の基盤を作るため、自ら実際に1年を通して作物栽培と農業体験の受け入れを行いました。今後空き家を利用できる目処が立っているため、そこを自然体験施設とし、大学の実習地や自然体験スクールの開校を目指しています。任期後もそこを拠点とし、生業としていきたいと思っています。

活動内容

●村内施設の圃場管理

今年度の活動のメインは村内施設“森の駅yodge”の圃場管理でした。ここではコンテンツの一つとして農業体験があり、そのための圃場管理を行いました。夏はトマトやオクラ、ナス等を栽培し、yodgeのレストランで提供されました。



●農業体験実施

外部で関東から希望者をアテンドする企業と連携し、農業体験を実施しました。季節に合わせた野菜の定植や収穫、稲刈り体験を行い、参加者を楽しませることができました。また、農業体験イベントを企画し、失敗もありましたが大学生に参加してもらうことができました。



●村内イベントでのワークショップ出店

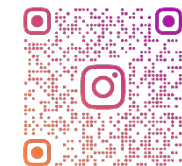
生態系サービスを利用することも自然体験の1つと考え、剪定枝を用いて工作をするワークショップをイベントの際に出店しました。客数が少なかったため、これについては工作イベントとして企画するほうが効果的であると感じました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) t.okoshi.Shiozawa@gmail.com
(電話番号(職場)) 0247-57-2104

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram



基本情報



【年 齢】
28歳
【出身地】
東京都江戸川区
【転出元】
東京都江戸川区
【前 職】
都内区立保育園 栄養士
【活動時期】
R2.6～R7.11

協力隊に応募したきっかけ

福島へ行ったことすらありませんでしたが、郡山出身の友人をきっかけに連休のたびに郡山へ遊びに行くようになりました。行き来を重ねるうちに友人知人が増え、東京での仕事や当時通っていた夜間のスクーリングもひと段落つきそうだというタイミングで郡山の知人から「地域おこし協力隊」をご紹介いただきました。東京へ帰ってくるたびに視覚的情報量の多さにストレスを感じていたこと、新たな土地で自分のスキルが活かせる仕事がしたいと考えるようになり、応募を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

今年度取り組んだイベント2本が多くの方からご好評いただき、開催後も次回開催の期待の声が寄せられました。引き続き地域の魅力をPRする取り組みをしながら、今後はさらにターゲットを外へ広がりを持たせられたらとも考えています。

任期後については着任1年目に興した会社の運営と、会社とは別に個人事業主としても開業しキッチンカー事業も並行して進めていきたいと考えています。会社では既に郡山の特産品「鯉」を活用した6次化商品「鯉とば」「Carp Leather」の開発やYouTubeを活用した魅力発信事業、移住定住促進事業に取り組んでいます。キッチンカー事業では県内産食材を使用した商品を販売予定です。どちらも地域に根差した取り組みをしていきたいです。

活動内容

●地域の「食」をテーマにイベント開催！

R6.7月「こおりやまサマーナイトマルシェ（来場者1,200人）」、R6.9月「こおりやま秋のパンまつり（来場者4,500人）」を開催し、郡山や周辺市町村の飲食店さんにご出店いただき、大勢の方に足を運んでいただけたイベントとなりました。それぞれテーマを設け、色々な角度から「郡山の食」をPRしたイベントとなりました。



●YouTubeを活用したPRも力を入れています！

郡山市や周辺市町村の情報をYouTubeで発信しています。地元飲食店やローカル商品の紹介、田植え体験、地元バスケットボールチームへの取材などを行っています。「えみたろ」の愛称で地元の方々にも覚えていただき、イベントなどでも視聴者の方からお声がけいただくほどになりました。



動画投稿本数：112本
チャンネル登録者数：1,250人

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））emi.s@fukushima-local.com
（電話番号（個人））080-9261-9958

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（個人Instagram）
https://www.instagram.com/emi_taro

協力隊
Instagram



協力隊
YouTube



基本情報



【年 齢】
35歳
【出身地】
東京都 葛飾区
【転出元】
千葉県 柏市
【前 職】
食品総合商社 営業
【活動時期】
R5.9～R8.8

協力隊に応募したきっかけ

2023年に行われた『おためし地域おこし協力隊ツアー』に参加したことがきっかけでした。
それまで、『食品ロス改善』活動を独自に行っており、自身でジビエを通じて活動をしていきたいと模索しておりました。その時に「地域おこし協力隊」のことを知り、どのようなもの知りたくてツアーに参加しました。
ツアー時に担当の方にお話をさせていただき、狩猟のミッションはありませんでしたが「応募してくれるならそのミッションを作ると言っていたら、応募しました。」

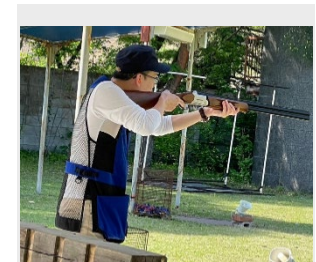
今後の抱負・任期後の目標

現在、「地域おこし協力隊」になって1年が経ちました。この1年は、狩猟を始める為に必要な資格や知識の収集に力を注いでおりました。
2年目以降は、那須町で『鳥獣被害相談窓口』を設置して地域に根付いた活動を中心にしていきます。その活動を退任後も続けていけるように『起業』という形を行い、鳥獣被害対策業務を中心に活動を行っていきます。

活動内容

●毎月の射撃練習

半年と長い時間をかけて『第一種狩猟免許』と『猟銃所持許可書』を取得することが出来ました。
自身の猟銃を持ってからは、先輩猟師さんから教えてもらい、毎月1回は『射撃場』に行ってお練習をするようにしています。



●地元の草刈り活動

栃木県で行っている『TUNAGU』というイベント・ボランティア募集などを行っているサイトがきっかけで地元でボランティアを募集していることを知り、初の草刈りに参加しました。
『あしのおと』という団体を立ち上げて里山整備を通じて鳥獣への対策を伝えております。



●保存会の所属、お祭りに出演

地方に移住する前から『移住したら地元の和太鼓をやりたい』という思いがあり、保存会の方を紹介して頂きました。
そこから半年間練習を行い、舞台に出てみるかというお話を頂き、早くも目標を実現することが出来ました。今後も続けていきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) ariasic487www@gmail.com
(電話番号(個人)) 080-6643-4329
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) https://www.instagram.com/ariasic_jin/
(note) https://note.com/gentle_macaw408/n/n84cd9



基本情報



【年 齢】
34歳
【出身地】
埼玉県川越市
【転出元】
埼玉県川越市
【前 職】
会社員
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

R4年度藤岡市主催の林業体験ツアーを通じて藤岡市の林業に興味を持ち応募した。

藤岡市はアクセスも良く、実家から近いことにも魅力を感じた。

特に自伐型林業に興味があるので、地域おこし協力隊として林業のスキルを身につけ、経験を積みながら将来は自伐型林業に携わる事を目標に活動したい。

今後の抱負・任期後の目標

令和5年度に就任してからの一年間で、林業の基礎を学び、地元の森林組合と協定を結ぶことで実地体験をできる機会を得て、自身のスキルを高めてきた。

協力隊2年目は林業従事の梓にとらわれることなく、自身が強く興味を持っている登山ガイドを深く学んでいる。

山の魅力の発信と林業のコラボレーションにおける可能性を模索しているところであり、任期後は自身のスキルを活かし、森林・山林を活用した起業を目指している。

活動内容

●地元森林組合での実地体験

林業の現場を幅広く知ることができる機会から、林業に関する技術の習得や資格等の取得を行い自身のスキルを高めている。施業現場はもちろんのこと、森林調査・測量にも参加し、知見を広げている。



●林業に関する自身の活動内容のPR

藤岡市のホームページ内では、地域おこし協力隊員の活動レポートを毎月更新している。そこでは林業に関することや日々の発見など、藤岡市の森林や自然、林業の魅力について発信を行っている。



●起業に向けた取り組み

林業だけではなく、森林や自然の素晴らしさを伝えることができる職業を確立するために、協力隊間の情報収集をはじめ、起業に向けての必須の知識や経験を積み上げている。重機オペレーター・登山ガイド・森林インストラクター等の資格取得や研修に参加。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(職場)) sinrin@city.fujioka.gunma.jp

(電話番号(職場)) 0274-40-2316

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(藤岡市HP) https://www.city.fujioka.gunma.jp/iju_teiji/7553.html

基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
埼玉県ふじみ野市
【転出元】
埼玉県ふじみ野市
【前 職】
IT企業
【活動時期】
R4.10～R7.9

協力隊に応募したきっかけ

自分が食べているものがどこから来ているんだろう？という疑問と興味から、学生の頃にファームステイをしたり、様々な農家さんのところを訪れる中で小川町と出会いました。はじめはイベントや農家さんのお手伝いの度に小川町に通っていましたが、農産物の生産から流通、消費、廃棄までの循環の輪が感じられるこの町の魅力に惹かれ、出会う人たちのあたたかさに触れ、より深く関わってみたい！と思うようになり、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域の皆さんとの日々のコミュニケーションを大切に、3年目も活動していきたいです。
特に、おがわんプロジェクトの輪に、より多くの事業者、レストラン、消費者などが参加できる関わり合いを作ること、暮らしにかかわる農業と食、地域の風景に人々が心を寄せるきっかけを作ること尽力したいと考えています！
都市と農村、生産者と消費者をつなぐ役割を果たせるように頑張ります！

活動内容

●おがわんプロジェクトと地域認証「OGAWA'N」の推進

小川町の農業を生産者だけでなく、レストラン、事業者、学校、そして消費者みんなで応援して盛り上げていこう！というおがわんプロジェクトの取組。その推進のための冊子の作成やマルシェの出店、イベントの企画運営、また、OGAWA'N認証の在り方を農家さんと役場の方々と一緒に検討を進めています。



●小川町の女性農業者による「GOMAの会」事務局

栽培を通して女性農業者同士が交流する機会を作りたい、小川町の特産品として町を盛り上げたい！という目的で始まった金胡麻の共同栽培。町内の女性農業委員さんを筆頭に、女性農業者、町内外からの有機農業入門講座受講生、卒業生などが参加し、今年(2期目)は28名が会に在籍し活動しています。



●資源循環の現場をまわる「ぐるぐるツアー」の開催

小川町の八和田地区にある、バイオガスプラントや堆肥場、里山、ため池などの資源循環の現場を、長年関わってきた地元の方々と交流をしながら、見て歩いているのが生まれ変わりながら回っている様と一緒に体感するツアー。これまで6回開催し、累計100名を超える方々にご参加いただきました。



連絡先

【連絡先】電話番号（小川町役場）0493-72-1221
【note】<https://note.com/ogawanproject>

基本情報



【年 齢】
33歳
【出身地】
東京都目黒区
【転出元】
東京都世田谷区
【前 職】
造園業
【活動時期】
R4.8～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

幼少期から、都心よりも自然豊かな環境に惹かれていました。田舎暮らしに憧れを抱くも、きっかけがないまますごす中、2012年にTV放送されたドラマ『遅咲きのヒマワリ』を見て、地域おこし協力隊制度の存在を知り、いつか移住するときは、地域おこし協力隊として移住しようと思ったことがきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

ただの移住者ではなく、村民になりたいです。村に暮らし、村で仕事をし、村と共に生き続けることが大きな目標です。
そのために、地域の暮らしを維持するお手伝いを担って行けたらと考えています。
また、協力隊活動の中で見出した畑わさびの栽培を軌道に乗せるため、任期後も継続的に栽培を行っていきます。

活動内容

●地域を知るための活動と人脈づくり

地域を周り、住民や村内事業者との交流をする中で、地域の歴史背景やこれまでの地域の取り組みを学び、現状、課題を把握する活動。

また、交流の中で人間関係を構築し、活動のバックアップをしてくれる応援者をつくる活動。
地域PRイベントへの参加。

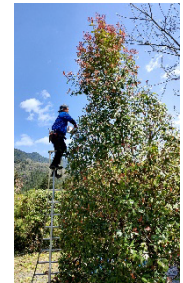


●地域特産品の生産協力と自身のPR活動

村をあげて取り組んでいる特産品「じゃがいも」をはじめ、その他の地域特性を活かした特産品の生産協力。

こうした生産協力の中で、ノウハウを学び、その地域の環境特性を学ぶ活動。

また、造園業で培った自身の経験のPR活動。



●畑わさび試験栽培

檜原村に合う新事業として、畑わさびの生産に取り組んでいます。まだまだ課題は山積みですが、任期後も継続して栽培に降り組んでいきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) muradukuri@vill.hinohara.Tokyo.jp
(電話番号) 042-519-9556

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(檜原村地域おこし協力隊Facebook)
<https://www.facebook.com/hinohara.chioko.tokyo/>

基本情報



【年 齢】
54歳
【出身地】
兵庫県
【転出元】
滋賀県大津市
【前 職】
電機メーカーエンジニア
理学療法士
【活動時期】
R4.2.1～R7.1.31

協力隊に応募したきっかけ

結婚し、子どもを育てるなかで自然豊かな土地で子育てをしたいと思うと同時に、「食べたものがこの子の体をつくる」と気づき、オーガニックに興味を持つ。移住フェアにて富山県の自然栽培の米農家と知り合い、富山県に訪問。その後、上市町の暮らし体感ツアーへの参加を経て、令和4年2月に上市町に移住し、地域おこし協力隊に着任した。

今後の抱負・任期後の目標

自然栽培の米作りや有機農業の普及活動を続けていくとともに、理学療法士の資格等も活かして、地域とのかかわり合いを大切にしながら活動していきたい。

活動内容

●耕作放棄地の有効活用を目的に自然栽培（無農薬・無肥料）の米作りを実施

未経験で農地や農機具がないところからスタートしたが、地域住民の理解と協力を得て、1年目から米の収穫まで繋げた。
また、地域の子もたちと一緒に田植祭り等も実施。町の課題となっていた耕作放棄地を有効的に活用するとともに、地域活性化にも貢献している。

●有機農業の普及を通じた地域コミュニティの形成・移住促進

①オーガニックマーケットの開催

有機農業の普及と町の賑わい創出を目的にイベントを企画・開催。令和6年11月24日（日）に開催した第3回上市オーガニックマーケットでは、地域で有機食材を扱う農家や事業者29店舗が出店した。無農薬で栽培された米や野菜を求め多くの来場者で賑わった。

②“小さな自給農家さんプロジェクト”の実施
及び横のつながり「かみいち結」の仕組み作り

農業に挑戦したい方を集め、農地提供から収穫までをサポートした。

③学校給食で自身の栽培した有機米を提供

地域のお母さんたちと協力して学校給食への有機米の普及活動に取り組む。

④移住促進へ繋げる

「自然に寄り添う暮らし」をテーマに暮らし、その様子を発信することで、移住促進を目指す。移住フェア等にも積極的に参加している。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（個人））aripopi@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram 個人の活動 @kamiichi.shizen

かみいち結の活動 @satoyama.kurashi.gakko

HP 有吉自然農場 <https://ariyoshizen.wixsite.com/ariyoshizen>

基本情報



【年 齢】
53歳
【出身地】
大阪府堺市
【転出元】
大阪府堺市
【前 職】
ペット用品製造販売メーカー/商品開発
【活動時期】
R3.1～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

自然豊かな場所に家族で移住したいなと考えていました。農業知識は皆無でしたが、天満にある園地を視察させて頂き、尾鷲湾を望む風光明媚な場所にある甘夏畑に魅了されました。また、約70年の甘夏栽培一筋である歴史があり、栽培量が少なく希少価値の高さを感じ、6次化（商品開発・販路）により尾鷲甘夏を活性化できる夢がある仕事であると魅力を感じました。

今後の抱負・任期後の目標

約70年続く甘夏栽培の歴史を繋いでいく為に、天満地区の甘夏栽培の中心的な役割ができる人材になりたいと考えています。現在取り組んでいる無農薬・無肥料の植物本来の力を引き出すDOHOスタイル手法にて、経済性に優れる農家を目指し、チャレンジしたくなる新規就農者を増やしていきたいと考えます。任期後は、甘夏栽培を行いながら、増加する耕作放棄地の再生拡大、6次化を加速させながら、尾鷲甘夏需要の開拓を行っていきます。

活動内容

●耕作放棄地の再生/有機栽培（DOHOスタイル）

耕作放棄地からの再生活動を行い、有機栽培のDOHOスタイルを取り入れることで、香りの高い美味しい甘夏を生み出すことで価値を高めていきます。尾鷲甘夏の復活を目指します。



●6次化（新商品開発）にて、甘夏需要拡大

尾鷲甘夏を加工品開発することで、甘夏の可能性をPRし、甘夏需要の拡大を図りたいと思います。



●尾鷲のソウルフルーツとしての復活

尾鷲の甘夏は、開拓計画から約70年の歴史があるソウルフルーツです。

小学校の教育（収穫・給食）に取り入れてもらうことで、地産地消により社会文化的な側面でも地域にとって貴重な資源としていきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス：個人）amanatsu2021@gmail.com
（電話番号：個人）090-8467-5812

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
・Instagram：https://www.instagram.com/amanatsu_tenma/

基本情報



【年 齢】
27歳
【出身地】
兵庫県丹波市
【転出元】
兵庫県丹波市
【前 職】
畜産業
【活動時期】
R5.6～R8.6

協力隊に応募したきっかけ

以前していた牧場の職場では、鳥獣被害に悩まされていました。被害を食い止めるためにと、半ば趣味として狩猟を始めましたが、やっていくうちにより深く狩猟をしたいと思いました。

牧場を退職後、今まで趣味でしていた狩猟を仕事にしたいと考え、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

自分でジビエ製品の加工、販売をしたいです。
任期後の目標は、大豊町に定住して狩猟活動を続けていきたいです。

活動内容

●有害鳥獣捕獲・解体

有害鳥獣の捕獲をしています。獲れたシカやイノシシは解体処理施設（猪鹿工房おおとよ）で食肉処理をしています。



●地域と協働で罠の設置

住人の方々と協力をしてサルの捕獲をしています。



●ジビエの加工・製造

研修先の猪鹿工房おおとよで、ジビエ製品の加工、製造の研修をしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））個人用 sayaka.9999393@gmail.com
（電話番号（個人or職場））個人用 080-6118-3432
職場用 0887-72-0450

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど

基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
福岡県福岡市
【転出元】
鳥取県鳥取市
【前 職】
大学生
【活動時期】
R4. 4 ~ R7.3

協力隊に応募したきっかけ

もともとコケに興味を持っており、その中で屋久島というコケの宝庫に移住することを決めました。移住するにあたり、職を探していたところ、自由提案型での募集が屋久島町にてあり、自身の強みでもあるコケで仕事ができると考え、募集しました。

今後の抱負・任期後の目標

活動の目的でもある、屋久島のコケ産業を確立させること、それに必要なコケ農協を屋久島で始めたいと考えています。コケの生産を協力隊の任期中に増やしつつ、生産したコケを仕入れ、島内外に販売する農協のような企業を立ち上げたいです。

活動内容

●コケの生産

コケの宝庫である屋久島でコケ植物を生産しています。前年度は試験的に生産していましたが、今年度は大量生産を取るようになっています。屋久島苔生産者の会も立ちあげ、地域の方々と協力しながら生産を拡大しています。



●コケの魅力発信

コケの生産を拡大させるためにも、コケの魅力をより多くの人に知ってもらいたいです。そのためにもコケに興味を持ってもらうような企画として、野外での観察会、顕微鏡での観察、WSなどを行っています。



●情報発信

自身の活動をより多くの人に知ってもらうよう、情報発信にも努めています。SNSでの投稿はもちろん、地元ラジオへの出演や新聞への記事掲載、各イベントへの出展なども積極的に行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
「メールアドレス（個人）」 omizu.kosuke27@gmail.com
「電話番号（個人）」 080-8315-0247

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) <https://www.instagram.com/kokedou>
(note) <https://note.com/kokedou>

08 環境保全・自然保護

基本情報



【年 齢】
47歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
北海道札幌市
【前 職】
福祉支援員
【活動時期】
R6.4～

協力隊に応募したきっかけ

羽幌町天売島に年に数回は旅行者として訪れていました。都会でなく自然豊かで海のある町生活をしたいこと、そして野生動物や自然環境に関わりたくて応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

映像やSNSを勉強してそのスキルを活かし、自然の豊かさを多くの人に知ってもらい、交流人口を増やしていきたいです。ミッションの自然環境保全等推進業務も進めてきたいです。

任期後は羽幌町の自然に関わる仕事や空き家を利用した宿泊施設の経営などを考えています。

活動内容

●各地でのPR活動

羽幌シーバードフレンドリー認証事業者の取り組みや商品を、より多くの方に知ってもらうため、全国各地でのPR活動を行っています。

これまで、道内では羽幌、留萌、札幌、東京、千葉で特設展示などを行っています。もしどこかで私たちの展示を見かけたら、ぜひともお立ち寄りください！



●留萌管内地域おこし協力隊ネットワーク

令和7年から事務局長、留萌管内での活動をより充実にしたものするために活動中。
交流会やスキルアップ研修などを企画中



●羽幌高校との環境教育

協議会と羽幌高校の連携のもと、毎年「総合的な探究の時間」カリキュラムの中で、地域の自然環境と抱えている課題について学ぶ環境教育の授業を行っています。海岸清掃や生物調査も行い、地域の自然を体験することで自然との距離感を感じて自分事として考えるきっかけにして欲しいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(職場)) c-seisaku@town.haboro.lg.jp

(電話番号(職場)) 0164-68-7013

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(協力隊HP) <https://haborokyoryokutai.wixsite.com/ororon>

基本情報



【年 齢】
37歳
【出身地】
愛知県半田市
【転出元】
愛知県半田市
【前 職】
会社員
【活動時期】
R2.10～
(5年目)

協力隊に応募したきっかけ

友人が、指宿市で協力隊として活動していたので、何度か訪れたことがあり、いい所だなと感じていた矢先、協力隊の募集があったので応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

耕作放棄された田が少しでも再生し、美しい状態を維持することで、もっと多くの方々に棚田に来ていただき、共に活動する仲間を増やしていきたいです。

活動内容

●棚田地域における農作業、環境保全活動の支援

- ・棚田の草刈り
- ・石積みの棚田の維持補修
- ・遊休農地への作付け など

●棚田地域住民と外部人材の交流、対話の場づくり

- ・農作業ワークショップ等の棚田地域との交流人口創出を目的としたイベントの実施

●地域資源を活かした田舎暮らしのマネジメント

- ・棚田における活動の情報発信

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) nosei@city.ibusuki.jp
(電話番号) 0993-22-2111 (内線714)
(職場) 農政課

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

09 医療・保健

基本情報



【年 齢】
58歳
【出身地】
京都府宇治市
【転出元】
埼玉県朝霞市
【前 職】
行政保健師
【活動時期】
R3.12～ R6.11
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

綾部市に移住を検討する中で、コミュニティナースという活動が綾部市にあることを知り、大変興味を持ちました。これまでの保健師のキャリアが生かせ、住民に近い活動ができ、地域のことも知ることができると思い応募させていただきました。

今後の抱負・任期後の目標

現在は、地域の主任児童委員の役割も担い、地域の人たちが随分とわかるようになりました。今後もここ綾部市での暮らしが続けられるよう、新たな仕事探しも含め検討していきたいと思っています。

活動内容

●コミナスの部屋

・各地区の最寄の公会堂や集会場を借りて地域の方が気軽に集まれる場所、健康を生み出す場所づくりの創出
・地域の方ならどなたでも参加可能（赤ちゃんから高齢者まで）



●個別訪問・健康相談

・個別のアプローチとして関わりをもち、時間をかけて健康や暮らしについて傾聴していく。必要時は専門機関への情報共有を行い、切れ目ないフォローを目指す。



●地域行事への参加

・行事や地域サロンへ参加し、様々な生活の場面で出会うことで、多面的に生活様式をアセスメントし健康行動につながる関わりを目指す。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) teijyutiiki@city.ayabe.lg.jp
(電話番号) 0773-49-1161
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Facebook) <https://www.facebook.com/communitynurseayabe/>
(綾部市HP) <http://www.city.ayabe.lg.jp/teiju/kenko/cn/index.html>

基本情報



【年 齢】
41歳
【出身地】
千葉県八千代市
【転出元】
千葉県八千代市
【前 職】
看護師（診療所）
【活動時期】
R6.6～R9.5
（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

看護師として大学病院や島の診療所で勤務してきました。ネット検索で「コミナス」の存在を偶然知り、医療現場ではなく日常生活の中で1人の住民として出会い、一緒に健康づくりについて考える活動がユニークで面白そうだなと興味をもったのがきっかけです。全国各地でコミュニティナースは活動していますが、自治体で地域おこし協力隊としてコミナス活動をしているのは綾部市だけだったのも珍しかったため応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域住民の名前や顔を覚えて仲良くなり、綾部市の良いところをたくさん見つけていきたいです。何気ないおしゃべりができる関係になり、1人ひとりが自分の体に興味を持ち、健やかに過ごせるように一緒に歩んでいきたいと思えます。

活動内容

●コミナスの部屋

・各地区の最寄の公会堂や集会場を借りて地域の方が気軽に集まれる場所、健康を生み出す場所づくりの創出
・地域の方ならどなたでも参加可能（赤ちゃんから高齢者まで）



●個別訪問・健康相談

・個別のアプローチとして関わりをもち、時間をかけて健康や暮らしについて傾聴していく。必要時は専門機関への情報共有を行い、切れ目ないフォローを目指す。



●地域行事への参加

・行事や地域サロンへ参加し、様々な生活の場面で出会うことで、多面的に生活様式をアセスメントし健康行動につながる関わりを目指す。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）teijyutiiki@city.ayabe.lg.jp
（電話番号）0773-49-1161
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Facebook）<https://www.facebook.com/communitynurseayabe/>
（綾部市HP）<http://www.city.ayabe.lg.jp/teiju/kenko/cn/index.html>

基本情報



【年 齢】
48歳
【出身地】
大阪府大阪市
【転出元】
大阪府八尾市
【前 職】
歯科衛生士
【活動時期】
R6.4～R9.3予定

協力隊に応募したきっかけ

安来市に移住を検討し、特産品であるいちご作りを夫婦でしようかと考えていた時、地域おこし協力隊という選択肢もあると教えていただいたことがきっかけでした。ミッションが、介護職魅力発信とうかがい、前職の歯科衛生士時代、施設へ入所された患者様の所へ往診に行った際、介護職の方と接する機会があり、皆さん素敵な笑顔で、テキパキお仕事されているのが印象的でした。その時の経験が少しでも活かせるのではないかと思い、応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

今後は、中学校での介護出前授業を恒例授業とし、1年生から3年生へとステップアップできるような内容にし、より介護や介護職を身近に感じてもらえるような活動にしていきたいと思います。
任期後は、今のところ、いちごで夫婦就農を考えております。ただこの活動で、いろいろとご縁ができましたので、今後も介護事業所や、求職者、移住希望者の方々と繋げられるようなお手伝いができたらいいなと思います。

活動内容

●介護出前授業

中学校で、介護職の仕事内容や、やりがい等の話、ちょっとした介護の体験をしてもらう授業。安来市内には介護福祉士を目指す大学があり、そちらの卒業生に講師を依頼。現役生にも補助に入ってもらい、介護、介護職を身近に感じてもらい、将来の仕事の選択肢にいれてもらいたいと考え企画。



●UIターン介護職スタートパッケージ

島根県UIターン産業体験や、安来市独自の家賃助成などを使い、移住者の方に安心して、新生活をスタートとしていただけるようなパッケージを作成。東京、大阪の移住相談会などでPR。移住希望者の職場見学の対応や付き添い、市内案内や、住宅見学など移住に向けたフォローも行う。



●オーラルフレイル予防・口腔講座

歯科衛生士という資格を活かし、高齢者を対象に介護される側にならないように、オーラルフレイル、誤嚥性肺炎の話、それらを予防するための口腔体操を指導。食べるだけでなくいろいろなことに、口や喉の筋力は関係しているので、しっかり口腔体操をしてもらうようにしっかり伝える。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) (職場) yasugi.midori@gmail.com

(電話番号) (安来市役所・介護保険課) 0854-23-3287

10 デジタル

基本情報



【年 齢】
45歳
【出身地】
埼玉県さいたま市
【転出元】
埼玉県さいたま市
【前 職】
コールセンター勤務
【活動時期】
R5.11～R6.10

協力隊に応募したきっかけ

地域おこし協力隊に応募したきっかけは、地方創生に貢献したいという強い思いからです。私は長年のコールセンター管理経験を通じ、在宅ワークが地方でも可能であり、地域活性化に役立つと考えるようになりました。長沼町を訪れた際、その住みやすさとアクセスの良さに魅力を感じ、在宅ワークの拠点として最適だと判断しました。百名の関係人口を構築し、町の魅力を広げる活動に貢献したいと考え、応募を決意しました。

今後の抱負・任期後の目標

今後の抱負としては、長沼町で在宅ワークセミナーを開催し、地域の方々に新しい働き方を広めることを目指しています。また、スムージーの商品開発にも挑戦し、地元の特産品を活用した新しい商品を作り、町の魅力を発信したいと考えています。任期後は、在宅ワークを通じて構築したネットワークをさらに拡大し、地元産業の活性化に寄与できる事業を継続して進めたいです。地域に根差した貢献を続けることが目標です。

活動内容

●長沼町在宅ワーカー養成プロジェクト

このプロジェクトは12月に開催され、長沼町の町民を対象に在宅ワークのスキルを提供するものでした。データ入力やテレアポなどの研修を通じて、特別な資格がなくても自宅で仕事ができるようサポートしました。これにより、町民の収入増加と地域の活性化を目指しました。



●長沼町主催スマートフォン教室

この教室は10月に開催され、町民向けにスマートフォンの基本操作やアプリの活用方法を学ぶ場でした。私は講師として参加させていただき、日常生活で役立つスマートフォンの機能を町民の皆さんに伝えることができました。これにより、地域全体でデジタルスキルの向上に貢献できたと感じています。



●町内でのイベント出店（お祭り、居酒屋営業など）

長沼町地域おこし協力隊員同士で協力し合い、町内のお祭りやイベントに積極的に参加しています。また、隊員たちの自発的なアイデアに基づき、地域住民との交流を深める場として、一日限定の居酒屋営業なども実施し、町の活性化に貢献しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) tokudomese@gmail.com
(電話番号(職場受付時間:10:00～15:00)) 050-5242-5019

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) https://www.instagram.com/maoi_tokudome/



基本情報



【年 齢】
47歳
【出身地】
東京都板橋区
【転出元】
北海道札幌市
【前 職】
IT業
【活動時期】
R5.10～（2年目）

協力隊に応募したきっかけ

私は、製造業とWeb制作の経験を活かし、北海道南富良野町の豊かな資源をデジタル発信で支援し、地方創生に貢献したいという思いから、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

南富良野町のデジタル発信と活性化に貢献し、地域の魅力を広めることを目指しています。

任期後は、この経験を生かし『ビジョンマップ』を作成して次世代の協力隊員を支援し、生成AIを活用したデジタルサポートで地域企業をサポートする事業を展開していきたいです。

活動内容

●SNSなどの情報発信

南富良野町の魅力を広く伝えるため、SNSを活用して季節のイベントや地域の情報を発信しています。また、南富良野町の協力隊メンバーを紹介する特設サイトも制作し公開中です。これにより、地域の方々や協力隊の活動をより身近に感じていただけるよう努めています。



南富良野町
地域おこし協力隊

●スマホ教室

地域の方々がスマートフォンをより便利に使えるよう、スマホ教室を開催し、基本操作からSNS活用、セキュリティ対策まで幅広くサポートしています。また、スマホ教室専用の特設サイトも開設し、スマホの使い方や安心して活用するための情報を提供しています。



●生成AI講座

地域の方々や事業者向けに生成AI講座を開催し、AIの基本知識から具体的な活用方法までを分かりやすく解説しています。業務効率化やコンテンツ制作に役立つ知識を提供し、AI技術を活用した新たな可能性を地域で広げていくことを目指しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（個人））nanpu.nakayan.digital@gmail.com
（電話番号（個人））090-2810-9899

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（Instagram）https://www.instagram.com/nanpu_nakaya/
（ブログ）<https://note.com/digisapo/>

基本情報



【年 齢】
45歳
【出身地】
北海道標津町
【転出元】
東京都八王子市
【前 職】
社内ITシステム管理
【活動時期】
R5.12～

協力隊に応募したきっかけ

これまでのキャリアで積み重ねてきたスキルや専門知識を、新たなプロジェクトやチームで活かす機会であると考え、また、地元に近い企業での活動は地域社会への貢献を果たす素晴らしい機会と捉え、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域の若い世代の成長を支援することによって、地域社会への貢献へつながればと思います。

また、地域の未来を担う若者たちとともに、持続可能な活気ある会社にしていきたいです。

活動内容

●株式会社k-Hackが受注する案件のディレクション業務

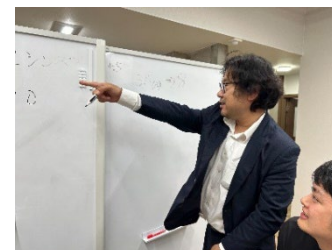
地域のスタートアップ人材を育成するために釧路市が市内経済団体、金融機関との共同出資により立ち上げた株式会社k-Hackと連携し、同社が受注する大手企業向けのWebサイト、業務システム等の開発業務の進行管理及び人材育成を担っています。

各メンバーのスキル状況を把握し、最適な開発環境を整え、首都圏をはじめとした企業からの受注案件による実務経験を通して若手人材の成長を促進しています。

これまでの1年間で、若手メンバーの成長を見守りながら、彼らが新たな挑戦に向かう姿を見てきました。彼らの成長は、チーム全体の活力となり、次の世代を育てる重要な役割を果たしています。

今後も、若手メンバーが自分のスキルを最大限に発揮できる環境を提供し、自信を持って次のステップに進めるよう、引き続き支援を続けていきます。

これからも、k-Hackが釧路市のスタートアップ人材の成長と挑戦の場であり続けるよう、全力を尽くしていきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

釧路市産業振興部産業労政課

(メールアドレス) sho-shougyourousei@city.kushiro.lg.jp

(電話番号(個人)) 0154-31-4548

基本情報



【年 齢】
58歳
【出身地】
岩手県久慈市
【転出元】
宮崎県宮崎市
【前 職】
貼箱デザイン・印刷会社
【活動時期】
R2.6～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

出身は岩手県久慈市です。東日本大震災が起こり、九州の宮崎市へ一人で移住しました。移住の理由は他にもありましたが「雪の降らない所」を探した結果、宮崎に決めました。宮崎市では清掃会社に勤務したりお菓子箱のデザイン、チラシや新聞広告の作成等をしていましたが、コロナの感染状況がひどくなり、仕事にも影響が出始めた頃に以前お世話になった方から協力隊の事を知り応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

この一年でコロナは5類に移行し、活動範囲も今までよりも広がっているように感じます。ドローンの活動もイベントや風景撮影だけでなく、全国的に増えている「ナラ枯れ」という病気樹木の状況撮影、新しく完成した鳥居や施設の空撮等、まさにドローンにピッタリな依頼もありました。任期後の目標は「IT講師になろう」ですが、まだ講義が1月から始まったばかりで、本当になれるのかわかりませんが、プログラミングの勉強を続けていきます。

活動内容

●ふるさと納税の画像作成やイベントのチラシ作成

もともと印刷関係の仕事をしていたので、画像編集やDTP(組版)など文字原稿やイメージを伺って実際のデータを作成する作業は好きな仕事でもあります。実際に色々な部署から依頼が来れば大変やりがいが出ますし、自分の経験が普代村の役に立つことは嬉しいことです。



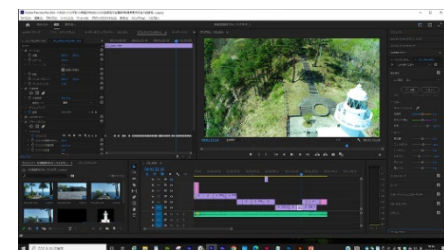
●ドローンによる普代村の空撮(ナラ枯れ)

ドローンの撮影は楽しくもあり、ハイリスクでもあります。今まで海から灯台を撮影したり、桜の真上から撮影など、ドローンの可能性はこれからも広がっていくと思います。また、全国で広がっている「ナラ枯れ」の現状把握は地理的な状況(山や崖など)ではドローンに任せるのが一番です。



●映像編集

ドローンの撮影データを動画にまとめるために、動画編集ソフトを利用していますが、やってみると楽しくもあり、難しくもあります。時間管理(何分にするか)や動画クリップを組み合わせ、見る人にいかにわかりやすく伝える、訴求力の勉強にもなります。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) nakano-h@vill.fudai.iwate.jp

(電話番号) 0194-35-2114(役場政策推進室)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

<https://www.facebook.com/fudai.iwate/> (左QR)

<https://twitter.com/fudaifan> (右QR)



基本情報



【年 齢】
28歳
【出身地】
長野県飯田市
【転出元】
長野県飯田市
【前 職】
システムエンジニア
【活動時期】
R6.4～

協力隊に応募したきっかけ

システムエンジニアや塾講師の経験から、自分にマッチする職業を探していて、遊佐町の協力隊に行きついた。デジタル人材育成マネージャーとして、子供たちと関わりながらプログラミングのスキルも活かせる。
同時に、海に近い場所で生活できて良いなと思ったのがきっかけ。

今後の抱負・任期後の目標

遊佐町の子供たちにとって、
・デジタル技術と触れ合い、ICTに慣れる場
・技術と本気で向き合い、成長を目指す場
この二つが不足していると考えている。
子供たちの「やりたい!」という思いには目を見張るものがある。この思いを、「田舎だから仕方ない」と無駄にしないでいいような、ICT教育の拠点づくりや、デジタル教育への協力関係づくりが私の仕事と考えている。

活動内容

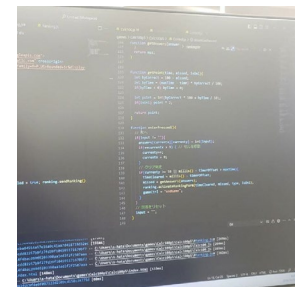
●子供向けデジタル学習企画立案・運営

1, 入門的にデジタルに触れて楽しむ企画
2, 先進的に本気でデジタル技術に向き合う企画
この2本を柱にして、ICT学習に取り組める企画を立案・運営している。例として、“micro:bitでロボットカーの操縦に挑戦する”、“音楽作成ソフトを使って合奏に挑戦する”など。
夢中になっている子供たちの目の輝きを見ることを目標として、日々準備を行っている。



●エンジニアリング的活動

遊佐町の協力隊HP“来ちゃいなよ遊佐町”の運営・保守作業や、他隊員の業務効率化を目指したDX活動など、遊佐町協力隊にかかわるエンジニアリング的な活動を実施している。今後教育分野にも幅を広げ、教育関係のDXやソフトウェア開発などを行いたいと考えている。



●スマホ道場運営

前任隊員が企画・運営している「スマホ道場」(高齢者と1対1でスマホの相談に応じる企画)の運営を協力して行っている。週2回程度、町内各所で実施している。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) s-hata@yuzamachi.com
(電話番号(遊佐町役場総務課 ICT推進室)) 0234-72-5893

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(遊佐町協力隊HP) 来ちゃいなよ ゆざまち <http://yuzamachi.com>

基本情報



【年 齢】
34歳
【出身地】
宮城県岩沼市
【転出元】
宮城県仙台市
【前 職】
携帯ショップスタッフ
【活動時期】
R4.4～

協力隊に応募したきっかけ

首都圏で仕事をしていたが、結婚・子育てを機に宮城県に帰省。仕事に悩んでいたところ、妻の地元である中山町で地域おこし協力隊を募集しているという話を聞く。業務内容が過去の経験を活かせ、かつ子育てについても、両親が近くにいるという安心感もあり、応募した。

今後の抱負・任期後の目標

R7.3に任期が終了するため、4月から変わらず生活ができるように仕事の準備。
任期後については、WEB制作やデザインを仕事にすることが目標。また、現在行っているスマホ教室のような、地域のデジタルディバイドを少しでも解消できるような活動をしたいと思っている。

活動内容

●スマホ教室・スマホよろず相談所

【スマホ教室】基本操作ではなく、よく使われるアプリなどをテーマに説明と操作方法を行っている。

月に1回開催。予約制。最大15名。配布資料あり。

【スマホよろず相談所】スマホに関しての個別相談。

故障相談やキャッシュレス、明細の電子化など、多岐にわたる。

原則月・水・金の10:00～16:30。予約不要。



●制作(イラスト・チラシ・WEBサイトなど。)

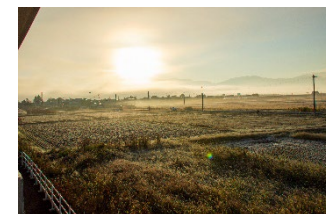
所属している課以外からの業務依頼。

イベントチラシやWEBサイト、広報掲載の手話イラスト、パンフレットなどの制作を行っている。



●情報発信

インスタグラムを利用して、中山町の情報発信を行っている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人or職場)) kt.kc1221@gmail.com

(電話番号(個人or職場)) 080-6030-5754

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(インスタグラム) QRコードも可



基本情報



【年 齢】
26歳
【出身地】
大阪府八尾市
【転出元】
埼玉県さいたま市
【前 職】
組み込み系SE
(株式会社ワコム)
【活動時期】
R5.10～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

SEに就くものの、高度すぎる専門職に将来性を感じず退職しました。

その後、世界を旅するうちに「都心に住む人を対象にDIYを通じて『自立共生』を学べるコミュニティ」を作りたいと思うようになりました。そのために全国のコミュニティをめぐり、相模原市にある「廃材エコヴィレッジゆるゆる」へ滞在し、相模原市の地域おこし協力隊の存在を知って応募しました。

現在は相模原市の中山間地域を対象に活動しています。

今後の抱負・任期後の目標

1. DIYを通して中山間地域でのビジネスやライフスタイルの支援をしたいと思っています。例えばDIYでキッチンカーを作る、穴の空いた服をダーニングで治す、電子工作でIoT機器を作る等。シェア工房やワークショップを通して実現したいです。
2. 空き家活用プロジェクトとして誰でもできるような遺品整理や小規模リフォームなどを行い、空き家の活用を促していきます。
3. 出張たこ焼き屋を通して世界に相模原市の魅力を発信し、関係人口を創出するきっかけになればと考えています。
4. 1～3とうまく連携させた地域密着型のゲストハウスを作りたいです。特に都心から来る人をターゲットにしたいです。

活動内容

●「デジタル機器なんでも相談会」

「デジタル機器なんでも相談会」は、地域あるいは地域住民へのデジタル化支援を通じたデジタルデバイドの解消を目指している。相談者の個別のお悩みきめ細やかに対応することにより、相談者の評価も高く、2024年1月より10ヶ月間の相談実績はのべ250名以上となっている。



●地域産食材を使ったたこ焼き出店

銀だこ焼き修行5年の経験を生かし、相模原市の藤野地区の特産品であるゆずを使ったたこ焼きを開発。野外イベントで定期的に試食販売をして相模原市の魅力を発信している。ゆずだけでなく、地域産の小麦粉やネギなども使用している。

またキッチンカーなどの野外出店にまつわる保健所や各イベントでの売り上げデータのまとめを行うなど、ビジネス面での支援も行っている。



●電子工作の支援

バリアフリープロジェクトとして、藤野地区在住の高校生がコミュニケーションロボットの開発に取り組んでおり、組み込みシステム開発に協働で取り組んだ。

また夏休みの子供企画として「電子工作クラブ」の先生を実施。参加者はテーマ別にプログラミングを用いた工作物を作り上げた。子供のころからテクノロジーの楽しさに触れることでビジネスや起業の可能性を広げていきたい。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

- ・メールアドレス（個人）ryoma@morilab-fujino.jp
- ・電話番号（個人）080-4778-2883 / 電話番号（共用）080-3428-9790

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

- ・Instagram : https://www.instagram.com/ryoma_nakajima
- ・森のイノベーションラボFUJINO（活動拠点） : <https://morilab-fujino.jp/>

基本情報



【年 齢】
35歳
【出身地】
大阪府堺市
【転出元】
兵庫県西宮市
【前 職】
会社員
【活動時期】
R4.5～R7.4

協力隊に応募したきっかけ

都市部での子育てに疑問があり、地方で周囲の方の力も借りながら「みんなで子育てできる環境が欲しい」と考えていた時に、コウノトリの野生復帰など自然と人の共生を実践してきた豊岡に興味を持ちました。この目でその自然を見てみようと思いたち、冬の豊岡を訪れました。現在住んでいる竹野地区の荒れ狂う冬の日本海を目の当たりにし、「自然の厳しさ」を肌で体験できる環境は、きっと子育てにも好影響があるだろうと強く惹かれました。

伝統工芸など地域文化にも興味がありましたが、デジタルで地域課題の解決を目指す豊岡スマートコミュニティ推進機構（TSC）の取組みを運良く紹介頂き、これまで磨いてきたスキルを活かす方向で応募することができました。

今後の抱負・任期後の目標

元々持っているデジタルスキルと、プロジェクトを進めるうえで培ったマネジメントスキルをいかし、市民が地域課題の解決にデータやデジタルツールを活用するための支援や、自治体のDXに関わる仕事をしたいです。また豊岡など地方で子育てする人たちの支援にも興味があり、自分の移住・子育て経験を活かした取組みを計画中です。

活動内容

●デジタルを活用した交通安全教室

私が活動している豊岡スマートコミュニティ推進機構（※1）では、交通事故のない社会を実現するため、市内の小学校や地域コミュニティ組織と連携しデジタル技術を活用した交通安全教室を実施しています。

※1 豊岡市と但馬信用金庫が共同運営する団体。
代表理事は豊岡市長。



小学生や高齢者が自らのヒヤリハット経験をデジタルマップ上に入力し、対策を話し合うワークショップを市内の小学校や地域コミュニティと連携し実施しています。

参加者数×2～3個の情報が入ったヒヤリハットマップを作成し、急ブレーキ発生箇所や平均走行速度など自動車の走行データや、過去の交通事故発生箇所のオープンデータを重ね合わせ地域の危険箇所を把握します。



2024年度にはイーデザイン損害保険株式会社（取締役社長 桑原 茂雄）の「共創する自動車保険 &e（アンディー）」の寄付活動「+まち（ぷらまち）※2」に応募し、採択されました。

※2「事故のない世界そのものを、お客さまと共創する。」をミッションに掲げ、地方自治体から募集した「安全な交通環境・社会の実現」につながる企画に寄付をする取組み。24年度の応募数：6 採択数：2（豊岡市、滋賀県日野町）

【参考URL】

<https://www.edesign.net/ande/safeworld/puramachi/>



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

豊岡市DX・行財政改革推進課 代表：0796-21-9146

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

TSC HP <https://www.toyooka-smart-community.org/>

X https://twitter.com/TSC_toyooka Toyooka iDO <https://toyooka.adalo.com/ido>

基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
岡山県岡山市
【転出元】
岡山県岡山市
【前 職】
システムエンジニア
【活動時期】
R5.4～R8.3(予定)

協力隊に応募したきっかけ

新卒で勤めていたシステム会社を辞め、今後のキャリアに悩んでいた際に、知り合いの紹介で『おためし協力隊』として久米南町を訪れたことがきっかけです。町の方と交流し『よく来たな！』とヨソモノの私を温かく迎え入れてくださり、農村部でゆったりと暮らすことも楽しい！と感じました。そして、この地域で役立つ人間になりたい・色んな経験を積みみたいと思い、協力隊に応募しました。町内で前例がない分野&自身の人生経験も少なく不安もありましたが、全ての仕事が未開拓で自ら挑戦できることが魅力的です。久米南町を選択したことは偶然ですが、色んな方とのご縁と、協力隊期間の経験を大切に、今後も久米南町で暮らしていきたいと思っています。

今後の抱負・任期後の目標

中山間地域と都市部を比較すると、大きなデジタルデバイド(情報格差)があります。町民の方のニーズを実現したり、悩み事を解決する中で、デジタルテクノロジーに触れるきっかけを作り、幅広い世代の役に立つことが目標です。また、中山間地域での暮らしを最大限楽しむため、半農半Xの暮らしに挑戦しています。ITと農業(稲作)の充実した暮らしを確立し、テレワーカーやフリーランスといった外部人材を誘致するためのモデルになりたいです。デジタル分野では、中山間地域は後進エリアですが、『人や生き方』にスポットを当てた時、新たな働き方と価値観が見つかる先進エリアへ。その第一人者になれるように、地域おこし協力隊として活動をしていきます！

活動内容

●常駐デジタル相談室

昨年の6月からスマホ・パソコンを中心とした『常駐デジタル相談室』を町内で週2回開催しています。延べ300件以上の相談件数の実績になりました。予約不要・無料の相談スタイルで、身近に・気軽に足を運んでいただき、多くの方にご好評いただいております。場合によっては出張訪問にもお伺いし、お悩みやトラブルの解決に幅広く対応しております。相談室での会話から、交流が深まったり、協力隊の活動に発展したりなど、町民の方々との意見交換の場にもなっています。



●小・中学校のデジタル活用プロジェクト

町内の小・中学校の『地域学習』でのプロジェクトにも関わっています。今年は中学生とデジタルスタンプラリーの実施を行い、町内外の人に楽しんでいただけるデジタルツールの発掘につながりました。小学校ではデザインソフトを用いてリアルタイム編集を行い、活発に意見交換をしながら、観光用の顔出しパネルを制作しました。子どもたちにとって、デジタルツールの便利さと、ワクワクさを伝える活動を目標にし、今後の授業にも関わっていききたいと考えています。



←小学校での授業の様子

顔出しパネルお披露目会→

●地域住民とのデジタルツールの活用

町内の方との交流の中で、デジタルツールの活用をしています。ドローンでの空撮やQRコードと連携した散策マップの制作など、デジタルの利便性と面白さを感じていただきました。また、商工会とも協力体制を作り、事業者様向けにデジタル活用支援を始めていくところです。デジタルツールを使用することで、地域の新たな魅力の発見につながる可能性を感じることができました。今後もニーズを探り、地域の方と一緒にデジタルツールの活用に取り組んでいきたいと考えています。



←ドローンでの空撮

アクセスマップの作成→

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人)) kumenan.ikeuchi@gmail.com
(電話番号(個人)) 080-2931-8622

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

基本情報



【年 齢】
30歳
【出身地】
岡山県岡山市
【転出元】
岡山県玉野市
【前 職】
介護職員
【活動時期】
R4.9～R7.8

協力隊に応募したきっかけ

私は以前から「緑豊かな土地で家を建てたい」という夢があり、工務店の方と一緒に土地を探して歩いた結果、高梁市に辿り着きました。そして高梁市の高齢化率が高いことを知り、介護現場のために何か力になりたいと思いました。もともと介護職で介護DXに関心があり、介護の現場をもっと働きやすいものになりたいという想いも強くあったので、自分の中のミッションと地域の課題がリンクした瞬間だと感じました。介護DXを通してより良い未来を作るためには、官民が一体となって進めていくことが必要です。私は、そうした官民の橋渡し役になりたいと思い、協力隊に応募することを決めました。

今後の抱負・任期後の目標

現在行っている介護DX推進活動をさらに進めたいと考えています。具体的には、高梁市で行政と一緒に実践してきた取り組みを他の自治体でも実施できるよう、展開していきたいと考えています。高梁市の介護業界が直面する人材不足や職員の高齢化などの課題を変革のチャンスと捉え、課題解決を通じて、中山間地域のモデルとなるように取り組んでいきます。そして、そのモデルが協力隊という形で全国へ普及すれば、高梁市と近い課題を持つ自治体の介護現場の課題解決の糸口になると思います。協力隊制度による全国展開は、日本が抱える課題に対し、大きな可能性を秘めていると思います。これからも高梁市との縁を大切に、未来のために、自分が今できることを全力で取り組んでいきます。

活動内容

●高梁市内の介護事業所への個別のICT支援

介護記録ソフトの運用やLIFEの設定方法、PCの基本的な操作など介護事業所へ直接訪問し、問題解決を行います。自分の知識だけでは解決できない場合はベンダーへ問い合わせを行い、解決まで関わります。



●行政との政策立案

自治体で取り組む介護現場の生産性向上・業務効率化に向けた政策の立案を行政とともに検討します。他市の事例や先進的な取り組みを行っている自治体の情報などを助言させていただき、高梁市ではどのように取り組むことができるかを検討します。



●行政・介護事業所同士のネットワーク構築

高梁市内の介護事業所の連携強化と介護分野における地域一体型組織構築の為、6ヶ月に1回「高梁市介護事業者情報交換会」を実施。介護現場の課題を地域の課題として捉え、行政と共有することで市として本当に必要なことを検討します。現在はチャットツールでも繋がっており、各事業所の業務効率化の取り組みや加算取得の取り組みなどフレキシブルに意見交換を行っています。



●自己研鑽

介護事業所へのサポート実施に欠かせない自己研鑽はNPO法人タダカヨが行う無料PCスクールを受講。現在は理事を務める。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】個人

メールアドレス：kazunyan.ak@gmail.com 電話番号：080-1928-1266

【活動の様子を発信しているSNS】

(Facebook)

<https://www.facebook.com/kazuya.miyazaki.dx>



基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
熊本県熊本市
【転出元】
熊本県熊本市
【前 職】
Webマーケター
【活動時期】
R5.7～

協力隊に応募したきっかけ

知人からの紹介で宇城市のeスポーツ×デジタル拠点施設『うきのぼ』を訪れたことがきっかけです。元々eスポーツの選手として活動しており、その知識や経験を生かした仕事をしたいという想いがありました。選手としての経験を基にあらゆる世代の方にeスポーツの魅力や可能性を伝えたいと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

現在は地域おこし協力隊とプロeスポーツ選手の二刀流で活動しています。熊本県を拠点に活動するプロeスポーツチーム「Saishunkan Sol 熊本」に加入し、協力隊としても更に活動の幅を広げていきたいと考えています。地域の小中学校をまわっての講話・eスポーツ体験も規模を広げて行きたいです。地域の人に応援していただけるプロeスポーツ選手を目指します。

活動内容

●eスポーツ×デジタル拠点「うきのぼ」施設運営

2023年1月にオープンした熊本県内初のeスポーツ×デジタルの拠点「うきのぼ」
2024年9月までにイベントを195回開催し、約20,000人が来場しました。
子供から高齢者まで幅広い世代に利用していただいています。



●高齢者対象の「スマホ教室・スマホ相談」

宇城市の高齢者を対象にした「スマホ教室・スマホ相談会」を開催しています。毎月通ってくれている方は、今ではスマホを使いこなせるようになりました。お菓子やコーヒーを差し入れていただくこともあり、高齢者の方との交流も楽しい時間です。



●地域の子供達対象のeスポーツ体験会

地域の小中学校をまわり職業講話、eスポーツ体験会を開催しています。ゲームをキッカケにコミュニケーション能力や集中力をつけてほしいという狙いがあります。将来の職業選択など子供達の未来に貢献できれば嬉しいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
メールアドレス（職場）uki.espo@gmail.com
電話番号（職場）090-7780-6366

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（うきのぼHP）<https://www.ukinoba.com/>

個人X(旧Twitter)



基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
神奈川県海老名市
【転出元】
神奈川県相模原市
【前 職】
PC修理
【活動時期】
R5.11～R8.10

協力隊に応募したきっかけ

以前から地方移住には興味があり、全国様々な自治体を調べたり実際に足を運んだりしていました。中でも熊本県は移住者に対する熱意が高いと感じていて、注目度の高いエリアでした。

更にはゲーム好きが高じて独学でCGを学んでいたため、「地方でCGにまつわるお仕事ができないだろうか」と考えていたところ、天草でCGにまつわる協力隊の募集があることを知り、すぐさま応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

「天草のクリエイター人口100人突破」が目標です。天草には若者人気の高いゲーム・アニメ産業が必要とされています。まとまった数のクリエイターがいれば作品作りが活発化して、天草が「デジタルアートの島」として全国から注目され、産業の創出に繋がるためです。

そこに向けて市内のクリエイター人材育成や市外のクリエイター誘致活動に取り組むことで、天草のクリエイター人口増加を目指して活動しています。

活動内容

●クリエイター人材の育成

天草市内の中学校でCGの作り方を実際に体験してもらう授業を実施しています。

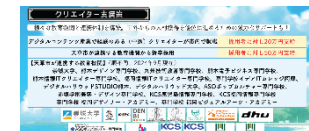
身近にあるゲーム・アニメで使われているCGを自分でも作れることを知ってもらい、クリエイターを志すキッカケとなるようにしています。



●九州圏内の教育機関と連携体制を構築

九州各所の各教育機関を訪問し、連携体制を構築する業務を実施しています。

連携教育機関が増加することでクリエイターが天草へUターンする可能性を上げる狙いがあり、およそ2か月で20校を訪問し、9校と連携しました。



●その他、SNS運用や企業誘致事業など

デジタルアート天草のSNS運用（主にinstagram）、企業誘致事業の補助、一般向け人材育成講座の準備及び当日運営、就職説明会への出展などなど、多岐にわたる業務があります。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））nakamura_r@digital-art-amakusa.or.jp
（電話番号（職場））0969-24-8882

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（instagram）https://www.instagram.com/digital_art_amakusa/



DIGITAL_ART_AMAKUSA

基本情報



【年 齢】
62歳
【出身地】
山口県下関市
【転出元】
熊本県熊本市北区
【前 職】
SE
【活動時期】
R6.3～ R6.9
(3年度目)

協力隊に応募したきっかけ

前職の仕事で当村を訪れるたび、球磨川、市房山などの自然と村民の優しさにふれ、定住を意識するようになり協力隊での活動を希望した。

協力隊での活動を通じ、村の文化、歴史、地理を理解すること、協力してイベントなどを実施することで、村民との信頼関係の構築に役立つと感じたから。

今後の抱負・任期後の目標

特産品等をオンラインショップやふるさと納税と関連付け拡販を行っていく際に、村内の生産者や高齢者と交流を深める中で自分の存在を認識していただくことができた。

任期後も水上村での居住を前提に、何らかの形で事業を起こすか、村近郊の地域を含め仕事を探していきたい。

活動内容

●宿泊助成クーポン発行・管理業務アプリの作成

昨年度に作成した宿泊助成クーポン発行・管理業務アプリの本年度対応としての修正を行い、新たに宿泊種類（観光、合宿、イベント）による集計を行うことで、水上村でのスポーツイベントや合宿誘致の参考となる資料を作成。



●ECサイト、ふるさと納税による特産品の拡販支援

昨年度から水上村のECサイトの更新およびふるさと納税返礼品の商品登録を行って来たが、本年度から出荷元の物産館従業員に対し、データ等の更新を行えるようにオン・ジョブ・トレーニングによる指導中。



●サテライトオフィス施設管理およびワーケーション利用推進

村で管理するサテライトオフィスに常駐し、施設の維持管理を行う。また、村内2か所のサテライトオフィスの有効活用を推進するため、利用形態や利用者への情報発信の方法、村内事業者との協力依頼の方法などを調査中。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) mitoda@vill.mizukami.lg.jp

(電話番号) 0966-44-0312 (水上村 地方創生推進課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

基本情報



【年 齢】
44歳
【出身地】
神奈川県川崎市
【転出元】
京都府京都市
【前 職】
美術ライター／編集者
【活動時期】
R6.4～R9.3

協力隊に応募したきっかけ

大分市文化財課の「デジタルアーカイブの運用・利活用」という変わった募集が、自分が持っている興味・技術・経験と重なる部分が多かったからです。

また、コロナ禍になって以降、京都・東京の他に別府にも活動拠点を持つようになったのも大きいです。芸術文化に関わる仕事をしていると、抽象的で大きなフレームで人や物やことを理解しがちですが、そのなかには個人の営みや小さな文化・風土の積み重ねがあり、そういった事象と具体的に接する機会が欲しいと思っていました。

今後の抱負・任期後の目標

「大分市デジタルアーカイブ～おおいたの記憶～」は遠い過去の歴史だけでなく、現在進行形の歴史にも目を向け、収集するという主旨で運用しています。その意味でも、できるだけ多様な人たち（国籍、性別、趣味など）を取材し、個人の集積としての「おおいたの記憶」をつくっていきたいです。

また、いつか九州を拠点とするアート＆カルチャーメディアを立ち上げたいと思っています。こういった情報発信が東京などの都市部に偏っており、その土地に住む人たちが自分自身について表現するための「声」をしばしば持たないことを疑問に思ってきました。当事者の主体性と客観性の双方をあわせもつメディアをつくっていききたいです。

活動内容

●「大分市デジタルアーカイブ～おおいたの記憶～」の運用・宣伝

2024年6月より、公式Instagramの運用を開始。週3回ほどの更新で、歴史に関するトリビアやイベントレポート、大分市にお住まいの方のインタビューなどを制作・発信しています。



●デジタルアーカイブを用いたイベントの企画・運営

公式インスタの運用開始にあわせて、ノベルティのオリジナルステッカーを2000枚制作し、大分市内各所で配布しています。名刺よりもキャッチーで、取材や仕事で自己紹介するときお渡しすると喜ばれるのも嬉しいです。

また、10月末には文化財課主催の「第23回大友氏遺跡フェスタ」でデジタルアーカイブにからめたトークイベントを行いました。



●オープンデータ化された文化資源情報の利活用の促進

市有形文化財の《御城下絵図》をTシャツやサコッシュのデザインに使っていただいたことがありました。このほかにも、新築マンションのロビー部分での歴史展示コーナー制作・設置についての問い合わせもあったり、想像以上にさまざまな用途に用いられています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
taisuke_shima@hotmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
「おおいたの記憶」公式Instagramはこちらです→



基本情報



【年 齢】
37歳
【出身地】
鹿児島県鹿児島市
【転出元】
福岡県福岡市
【前 職】
web制作
【活動時期】
R5.1～

協力隊に応募したきっかけ

高校卒業後福岡の都心部で働く中で、今後の人生設計を考えた時に都心部から離れた自然を感じられる土地で暮らしたいと考えたのが最初のきっかけです。
また、地方にはチャンスが多く眠っていると感じており、今までの仕事で培ってきたスキルを活かし地域活性化に携わりたいと思い協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域おこし協力隊として、まずは自分の写真、映像、デザインといったスキルをさらに磨き、それを軸に地域の魅力を伝える活動に取り組んでいきます。西都市の自然や歴史、文化を新たな視点で切り取り、より多くの人にこの地の素晴らしさを伝えたいと思っています。任期終了後にはフォトグラファーとして開業し、地域に根ざした活動を通じて西都市の発展に貢献していくことを目標にしています。

活動内容

●フォトグラファー活動

専門学校と前職のウェディング業界での仕事のスキルを活かしてフォトグラファー活動を行っています。店舗のPR写真、イベント撮影、個人撮影を行っています。今後も自分のスキルを伸ばしながら仕事の幅を広げていきたいと考えています。



●Instagram運用

移住者目線で西都市の魅力を発信するInstagramアカウント、フォトグラファーの活動アカウント、協力隊の仲間の個人アカウント（サウナ店舗PR）を運用しています。Instagramを通じて海外の方へ西都市の魅力を発信しています。



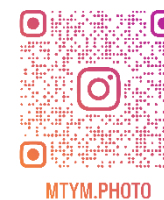
●ビデオグラファー活動

フォトグラファーとして写真をメインで活動していましたが、着任2年目から映像制作の活動も行っています。店舗や地域のイベントの撮影を行い、西都市を映像でPRしています。

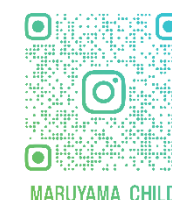


連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://www.instagram.com/mtym.film/>
https://www.instagram.com/maruyama_child/



MTYM.PHOTO



MARUYAMA_CHILD

基本情報



【年 齢】
27歳
【出身地】
宮崎県宮崎市
【転出元】
東京都八王子市
【前 職】
理学療法士
【活動時期】
R5.9～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

就職を機に上京し、4年間東京に住んでいました。一度地元を離れたことにより、今まで気づくことの出来なかった宮崎市の魅力に気づくことができました。地元、宮崎市の地域活性化の為に、何かしたいと考えていたところ、地域おこし協力隊を知りました。年配者とコミュニケーションを取ることに慣れており、SNSを日常で積極的に使用している為、これまでの経験が生かせるのではないかと思います。応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

自治会活動における、自治会便の回覧や自治会員への連絡は役員の負担となっています。この負担を軽減し、自治会運営を効率的に進めるためにデジタル化が効果的です。デジタル化を導入することで自治会業務の効率化が図られ、役員の負担も軽減されます。私の仕事は、それぞれの自治会運営の状況に合わせてデジタル化の支援を行い、持続的な自治会運営につなげることです。

活動内容

●大炊田自治会（佐土原町）LINE方法操作説明会
令和6年6月11日 大炊田自治会（佐土原町）11名にSoftbank株式会社と連携し、アプリ「LINE」を使って、自治会運営だけでなく、日常生活でも活用できるトークグループの作成方法や、投票機能の使い方について一緒に操作しながら説明を行った。



●花の森自治会 公式LINEの活用方法
令和6年4月21日 自治会運営に自治会の公式LINEを導入するため、公式LINEについて説明会を行った。35班381世帯に回覧している自治会便を公式LINEを用いて、紙媒体ではなくオンラインで完結させて、自治会長及び自治会役員の負担軽減を図る事が目的。非常に熱心に聴かれており、30名以上が参加された。



●大宮地区自治会連合会 自治会運営のデジタル化
令和6年9月19日 自治会運営における収支予算書及び決算書作成のため、エクセルの関数の活用方法について一緒にPCを操作しながら説明を行った。
令和6年9月26日 自治会全体の連絡手段のため「LINE」のオープンチャットや「BAND」の紹介。集計や日程調整のためGoogleフォームの作成方法等を一緒にPCを操作しながら説明を行った。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）01suisin@city.miyazaki.miyazaki.jp

（電話番号）0985-21-1714

11 教育·文化

基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
北海道 豊浦町
【転出元】
北海道 札幌市
【前 職】
ヨガインストラクター
人材育成
【活動時期】
R5.4～（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

ずっとヨガスタジオで働いていましたが、3年前に独立を決意。関西の店舗から、札幌に転勤したことをきっかけに、「海が見える場所で仕事がしたい。」と地元豊浦町が頭に浮かびました。サップヨガ講師として豊浦町に来た際に、この地域おこし協力隊の制度を知り、「地域の繋がりづくり」という所に共感し応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期3年目。地域ヨガクリエイターとして、地域と繋がる場所づくりや、女性が安心して性や子育ての情報交換ができるコミュニティづくり。形になっているものが増えてきました。今後は「地元の人に還元できる仕事とやりたいを叶えるの両立」を軸に、豊浦で通信事業の立ち上げをしつつ、移住・起業のサポートとして関わられたらと思います。

活動内容

●学校や職場でヨガの提供

ヨガをすることでの身体能力の向上や、ストレス緩和、学びの向上、コミュニケーションスキルの向上など、学校や職場、企業団体で出来る健康と心身の余白づくりを手助けしています。クラブ活動や朝5分ヨガなど、1日の健康ルーチンを提供しています。



●一フェムケアー公民館講座

性についてあたりまえに学べる場を作りたい。恋愛・結婚・妊娠・出産・子育て・仕事。生きる中で立場や身体の変化が当たり前にあるのが女性の力。しかし性について知ることがタブーとされていた背景もあるからこそ、ウエルネスの観点で当たり前前に気軽に学び、共感できる時間を作っています。



●SUPやラジオで地域の魅力を発信！

幅広い層に親しみを持ってもらいたい、今ある町の魅力をもっと知ってほしい！という思いで、海が見える町豊浦町でサップ体験会を実施したり、ビーチヨガを実施したりしています。町の魅力を深堀！というコンセプトでFMラジオやInstagramも更新中。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) totoyoura.miumi@gmail.com
(電話番号) 0142-83-2239 (豊浦町教育委員会 生涯学習課 社会教育係)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

みうみ と とようら
https://instagram.com/miumi_to_toyoura



@MIUMI_TO_TOYOURA

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
宮城県仙台市
【転出元】
宮城県仙台市
【前 職】
保育教諭
【活動時期】
R6.5～R8.5(予)

協力隊に応募したきっかけ

「子どもが大人になることに希望がもてるまちづくりへ」
保育教諭として子どもの主体性を大切にしながら勤務してきました。卒園児を小学校へ送り出す中で、【小1の壁】にぶつかる子どもを何人も見てきました。子ども達が下を向く姿を見ているうちに、いつしか他人事ではなく、一施設に留まらず地域全体で子どもたちと関わる仕事をするのができないかと考えるようになりました。

しかし、それを実現するためにはどの職に就くべきか、あるいは仕事を0から創るべきか、当時は判断が付きませんでした。そこで、協力隊制度を活用することを選択しました。

今後の抱負・任期後の目標

社会の変化に伴い、日本の教育現場も、従来の画一的な教育から個別最適化への転換期を迎えています。さらに、教育、子育ての課題は増えていく一方です。この状況を改善するためには、一施設(家庭)だけでなく、地域住民や異業種層の協力、さらには異年齢交流が必要であると捉えています。そのためには、架け橋となるコーディネーターという存在が重要であると考えています。

任期後、コーディネーター事業(活動、人材育成)と、子どもの居場所事業を軸とした【教育サポート×まちづくり会社】の法人設立を目標としています。行政・教育現場・町民のハブとなり、教育・子育て環境の支援や充実に貢献していきます。

活動内容

●教育×まちづくり会社の設立に向けて

①美里スクールデザインプロジェクト構築へ

「Learning Link Lab」～学びのつながりを∞に～

→R6年10月から町内の小学校も活動拠点と認められ、

職員室に席も設置されました。現在は【斜めの存在】として児童、教員と関係性を構築中。校内にコーディネーターが常駐することで、公教育の質の向上、教員のサポート、さらには、子どもにとって安心できる人・場の増加など、相乗効果について模索中です。また、学校独自の地域ボランティア団体の取りまとめ役を受け、学校と地域が共に子どもたちを支えることができる仕組みづくりについても実践中です。

②子どもたちのやってみたいをカタチにするでんえん寺子屋

→R6年2月から、同小学校の児童を対象に登録制の放課後地域活動として、子どもの居場所を週3回約1時間程度、実施中です。現在(R7年6月時点で)229名の児童が登録中

です。預かりではなく、自由に寄り道ができる場、多様な地域住民と交流できる場、心の充電ができる場として、学校と行政の理解と、町民のサポートを得ながら場づくりを行っています。

③その他

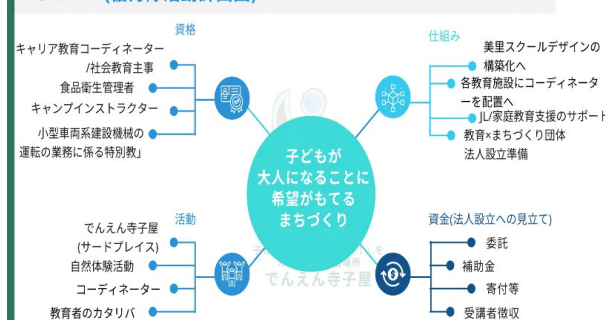
→町内の中高生の総合学習や探究学習のサポート。

→地域のJL/家庭教育支援チームのサポート。

→町内の幼保小の教員同士の交流の場づくりを計画中。



ACTIVITY(協力隊活動計画図)



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人)) jj09.shira@gmail.com

(電話番号(個人)) 080-1842-2546

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram でんえん寺子屋-子どもの「やってみたい」をカタチにする居場所-
@denen_terakoya



基本情報



【年齢】
31歳
【出身地】
神奈川県藤沢市
【転出元】
宮城県気仙沼市
【前 職】
岩手県住田町
教育コーディネーター
【活動時期】
R4.4～ R7.3（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

元々つながりのあった前協力隊に紹介いただきました。祖母の地元が近いことや、昔から長野に縁があったことも決め手となりました。

前職でも近い仕事をしていましたが、学校ではなく地域側から高校生と関われることに魅力を感じています。

今後の抱負・任期後の目標

これからも、高校生がわくわくする瞬間を作っていきたいです。

軽井沢で求められていることと、自分の強みや特性を踏まえて、何が実現できるかを考えていきます。その積み重ねが、任期後のキャリアにつながると考えています。

活動内容

軽井沢町学習センター（公設塾）の運営

軽井沢高校の敷地内にある学習センターで、放課後（16:00～19:00）の学びの場を運営しています。

普段は、学校帰りに立ち寄る高校生に向けて、英国数を中心とした講座や大学受験に向けた対策など様々な取り組みを行っています。



高校生と社会人の接続

高校生にとって、親や教員以外の大人に出会うことは、視野が広がり、選択肢を増やすきっかけになります。

今年度は、高校内に地域連携室ができ、地域連携コーディネーターとしても高校と地域の接続にも携わっています。



軽井沢高校「探究学習」等の伴走

軽井沢高校で行われている「探究学習」について、教員の先生方と打ち合わせをしながら生徒の伴走や地域との接続をサポートしています。

今年度は、インタビューをしに地域へ出る生徒や、自分の興味関心のあるテーマに関して企業へ相談に行く生徒など、様々なアクションが生まれました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

軽井沢町役場 ども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係
（メールアドレス）karuizawa.gakushucenter@gmail.com
（電話番号）0267-31-5195

基本情報



【年 齢】
45歳
【出身地】
京都府京都市
【転出元】
京都府京都市
【前 職】
旅行系媒体のライター
(継続中)
【活動時期】
R6.5～R9.4

協力隊に応募したきっかけ

林業・製材業者や、地方移住者への取材経験から、地域が置かれている課題を感じていました。尾鷲でのローカルコープ構想は、まさにその課題を解決するための取組だと感じ、思い切ってチャレンジしました。

今後の抱負・任期後の目標

まずは、ローカルコープの組織を立ち上げ、尾鷲の皆さまへ活動内容を周知し、応援して頂けるように頑張ります。「自然と共にあり、持続可能で、人がありのまま生きられる場づくり」が最終目標です。それを尾鷲で実現できたら嬉しいです。

活動内容

●ローカルコープ尾鷲の立ち上げ

ローカルコープは、少子高齢化や人口減少が進むなか、22世紀にも尾鷲の街が持続できるよう様々な取り組みを行うための組織です。地域住民が主体的に運営し、自治体の機能を補完することを目指しています。

現在は、市で推進するゼロカーボンシティに則り、森林のJクレジット取得や生物多様性の保全、新しい教育づくりなどに取り組んでいます。

●「みんなの森プロジェクト」の推進

九鬼町にある市有林で、長年の林業施業によって傷んでしまった森に生物多様性を回復させるための整備を行っています。令和6年に行われたワークショップではのべ700人以上の方に参加頂きました。古来から伝わる落葉や枝を使った「しがら」という整備方法で水源を改善し、水生生物や鳥の気配が森に戻ってきています。今後はより市民の皆さんに参加して頂けるよう、体制づくりを進めています。

●新しい林業の模索

広大な尾鷲の森には、市有林だけでなく民間所有の森林もたくさんあります。林業経営が厳しさを増す中で、生物多様性や環境保全に配慮した新しい林業の在り方を、ローカルコープを通じて市民の皆さんと一緒に考えていきたいです。

連絡先

みんなの森プロジェクト

●Facebook

<https://www.facebook.com/commonforestowase/>

●Instagram

minnanomori.owase

基本情報



【年 齢】
26歳
【出身地】
台湾台中市
【転出元】
北海道東川町
【前 職】
旭岳自然保全員
【活動時期】
R5.12～R8.11

協力隊に応募したきっかけ

僕は大学の時に北海道大学の交換留学のために日本語を学び始めました。その際に、東川町立の日本語学校について知り1年間通いました。そのような形で、日本に興味を持ち、日本で自分の力を発揮できる場所はないかと探している際に尾鷲を見つけました。

自然保全、オルタナティブ教育、地方創生など、自分が関心を持っていることについて携わることができるため、これより合う仕事はないと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

- ・尾鷲の自然と町を繋げる。
- ・ネットワークスクールを立ち上げる。

活動内容

●紹介①

ローカルコープ構想について、市内だけでなく市外の方にも知っていただくため、ワークショップ等を行うことで関係人口の増加に取り組んでおります。

こちらは今年7月に台湾のオルタナティブスクールが尾鷲へ修学旅行で来た時の写真です。



●紹介②

ゼロカーボンシティの推進のため、九鬼町にある市有林「みんなの森」にて、生物多様性と林業の両立を目指す森づくりを行っています。



連絡先

みんなの森などの
プロジェクトのSNS



基本情報



【年 齢】
47歳
【出身地】
福井県越前市
【転出元】
埼玉県さいたま市
【前 職】
会社員
【活動時期】
R6.4～R9.3

協力隊に応募したきっかけ

首都圏で仕事をしていた30歳頃に将来の働き方・生活スタイルを考え、50歳までにUターンすることを決意しており、仕事の区切りがよいタイミングとなった令和5年度に退職を決意。その後、海と山に近い自然豊かな地方で「地域×教育」をキーワードとし、民間企業以外で地域貢献できる仕事に就きたいと転職活動している中で、京丹後市に運命的な出会いを感じたから。

今後の抱負・任期後の目標

地元の個人・企業・行政との繋がりに加え、地元自治会との繋がりを強め、身近な地区レベルの地域課題解決に取り組める環境づくりと単年度内での取組みから、年度を跨いだ取組み（生徒個人としては3年間、高校としては後輩への継承による長期間）へと発展できる持続可能な仕組みづくりをしたい。
任期終了後は、地元高校OB/OG生が都心部よりUターンした後も、地元で稼ぐ力がレベルアップできる環境・仕組みづくりとともに、10～30代に魅力ある仕事づくりをしたい。

活動内容

●地域とのネットワークづくり

従来の学校教育の視点だけではなく、より多角的な視点で地域資源（ひと・もの・こと）を捉えながら、高校生の意識の変化や興味・気づきを促すために高校と地域の「架け橋」として、高校生・先生と行政や企業、地域の団体や人を適切にマッチングしていくとともに、農・食・観光など高校の学科特性に応じた学びのサポーターづくり。

●探究授業における総合的サポート

探究活動・課題研究活動等における教員にない視点からの提案・支援。具体的には、首都圏で仕事をしてきた経験をもとに、先生達が教えたい思い・技術を肉付けする事例紹介や生徒達の困り事・悩み事解決のきっかけ・後押しとなるアドバイスなど。



●ふたつの学舎（網野、久美浜）の連携促進

ふたつの学舎で学ぶ生徒達が連携して行う活動に対する教員にはない視点からの提案・支援。具体的には、商業科と農業科の合同企画におけるアドバイスやマーケティング授業での全校生徒アンケート実施における学舎間調整など。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

京丹後市 市長公室 政策企画課
(メールアドレス) kikaku@city.kyotango.lg.jp
(電話番号) 0772-69-0120

【活動拠点】

京都府立丹後緑風高等学校（網野学舎・久美浜学舎）

基本情報



【年 齢】
34歳
【出身地】
奈良県奈良市
【転出元】
新潟県上越市
【前 職】
中学校講師、小学校講師
【活動時期】
R5.5～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

中高生世代の学びと育ちの場は、現状とても限定的です。家庭や学校だけでなく、より多様な人からの関わりがあればもっと伸びるであろう子どもたちを前にして、中学校の教員をしていた私自身、悔しい思いをしてきました。学校だからできることがたくさんある一方、学校ではできないこともあります。そして、家族でも先生でもない立場だからこそできることもあります。みんなで中高生世代の育ちを見守り、彼らの可能性を信じることでできる社会に向けた仕事に挑戦したいと思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

ユースセンターは、中高生世代が主役の場所です。大人の思いは一旦横に置いて、ゆっくりじっくり中高生世代と向き合い、彼らの思いを大切にしながら進んでいきたいと思っています。今後はスタッフを増員して、さらにパワーアップした体制でプロジェクトを進めていけたらと考えています。

活動内容

●ユースセンターの運営

ユースセンターの定期開室。現場でのユースワークの他に、企画・営業・経理・広報・役場内外との調整・スタッフ採用・スタッフのマネジメント等、業務全般を行っている。地域を歩き、地域の中高生と積極的にコミュニケーションを取ることで、安心な大人であると思ってもらえるよう活動している。



●まち全体に飛び出した活動

近鉄石見駅前ロータリーにて、高校生を中心にまちの人がゆるやかにつながる「TEENS BASE」の取り組みで、高校生との接点づくりをしている。また、まちのなかを自由に動き回ることでできる移動式屋台「MICHIKUSA STAND」も準備中。



●子どもの居場所部会

担当課の健康子ども課が事務局となっている「子どもの居場所部会」への出席。小中学校、教育委員会、教育支援センター等、子どもにとって居場所となりうるセクターの方々と定期的に集まり、アンケートの実施やそれぞれのセクターでの動きや困りごとなどを共有することで、地域一丸となって子どもについて考え、行動している。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) youth@town.miyake.lg.jp
(電話番号) 0745-43-3580

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(ユースセンター公式Instagram) https://www.instagram.com/miyake_yc/
(三宅町公式note) <https://miyake-town.note.jp/m/m0985a3c8fb2c>

基本情報



【年 齢】
28歳
【出身地】
東京都西東京市
【転出元】
島根県津和野町
【前 職】
幼稚園教諭・保育士
【活動時期】
R5.4～

協力隊に応募したきっかけ

前任の幼児教育コーディネーターが任期満了となり、後任を探しているタイミングで声をかけていただきました。地方への引っ越しは想定外でしたが、SNS等を通して様々な地域の保育者と情報交換をする中で、東京の感覚しか知らない状態は非常に視野が狭いのではないかと考えていた頃でした。「3年間」と期間が決まっていたこと、夫の勤め先がフルリモートでの勤務を認めてくれたことに加え、同年代のインターン者が多いことが最後の後押しとなり、応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

都心の人と地方の人が交わると、互いがもっているものに気づき「あるものを活かそう」という気持ちが生まれることを実感しました。これはどちらか片方のみでなく、両者にとってのメリットであると考えます。未来がどう変わっていくか想定することが難しい今の時代においては、特に子どもの側にいる大人がいかに価値観を広げ、変わっていきけるかが重要なように感じます。様々な場面、場所で、できるところからきっかけ作りを続けたいと思います。

活動内容

●町内保育者向け研修の企画・運営

町内保育士の資質・能力向上のため、様々な研修を企画しています。町内の保育者が行き交う「保育士留学」や県外園への視察、町内保育士全員参加の実践発表会「保育展」など、様々な角度から学べるよう工夫しています。課題に合った研修となるよう、各保育所の定期的な訪問も行っています。



●保育士インターン事業

令和6年8月より地域おこし協力隊のインターン制度を活用し、保育士インターンの受け入れを開始しました。東京や福岡からすでに4名の参加があり、今後も2名が決定しています。各園も負担感なく受け入れており、好評です。参加者の中にはご家族で滞在する方もおり、移住に繋がることを期待しています。



●文部科学省 架け橋プログラムへの伴走

保育所と小学校の連携、接続のための事業である「架け橋プログラム」に2年間携わり、土台作りを行いました。令和6年度で事業としては終了しますが、0歳児からの学びが校種を超えて接続されていくように今後も各所と関係性を作り、外部サポート役として伴走していきます。



youtube

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) yumeno-maie@town.tsuwano.shimane.jp
(電話番号(職場)) 0856-72-0673)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(note) https://note.com/yumeno_maie
(Instagram) @tsuwano_hoiku



note



Instagram

基本情報



【年 齢】
28歳
【出身地】
福岡県福岡市
【転出元】
福岡県福岡市
【前 職】
プラネタリウム解説員
【活動時期】
R5.4～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

以前ご縁があって、小郡市を訪れた時に大きな望遠鏡が設置されたドームの存在を知りました。そこから小郡市について調べると地域には七夕文化が根強く残っていたことを知り、小郡市の地域資源と文化の2つと私のプラネタリウム解説員としての経験を活かして小郡市から天文・宇宙の魅力を発信したいと考え、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域の子どもたちにもっと天文・宇宙の魅力や面白さに気付いてもらいたい、と考えているので継続的な星空観望会の実施や、子ども向けや一般向けの天文講座を開き、天文・宇宙に限らず、科学の広い範囲を扱い、考える人の育成、そして科学リテラシーの向上を目指したい。

任期後については現段階では不明。

活動内容

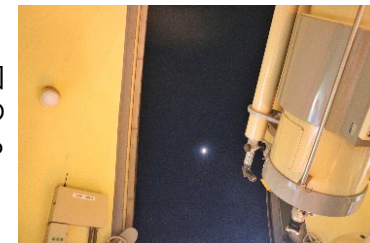
●七夕観望会など子ども向けの天文イベント

小郡市は昔から七夕文化と深い関わりがあるため、伝統的七夕の日に、七夕伝説や七夕にまつわる星座を学び、実際の夜空で見つけてみよう、という会を実施したり、子ども向けの天文講座を開催したりします。



●市民天体観望会

地域の天文スタッフの方々と協力して、毎月1回実施する市民天体観望会に解説役として参加。その季節の星座や惑星、月などを望遠鏡で観測しながら解説をします。



●小郡寺子屋「志学舎」

昨年度（R4）から市の青少年育成事業として始まった、小郡寺子屋「志学舎」に携わっています。未来の日本を担う、次世代のリーダー育成を目的に、小郡市の地域資源である企業や人材を活用した体験活動や企業訪問、スピーチコンテストなどを通して、自分の考えを持ち、行動する人材を育てます。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））koiku@san.bbq.jp
（電話番号（職場））0942-72-2111（内線673）

基本情報



【年 齢】
35歳
【出身地】
福岡県糟屋郡志免町
【転出元】
東京都中野区
【前 職】
建築設計
【活動時期】
R5.4～

協力隊に応募したきっかけ

うきは市の中心部の筑後吉井地区における重要伝統的建造物群保存地区にあっては、集合体としての個性を継承しつつ現代需要に即していくという難しい側面も介在しますが、建築意匠を志す者として、偉大な文化を尊重し、地域固有の生活様式や伝統、造形を学ぶことのできる稀有な題材であり、従事することは多大なる喜びであり、前職の知見等も活かすことができる分野であったため応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

今後の抱負として、地域及び文化に根ざし、産官学連携等の活動を積極的かつ継続的にを行い、自分の専門分野にレバレッジをかける形で、協力隊の活動と経営ビジョンを相乗的に実行できる枠組みを構築します。
建築設計、デザインに関する個人事業主の開業を行い、まちづくり及びプロジェクトマネジメントにおける法人設立を実行いたします。
任期後の目標については、一級建築士事務所設立と上記戦略を軌道に乗せ、うきは市に貢献することです。

活動内容

●ゲストティーチング(小学校)

地域の歴史資源や風土をテーマとして、ゲストティーチングを行っています。イラスト等を効果的に用いることで子どもたちの集中力や好奇心を削がない工夫を行い「なぜ歴史文化を守っていかなければならないか」等を通じて、“子どもたちと一緒にたのしく考える”ことを最重要視しています。



●企画立案、資料作成および戦略策定

伝建、古墳等の歴史的資源の活用、教育関連事業の展開、ワークショップやイベントの企画、調整を行うとともに、ブランディングや持続性を担保させるための戦略策定を中心に行っています。先行上位計画や市史などの既存文献の精査にも力を注いでいます。



●歴史文化資源の維持、保全、活用

一級建築士としての知見を活用し、伝建地区における災害時の巡回、応対や法的与件整理、市発注事業における設計内容の精査、レビュー、イメージ作成等を行なっています。空き家や観光におけるまちづくりに関して、他部署への協力要請にも柔軟な対応行なっています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人 or 職場)) misumi@shareto.design.com
(電話番号(個人 or 職場)) 080 5609 6878
【活動の様子を発信している SNS・ブログなど】
うきはブランド推進隊HP



12 スポーツ

基本情報



【年 齢】
23歳
【出身地】
岐阜県高山市
【転出元】
岐阜県高山市
【前 職】
大学生
【活動時期】
R6.4～

協力隊に応募したきっかけ

大学生の頃に幾度か鳥取を訪れたことがあり、きれいな海が身近にある生活、山もあり自然豊かな場所で地域の野菜や果物美味しいお魚を食べながら暮らしてみたい、と想像が膨らみ鳥取の移住を決断しました。
オンラインで開催された「鳥取県移住相談会」にて、“地域おこし協力隊”について知り、自分が学んだ知識や培ってきた経験を地域活性化と掛け合わせながら活かすことができることに魅力を感じたのと、“暮らし”を体験しながら地域を知ることができると思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

自分自身のスキルアップをしながら、地域を知り、地域住民の「やってみたい、こんな地域にしたい」という声を形に近づけるために“健康づくり”という観点からバックアップをし、地域活性化につなげる活動をする。そして、町内で活動している方々と地域連携をとり、楽しくカラダを動かせるような仕掛けを創造し、湯梨浜町の健康活動を活発にしていきたいと思っています。
任期後については、自分の可能性を広げながら暮らしや自分のスキルに応じた活動を今後考えていきたいと思っています。

活動内容

●健康づくり×町役場

公民館の中にあるトレーニング施設「湯梨浜みんなのげんき館」で、資格を取得しながら運動指導やストレッチ教室、エクササイズのインストラクターをしています。
また、福祉課の職員の方と連携を図りながら、げんき館のPR活動もしています。



●健康づくり×地域

地域活性化推進員の方々と連携を図りながら、公民館などの町民が集まるような場所でストレッチ教室を開催しています。
現在は月に1回ずつ、湯梨浜町の3つの地域に出向いて活動をしています。



●健康づくり×イベント

主に親子を対象としたイベントを開催しています。
子どもの世代、保護者の世代の健康づくりとして、Sport in lifeを目指しながら、親子で一緒に参加できる運動遊びの実施や、様々な運動、スポーツを体験できるような場を設け、健康づくりのきっかけづくりをしていきたいと思っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) miyamaet@yurihama.jp (職場)
(電話番号) 0858-34-3011 (職場：湯梨浜町中央公民館泊分館)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) @tsu_sunsss



@TSU_SUNSSS

基本情報



【年 齢】
23歳
【出身地】
徳島県阿南市
【転出元】
埼玉県坂戸市
【前 職】
大学生
【活動時期】
R6.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

大学時代、駅伝活動を通じて知り合った地域おこし協力隊のOBの方から協力隊の活動について紹介を受けたのが応募のきっかけです。スポーツが大好きな自分にとって、スポーツを通じて地元を活性化するという協力隊の理念に強く共感しました。地元でのスポーツ振興を通じて、地域に活気を与えたいと考えています。

今後の抱負・任期後の目標

今後は、自分がこれまで培ってきた中長距離の強みを活かし、地元で特化型の陸上教室を作ることを目指しています。地域の若い選手たちに専門的な指導を行い、全国で活躍できる選手を徳島県から輩出したいと考えています。協力隊の経験を通じて築いた人脈や学んだスキルを活用し、地域に貢献しながら地元の陸上競技をさらに盛り上げていきたいと思っています。

活動内容

●親子バディバンガード体験

北の脇海水浴場で、親子バディバンガード体験として、2人乗りシーカヤックに親子で乗り込み、ウォーターガンで的を打ち落とすゲームを開催しました。親子が協力し合いながら楽しむ姿が見られ、笑顔が溢れるイベントとなりました。



●西宮スポーツビジネスアカデミー

西宮スポーツビジネスアカデミーで、スポーツを通じた起業の基礎を学びました。自分が今後取り組みたい事業が明確になり、協力隊任期後のビジョンも少し見えてきました。



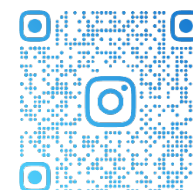
●阿南スポーツフェスティバル2024

地域子どもたちを対象に、様々なスポーツを体験できるイベントを開催しました。様々なスポーツに触れることで、子どもたちの今後のスポーツ活動に励むきっかけを作ります。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) cal542894@gmail.com
(電話番号(個人)) 090-4335-3757

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram QR→



基本情報



【年 齢】
23歳
【出身地】
愛媛県愛南町
【転出元】
東京都文京区
【前 職】
学生（国際武道大学）
【活動時期】
R6.4～R9.3

協力隊に応募したきっかけ

生まれ育った愛南町を運動・スポーツでさらに盛り上げたいという思いがあり応募しました。私は、大学時代に身体構造や運動指導の方法などについて学び、特に地域で長年続いている体操教室や介護施設などでの運動指導について専門的に学びました。

大学で学んだことを生かし、各種スポーツ活動を通じて幅広い年齢層の方と交流し、愛南町の地域活性化に繋がる活動を展開していきたいと考えています。

今後の抱負・任期後の目標

スポーツ施設における各種教室に関することや豊富な観光資源等を活用した海洋性スポーツの実践的な活動をしていきたいです。既存の活動をさらに盛り上げていくとともに一つ一つの活動の枠組みを超えた横断的な活動になるよう努めていきたいです。

また、中学・高校における部活動の地域移行に関わり地域特有の運動が学生に提供できるよう指導者の確保や指導方法を試行錯誤していきたくと考えています。

活動内容

●水泳教室

競技力向上や健康維持などを目的に、幼児から成人までが週に1回通会しています。その中で私は、自由形（クロール）と平泳ぎ、競技力向上をメインに指導しています。活動として、他の指導員と協力しながら、会員1人1人の指導の柱を設定し、共有することで課題解決につながる指導になるよう取り組んでいます。



●B&G財団 海洋クラブ

週に1回程度、夏はカヌーやヨット、スタンドアップパドルなどのマリンスポーツ、冬は室内レクリエーションやスキー、スケートなど様々な運動に取り組むクラブです。町民が様々な運動に触れ、少しでも興味を持ってもらえるよう日々活動しています。1人でも多く参加してもらうため、知名度を上げ参加を促していきます。



●地域住民対象健康体操

地域住民を対象に、健康維持を目的として体を動かす教室を指導しています。B&Gに参加者が集まり週2回、陸上運動と水中運動を各40分計80分の体操を指導しています。また、地区の集会所を利用して陸上運動を1時間ほど出前指導も行い、地域の方々との交流も大切にしています。参加者の中には、腰痛や肩が上がりにくいなどの悩みを抱えている方もいるため、解決できる運動プログラムを考え指導しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（職場）） bg-chiikiokoshi@town.ainan.ehime.jp

（電話番号（職場）） 0895-72-1117

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（Instagram）ユーザー名「koki_sports」



@KOKI_SPORTS

13 事業承継

基本情報



【年 齢】
36歳
【出身地】
宮城県仙台市
【転出元】
宮城県仙台市
【前 職】
クリエイター
【活動時期】
R5.6～

協力隊に応募したきっかけ

奥州市出身のパートナーから「Uターンを考えている」と話があり、2022年開催の「創業塾in奥州市」に参加した際、南部鉄器の地域おこし協力隊の話を伺い、興味を持ちました。さらに、その後も企業振興課と都市プロモーション課の方々に工房見学や市内をご案内いただく中で「国内外への情報発信や美大や工業大学の学生へのアプローチなどで、南部鉄器の魅力はもちろん次世代の担い手を工房と繋げるお手伝いができないか」と思い、応募させていただきました。

今後の抱負・任期後の目標

次世代の担い手と成り得る人材や教育機関との連携をより強固とする関係人口交流事業を工房や組合、行政の皆様と協働していけたらと思っています。任期後は、組合と行政機関から委託事業として学生インターン事業での企業と担い手向けのシェアハウスや地域住人の愛着心向上と雇用創出のための南部鉄器カフェ（2024年9月28日オープン）でも南部鉄器のレンタル事業を展開していきたいです。

活動内容

●南部鉄器のPR

- 1) 「鉄瓶婆（てつびんばあ）」
白湯提供パフォーマンス。おいしさや美と健康を愉しむ「南部鉄瓶の白湯」と南部鉄器の手軽さを周知
- 2) 伝統産業会館のリニューアル企画提案
学芸員資格を活用して、博物館に並ぶ「学びの場」としての機能強化と設備の充実を提案



●南部鉄器カフェ「鐵喫茶a-hūm（てつきっさ あうん）」

水沢羽田地区に唯一残っていたスナック喫茶を事業承継し、奥州市民の南部鉄器に対する愛着心向上、地域住民と観光客の交流促進、南部鉄器職人たちの憩いの場として起業。2024年9月28日にグランドオープン。

メニューは南部鉄器を使用したもつ鍋やナポリタン、鉄瓶の白湯で淹れたコーヒーや煎茶などが楽しめる。



●学生インターン

南部鉄器の製造における関係交流人口増加と後継者育成の持続化を目的に、奥州市内の高校、ものづくり・美術大学の学生に、南部鉄器への愛着と関心を持たせるための職業教育の一環として、産官学連携での有償インターンシップ制度を構築する。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）a.hum20240928@gmail.com
（電話番号（個人））080-5645-6795
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（鉄瓶婆）https://www.instagram.com/tetsubim_baba/
（鐵喫茶a-hūm）https://www.instagram.com/nanbutekkicafe_ahum/

基本情報



【年 齢】
24歳
【出身地】
宮城県仙台市
【転出元】
宮城県仙台市
【前 職】
大工
【活動時期】
R6.2～R9.1

協力隊に応募したきっかけ

小さい頃から観光漁業を見る機会があり、チャレンジしてみたい事業の一つでした。

また、利府町の漁業が衰退していると聞き、昔ながらの漁業を継承し次の世代に受け継いでいきたい思いがあり、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

活動内容にある、3つの活動を引き続き継続していきたいと思います。

任期後は、継承した技術を生かし、利府町の漁業を守っていきたいです。

活動内容

●漁業継承のための活動

利府町の漁業の後継者が不足しているなか、自分たちが今後担っていくべく、ワカメや海苔、牡蠣漁師さんのお手伝いをしながら、昔ながらの漁法を教えてもらい、技術を習得しています。



●環境保全活動

観光資源となる無人島や、漁港のクリーン活動を行い、環境保全活動にも力を入れています。



●海洋教育

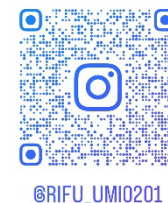
小学生や子どもたち向けのタッチプールイベント（生きている魚などに触れることのできるイベント）などを通して、海に親しみ、海を守ることの大切さを学ぶ「海洋教育」を行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））ryumin0106@gmail.com
（電話番号（個人））080-6293-5219

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）



@RIFU_UMI0201

基本情報



【年 齢】
34歳
【出身地】
長崎県長崎市
【転出元】
長崎県長崎市
【前 職】
フリーター
【活動時期】
R4.4～

協力隊に応募したきっかけ

地域の伝統工芸と宿泊業が後継者不足問題に直面していることを知り、自身の好奇心とミッションが重なっていたので応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期終了後も定住するために収入の基盤を整えてきたので、しっかり自立できるよう残りの任期を有効に全うしたいです。伝統工芸面では年内に都心部での展示を予定しているため現在そのために作品を制作中。宿泊業では来春からの本オープンを目指し整備中。

活動内容

●作品展示実施

個人の展示もですが、現在注力しているのが地元の作家6人で構成された工芸グループでの活動です。昨年は百貨店の美術サロンで展示を開催した他、今年は仙台、東京での展示を実施します。一丸となって地域の魅力を発信しています。



●山葡萄つる細工講習

後継者育成のために地元でつる細工講習を実施しています。個人ではなかなか大変ですが自治体も一緒になって取り組んでいるため参加者に満足してもらえる講習を実施することができています。



●ゲストハウス

本オープンは来春ですが現在も時々宿泊者を受け入れて営業しています。ゆくゆくは宿泊して伝統工芸の体験をできるような滞在経験をやっていけたらと考えています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人or職場)) itohiroshi0228@gmail.com
(電話番号(個人or職場)) 09018568949

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(HP) koguma-o.com

基本情報



【年 齢】
34歳
【出身地】
福岡県久留米市
【転出元】
福岡県久留米市
【前 職】
飲食業
【活動時期】
R6.6～

協力隊に応募したきっかけ

長年、飲食業に従事する中で包丁に興味を持っていました。とりわけ近年のインバウンド需要の高まりを受け、外国人観光客に日本の包丁が人気であることを知り、彼らにより丁寧に日本の包丁や鍛冶の文化を説明できるよう、改めて勉強する機会を探していたところ、地域おこし協力隊の活動を知りました。単に伝統技術について教えるだけでなく、こちらからも接客業での経験も活かして貢献できるのではと考え、応募をしました。

今後の抱負・任期後の目標

三条鍛冶道場に常駐する元職人の指導員さんや、活動を支援する現役職人の皆さんは、ものをつくる大先輩ではありますが、一般人への体験指導は試行錯誤を重ねている状況です。鍛冶技術を教えていただきながら、自分の接客業や海外滞在での経験を生かして、より魅力的な体験講座を構築していきたいです。特に、海外の方により興味を持ってもらえる工夫を重ねていきたいです。任期後には、特に海外の方に向けて、日本の鍛冶技術を発信できれば面白いと思っています。

活動内容

●三条鍛冶道場 常設講座の改善

三条鍛冶道場では従前から、鍛冶の世界の入口を身近に体験してもらうため3種類の常設講座を実施しています。海外観光客を中心に、より鍛冶の魅力が伝わるにはどうすればよいか、日々、試行錯誤を繰り返して工夫しています。また、高齢化が進む指導スタッフ補充のため、育成方法を検討しています。



●三条鍛冶道場 鍛冶技術体験イベント講座運営の支援

三条鍛冶道場では現役鍛冶職人を講師に迎え、本格的な鍛冶技術を体験できるイベントを実施しています。これらの鍛冶技術は一朝一夕で身に付くものではありませんが、運営補助をしながら技術を学び、新しい講座のヒントを探るとともに、技能継承を受ける目線から職人育成の課題を掘り下げています。



●三条鍛冶道場 新規講座の開発

常設講座の体験者や、指導に来る鍛冶職人など、多くの人の意見を聞きながら、より魅力的な新しい鍛冶体験講座が出来ないか検討を進めています。現在、常設の包丁研ぎ体験と、イベント的な包丁づくり体験の中間的な包丁の仕上げ体験の可能性を具体的に検討しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) kaji@city.sanjo.niigata.jp
(電話番号(職場)) 0256-34-8080

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
note 三条で暮らす。
<https://sanjo-city.note.jp/m/mebbc070894b4>

基本情報



【年 齢】
35歳
【出身地】
千葉県我孫子市
【転出元】
千葉県我孫子市
【前 職】
個人事業主（飲食店経営、料理、絵画制作）
【活動時期】
R4.12～R7.11

協力隊に応募したきっかけ

応募理由は移住と手漉き和紙の2点。以前新聞記者として働いていた頃、協力隊への取材経験が多かったこともあり、地方への移住を視野に入れたときに協力隊という選択肢への理解があったこと。同時に、絵画制作を行う中で関心の強かった手漉き和紙の世界に飛び込んでみたいという気持ちがあった。長和町にある「立岩和紙の伝承」の協力隊募集の記事を目にする。立岩和紙について調べてもなかなか出てこず、直接現地に行きいろんな方から話を聞くも生産、販売、伝承の枠組みなどの実態が把握できずにいた。そんな現状の中で募集が行われていることの不思議さと、いっそ身を置いて確かめてみるしかないという好奇心に駆られ応募に踏み切った。

今後の抱負・任期後の目標

手漉き和紙の技術的な研鑽はもちろん、和紙の可能性を追求しながら伝承活動を持っていく。和紙作りをはじめ、創作和紙や加工物の製作、作品制作などを通して引き続き取り組み、まずは知っていたためにPR等にも力をいれる。同時に、閉鎖的な形で維持されてきたゆえに立岩和紙をめぐる現状には多くの課題がある。私が率先して行動に起こし、多くの人に理解をいただきながら課題解決にもあたりたい。手漉き和紙という文化的な価値は町にとどめるだけでなく広域的に創造していける財産と捉え、近隣市町村を巻き込むような活動も引き続き行う。任期後は伝承の担い手としての役割を担うためにも、町の工房を利用した独立型の職人兼作家を目指す。

活動内容

●立岩和紙の伝承

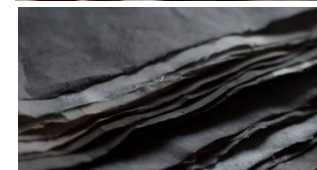
和紙の里にある工房を利用した和紙作りをはじめ、保存会活動への参加、地元産楮の栽培・収穫活動などにも取り組み活動にあっている。現在では仕込みから紙漉き、乾燥までの全工程を一人で行う。歴史的経緯や工房の状況を踏まえ、冬場を中心に和紙作りに励み、合わせて和紙の原料を仕込む工程の明確化（データの保存と写真による記録）、楮の収量の確保への取り組み、他産地へ出向いて老朽化した道具や技術に関する情報収集などにもあたっている。



●創作的な実験、可能性の追求と関係構築

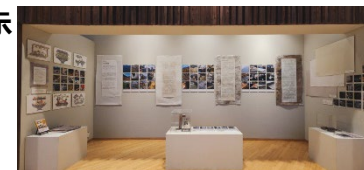
紙漉き屋が途絶えて50年近く経つ。大正～昭和にかけて生産があった「立岩和紙」といえば障子紙」という印象がいまだに残る。伝承させていくためにも、手漉き和紙という一つの素材の魅力を制限することなく、現代にあわせた形で発展させることが不可欠だと捉え、創作的な和紙作りや加工、レイアウトでの活用などに積極的に取り組み、町内のマーケットや県外での展示活動などへ参加。

また、近隣農家や大学などに協力いただき、廃棄や肥料にまわる食材や異素材を漉きこんだ和紙（葡萄和紙やトマト和紙）などの試作制作や授業での和紙の活用、講義への参加などにも取り組み、外の方たちとの関係構築にも努めている。



●発信・PR 上田市立美術館サントミュージゼでの特別展示

サントミュージゼで開催されている『第9回山本鼎版画大賞展』で「立岩和紙賞」が新設。受賞者への贈呈用和紙の制作と、大賞展期間にあわせて開催されている立岩和紙の特別展示についての内容や設営も含め、そのすべてを担当した。



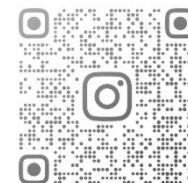
連絡先

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス sasaki-s@town.nagawa.nagano.jp
電話番号 0268-88-0030（長和町教育課文化財係・歴史館）

【活動の様子を発信しているSNS】

Instagram @mershun



基本情報



【年 齢】
46歳
【出身地】
三重県東員町
【転出元】
岐阜県各務原市
【前 職】
鍼灸院経営
【活動時期】
R4.8～R7.7

協力隊に応募したきっかけ

田舎に憧れていたことが大きな理由です。田舎で暮らしている人たちの生きた知恵や技術を学びたかったし、子どもの教育環境を考えたときに、自然と向かい合っていて遊んで成長してほしいという思いもありました。コロナ禍で患者様が減っていき、鍼灸院の経営をどうしようかなと思っていた時にちょうど募集があったので応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期終了後は、今やっている製炭と鍼灸をやっていこうと考えています。製炭は択伐で環境保持に貢献できる他、炭そのものの魅力もあります。また、炭焼き職人が少しでも増えたらいいと思います。そのためにも広報活動や販路開拓にも力を入れていきたいです。

活動内容

●協力隊活動について

伝統文化である時山炭（ときやまずみ）製炭の継承が主な任務です。地元住民によって発足された時山炭保存会に支えられ、師匠に教わりながら時山炭を作っています。炭づくりは木を切って、割ったり整えたりして、木を並べて、火を焚いて、煙を観察して蓋をします。たくさんの工程があって奥が深いのでやっていて面白いです。令和5年には炭窯造りもしました。その他に広報・販売などもしています。もともと炭づくりに興味があったわけではなく、師匠達の勇姿に刺激を受け、憧れになりました。やっていくうちにだんだんと時山炭の魅力にハマっていきました。

第一目標は、一人で炭を作れるようになり自活できること。第二目標は、24時間燃え続けるチンチン炭をつくること。第三目標は、択伐し山に風と光を入れて元気な森にすること。

また、活性炭・炭染め・炭石鹸作りなどいろいろなことができるといいなと思っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人or職場)) k_chiikiseisaku@city.ogaki.lg.jp
(電話番号(個人or職場)) 0584-45-3113(上石津地域事務所地域政策課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(上石津まちづくり協議会HP) <http://kamiishizu.sakura.ne.jp/life/archives/21>

基本情報



【年 齢】
27歳
【出身地】
大阪府東大阪市
【転出元】
大阪府東大阪市
【前 職】
観光農園
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

大学在学中の就職活動で就農に関するイベントへ参加し、香美町のブースで話を聞いたのち、収穫体験へ参加しました。

出身地である大阪から意外と近い場所で梨を栽培していることを知り、もともと梨が好きだったことや独立して観光農園を立ち上げたいと感じたことから、香美町の地域おこし協力隊へ応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

残りの任期で、香美町の特産である「香住梨」の生産技術をしっかり継承し、任期後は香美町内で観光農園を目指し農家として独立したいと考えています。

活動内容

●香美町の梨栽培技術継承

同じ梨でも気候や土地が違えば、作業の内容や時期が変わっていくため、継承する園の園主さんの後ろについて回り、作業のタイミングや考え方、その技術を二年間学びました。任期最後の今年は学んだことを使い、一人で栽培管理を行い、立派な梨を収穫することができました。



●就農フェア

高齢化で年々農家さんが辞めていく現状で産地を守っていくために新規就農者を増やすマイナビ農林水産FESTに参加したりしています。実際の作業の内容などをお話ししたり、インターンシップ制度を案内して、一緒に梨づくりをしてくれる仲間を募集しています。



●新樹形実証地の管理

香美町では、但馬一号という香美町で生まれた新しい品種があり、その糖度が高いものを「なしおとめ」という名前で販売しています。その品種を省力化樹形であり、早期成園化を図ることができる流線形仕立てに仕立てたモデル園を管理し、調査のお手伝いや新しい技術の習得をしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) fukufuku10109@outlook.jp

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(SNS:X)
<https://x.com/6Ryq9kicmSIfu6h?t=dtMzNG4C9CHs30nGhtyjJQA&s=09>

基本情報



【年 齢】
47歳
【出身地】
愛知県
【転出元】
愛知県
【前 職】
派遣アルバイト
【活動時期】
R6.5~R8.4

協力隊に応募したきっかけ

友達と旅行中、訪れた三原村の農家民宿へ宿泊をした。その時食べたお米とどぶろくのおいしさがとても印象に残り、三原村の空気、風、水、流れる清流、夜空の星、気候など、すべてが三原村を気に入るきっかけとなりました。その後、気になってはいたもののなかなか移住に踏み切れずいたところ、地域おこし協力隊で、どぶろくの後継者募集のホームページが目にとまり、インターンの受け入れを行っているとのことで、すぐに希望しました。2週間の受け入れが終わり、やっぱり三原村でどぶろく作りがしたいという意思が固まったため、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

もちろんどぶろく作りは継承したいですが、お米作りや、柑橘系（ゆずや直七等）の植え付け、栽培に至るまで等、田舎でしかできないことをたくさん挑戦していきたい。

活動内容

●どぶろくの後継者育成

毎日、「土佐三原どぶろく合同会社」に出勤し、後継者となれるよう日々努めている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】三原村役場
(メールアドレス(個人or職場)) shinkou@vill.mihara.lg.jp
(電話番号(個人or職場)) 0880-46-2111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】QRコードも可
(現在特になし)

基本情報



【年 齢】
20歳
【出身地】
神奈川県横浜市
【転出元】
神奈川県横浜市
【前 職】
造園業
【活動時期】
令和6年 7月1日～

協力隊に応募したきっかけ

以前から「球磨川くだり」に興味があったので人吉市を観光し乗船した際に、船頭さんから水害後ほとんどの船頭が辞めてしまい担い手不足になっており、今後続けられないかもしれないことを聞き、やるせない気持ちになりました。自分にも何かできることはないかと考えインターネットで調べたところ、地域おこし協力隊の募集を見つけ、100年以上の歴史を持つ「球磨川くだり」の伝統を引き継ぎ、たくさんの人にこの魅力を伝えたいと考え応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

○今後の抱負

任期である3年までに球磨川遊覧船「梅花の渡し」を1人で漕げるようになりたい。

○任期後の目標

さらに経験を積み「艦張（ともはり）」だけでなく「船頭」を目指していきたい。

※球磨川くだりは熟練の船頭2人で運航します。船首担当を「船頭」、船尾担当を「艦張（ともはり）」と呼びます。

活動内容

●船頭になるための練習

船尾の櫓漕ぎによる安定した推進力及び操船が出来るように、平常時の安定した水位と流れの日に操船練習を行っています。

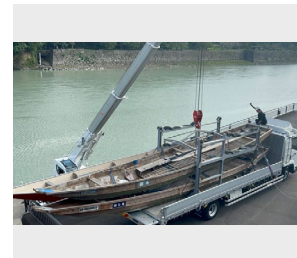
また、操船に必要な基本的知識や船の構造及びある程度の修理方法も学んでいます。



●船の積み降ろし作業

クレーンで積み込んだ船を川に降ろし、次の出航に備える作業補助を行っています。

今後は、大型特殊免許等の資格取得にもチャレンジし、業務内容の幅を広げていきたいと考えています。



●乗船受付や観光案内

船頭職として重要な乗務員マナーを身に付けるために、乗船受付や案内、乗船説明を行っています。

また、地域おこし協力隊（観光分野）として、人吉球磨地域の観光案内も行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

連絡先 球磨川くだり株式会社

TEL 0966-22-5555 FAX 0966-24-8174 E-mail : info@kumagawa.co.jp

基本情報



【年 齢】
50歳
【出身地】
愛知県
【転出元】
埼玉県鴻巣市
【前 職】
美容業界の
コンサルティング等
【活動時期】
R4.11～R6.10（2年間）

協力隊に応募したきっかけ

美容業界のフランチャイズ展開事業に携わっていたのですが、知人の社長から会社を継いで欲しいという案件が2件舞い込んできました。

どちらかの会社を継ぐことを考えましたが、この時「事業承継」というワードを意識しはじめました。

そんな中、インターネットで「継業サッチャー」募集の記事を発見し、日南市でなら自分のスキルを活用して、面白いこと、インパクトのある事業ができるのではと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

人口5万人以下の日南市で、市役所の皆さんの協力のもと「自治体と連携して事業承継の支援ができる仕組み」を構築してきました。

これを持続可能なものにするため、マネタイズ機能を持たせることはもちろん、「マチ」全体で事業承継できる環境づくりを行いたいです。

この事業承継モデルを活用し、廃業を減らすことで市民の満足度低下を防ぎ、ひいては地域活性化の1つとして機能するよう情熱を注ぐつもりです。

活動内容

●事業承継案件の掘り起こし

市内の飲食店をはじめとする小規模事業者を訪問し、事業承継カルテを作成することで、事業承継に対して「待ち」ではなく積極的なアプローチを行った。

店舗の稼働率や価格設定などから、経営状況を分析。経営者の年齢や後継者の有無など、情報を集約したカルテをもとに、事業承継案件の掘り起こしを行っている。

●事業承継ネットワークの構築

事業承継案件に対して、市、商工団体、金融機関、事業承継支援機関などの関係団体と連携し、同時にアプローチすることで円滑な事業承継を図るため、事業承継に関するネットワークを構築。

※行政と金融機関は業務連携に関する覚書を締結。

●事業承継の啓発

小規模事業者に対し、事業承継に関する啓発や、制度・支援の周知を図る。



事業者に対する継業サッチャーのチラシを作成。
店舗等への配布や、金融機関窓口を設置。

●現在の取組

協力隊を退任後、「株式会社ネオツグ」を設立し、事業承継支援のプラットフォーム運営を行う傍ら、自らも事業承継し、弁当配達・カフェの経営を行っている。

連絡先

(ホームページ) <https://neotsugu.jp>

(電話番号) 070-6410-2106